

TOSHIBA

**TOSHIBA TX03 ペリフェラルドライバ
ユーザーガイド
(TMPM381/383)**

第 0.102 版
2017 年 9 月

東芝デバイス&ストレージ株式会社

CMDR-M381UG-00xJ

本製品取り扱い上のお願い

- ソフトウェア使用権許諾契約書の同意無しに使用しないで下さい。

目次

1.	はじめに	1
2.	TX03 ペリフェラルドライバの構成.....	1
3.	ADC	2
3.1	概要	2
3.2	API 関数.....	2
3.2.1	関数一覧.....	2
3.2.2	関数の種類	2
3.2.3	関数仕様.....	3
3.2.4	データ構造	11
4.	CG.....	13
4.1	概要	13
4.2	API 関数.....	13
4.2.1	関数一覧.....	13
4.2.2	関数の種類	13
4.2.3	関数仕様.....	14
4.2.4	データ構造	31
5.	FC.....	48
5.1	概要	48
5.2	API 関数.....	48
5.2.1	関数一覧.....	48
5.2.2	関数の種類	48
5.2.3	関数仕様.....	49
5.2.4	データ構造	54
6.	FUART.....	55
6.1	概要	55
6.2	API 関数.....	55
6.2.1	関数一覧.....	55
6.2.2	関数の種類	56
6.2.3	関数仕様.....	56
6.2.4	データ構造	66
7.	GPIO.....	68
7.1	概要	68
7.2	API 関数.....	68
7.2.1	関数一覧.....	68
7.2.2	関数の種類	68
7.2.3	関数仕様.....	69
7.2.4	データ構造	81
8.	OFD	83
8.1	概要	83
8.2	API 関数.....	83
8.2.1	関数一覧.....	83
8.2.2	関数の種類	83
8.2.3	関数仕様.....	83
8.2.4	データ構造	86
9.	RMC.....	87
9.1	概要	87
9.2	API 関数.....	87
9.2.1	関数一覧.....	87
9.2.2	関数の種類	87
9.2.3	関数仕様.....	88
9.2.4	データ構造	95
10.	RTC	97
10.1	概要	97

10.2	API 関数.....	97
10.2.1	関数一覧.....	97
10.2.2	関数の種類.....	98
10.2.3	関数仕様.....	98
10.2.4	データ構造.....	115
11.	SBI.....	117
11.1	概要.....	117
11.2	API 関数.....	117
11.2.1	関数一覧.....	117
11.2.2	関数の種類.....	117
11.2.3	関数仕様.....	118
11.2.4	データ構造.....	123
12.	SSP.....	125
12.1	概要.....	125
12.2	API 関数.....	125
12.2.1	関数一覧.....	125
12.2.2	関数の種類.....	126
12.2.3	関数仕様.....	126
12.2.4	データ構造.....	134
13.	TMRB.....	136
13.1	概要.....	136
13.2	API 関数.....	136
13.2.1	関数一覧.....	136
13.2.2	関数の種類.....	137
13.2.3	関数仕様.....	137
13.2.4	データ構造.....	145
14.	SIO/UART.....	148
14.1	概要.....	148
14.2	API 関数.....	148
14.2.1	関数一覧.....	148
14.2.2	関数の種類.....	149
14.2.3	関数仕様.....	149
14.2.4	データ構造.....	162
15.	VLTD.....	165
15.1	概要.....	165
15.2	API 関数.....	165
15.2.1	関数一覧.....	165
15.2.2	関数の種類.....	165
15.2.3	関数仕様.....	165
15.2.4	データ構造.....	166
16.	WDT.....	167
16.1	概要.....	167
16.2	API 関数.....	167
16.2.1	関数一覧.....	167
16.2.2	関数の種類.....	167
16.2.3	関数仕様.....	167
16.2.4	データ構造.....	170

1. はじめに

本製品は、東芝TX03シリーズマイコン用ペリフェラルドライバセットです。TMPM38xペリフェラルドライバは、東芝TX03ペリフェラルドライバのTMPM38xシリーズMCU用です。

TX03 ペリフェラルドライバでは、ユーザーアプリケーション内で各ペリフェラルを簡単に使用するためのマクロ、データ構造、関数および使用例を用意しています。

TMPM38x ペリフェラルドライバは以下の仕様に基づいています。

- スタートアップルーチンといくつかの関数を除き、C 言語で記述されています。
- すべての周辺機能をカバーしています。

注: 以降、TMPM38xはTMPM381/383を表します。

2. TX03 ペリフェラルドライバの構成

/Libraries

TX03 CMSIS ファイルと TMPM38x ペリフェラルドライバが格納されています。

/Libraries/TX03_CMSIS

このフォルダには TMPM38x CMSIS ファイルのデバイス・ペリフェラル・アクセス・レイヤーが格納されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver

TMPM38x ペリフェラルドライバの全てのソースコードが格納されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc

TMPM38x ペリフェラルドライバのヘッダファイルが格納されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src

TMPM38x ペリフェラルドライバのソースファイルが格納されています。

/Project

TMPM38x ペリフェラルドライバのテンプレートプロジェクトと使用例が格納されています。

/Project/Template

TMPM38x ペリフェラルドライバのテンプレートプロジェクトが格納されています。

/Project/Examples

TMPM38x ペリフェラルドライバの使用例が格納されています。

/Utilities/TMPM38x-EVAL

TMPM38x ボードのハードウェアリソース用の設定ファイル、およびドライバファイル (例: led, key) が格納されています。

3. ADC

3.1 概要

本デバイスは、12/10(選択可能)ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバータ(AD コンバータ)を内蔵しています。

TMPM383 はアナログ入力を 10 チャンネル(AIN0~AIN9)内蔵し、TMPM381 はアナログ入力を 18 チャンネル(AIN0~AIN17)内蔵しています。

機能と特徴:

- (1)TMRBからのトリガ信号に同期して任意のアナログ入力を変換することができます。
- (2)ソフトウェア起動、常時起動において任意のアナログ入力を変換する事ができます。
- (3)AD 変換値レジスタが12 個あります。
- (4)TMRBのトリガ起動によるプログラム終了時に割り込みを発生できます。
- (5)ソフトウェア起動、常時起動によるプログラム終了時に割り込みを発生できます。
- (6)AD 監視機能があります。有効時に比較条件と一致した場合は割り込みを発生します。

ADCドライバ API は、各モジュールの設定機能を持ち、チャンネル選択、モード設定、モニタ機能設定、割り込み設定、ステータスリード、AD 変換結果の取得などの機能を提供します。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。
/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_adc.c
/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_adc.h

3.2 API 関数

3.2.1 関数一覧

- ◆ void ADC_SetClk(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, uint32_t **Sample_HoldTime**,
uint32_t **Prescaler_Output**)
- ◆ void ADC_SetResolution(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, ADC_Resolution **ADBits**)
- ◆ ADC_Resolution ADC_GetResolution(TSB_AD_TypeDef * **ADx**)
- ◆ void ADC_Enable(TSB_AD_TypeDef * **ADx**)
- ◆ void ADC_Disable(TSB_AD_TypeDef * **ADx**)
- ◆ void ADC_Start(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, ADC_TrgType **Trg**)
- ◆ void ADC_StopConstantTrg(TSB_AD_TypeDef * **ADx**)
- ◆ WorkState ADC_GetConvertState(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, ADC_TrgType **Trg**)
- ◆ void ADC_SetLowPowerMode(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC_SetMonitor(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, ADC_MonitorTypeDef * **Monitor**)
- ◆ void ADC_DisableMonitor(TSB_AD_TypeDef * **ADx**, ADC_CMPCRx **CMPCRx**)
- ◆ ADC_Result ADC_GetConvertResult(TSB_AD_TypeDef * **ADx**,
ADC_REGx **ResultREGx**)
- ◆ void ADC_SetTimerTrg(TSB_AD_TypeDef * **ADx**,
ADC_REGx **ResultREGx**, uint8_t **MacroAINx**)
- ◆ void ADC_SetSWTrg(TSB_AD_TypeDef * **ADx**,
ADC_REGx **ResultREGx**, uint8_t **MacroAINx**)
- ◆ void ADC_SetConstantTrg(TSB_AD_TypeDef * **ADx**,
ADC_REGx **ResultREGx**, uint8_t **MacroAINx**)

3.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

- 1) AD 変換設定:
ADC_SetClk(), ADC_SetResolution(), ADC_SetMonitor(), ADC_DisableMonitor(),
DC_SetTimerTrg(), ADC_SetSWTrg(), ADC_SetConstantTrg()
- 2) AD 機能の有効/無効、変換開始/停止:
ADC_Enable(), ADC_Disable(), ADC_Start(), ADC_StopConstantTrg()
- 3) AD 変換ステータス/結果の読み出し:
ADC_GetResolution(), ADC_GetConvertState(), ADC_GetConvertResult()
- 4) その他:
ADC_SetLowPowerMode()

3.2.3 関数仕様

3.2.3.1 ADC_SetClk

AD 変換サンプルホールド時間とプリスケアラ出力の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetClk(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
           uint32_t Sample_HoldTime,  
           uint32_t Prescaler_Output)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

Sample_HoldTime: 以下から ADC サンプルホールド時間を選択します。

➤ **ADC_HOLD_FIX**: TSH<0:3>へ“1001b”をライトします。

Prescaler_Output: 以下から ADC プリスケアラ出力(ADCLK)を選択します。

➤ **ADC_FC_DIVIDE_LEVEL_NONE**: fc

機能:

Sample_HoldTime で ADC サンプルホールド時間を設定し、**Prescaler_Output** でプリスケアラ出力を設定します。

戻り値:

なし

3.2.3.2 ADC_SetResolution

12bit/10bit 分解能モードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetResolution(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                  ADC_Resolution ADBits)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

ADBits: 12bit/10bit 分解能モードを選択します。

➤ **ADC_10BITS**: 10bit

➤ **ADC_12BITS: 12bit**

機能:

12bit/10bit 分解能モードを選択します。初期設定時に本 API をコールしてください。
電源投入後の初期状態は 12bit 分解能です。

戻り値:

なし

3.2.3.3 ADC_GetResolution

12bit/10bit 分解能モードの選択状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

ADC_Resolution

ADC_GetResolution(TSB_AD_TypeDef * **ADx**)

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

機能:

12bit/10bit 分解能モードの選択状態を取得します。

戻り値:

12bit/10bit 分解能モードの選択状態:

ADC_10BITS: 10bit

ADC_12BITS: 12bit

3.2.3.4 ADC_Enable

AD 変換の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void

ADC_Enable(TSB_AD_TypeDef * **ADx**)

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

機能:

AD 変換を許可します。

戻り値:

なし

3.2.3.5 ADC_Disable

AD 変換の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_Disable(TSB_AD_TypeDef * ADx)  
t
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

- **TSB_AD**

機能:

AD 変換を禁止します。

戻り値:

なし

3.2.3.6 ADC_Start

AD 変換の開始

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_Start(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
          ADC_TrgType Trg)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

- **TSB_AD**

Trg: 以下からトリガタイプを選択します。

- **ADC_TRG_SW:** ソフトウェア変換
- **ADC_TRG_CONSTANT:** 常時 AD 変換

機能:

選択したトリガタイプで AD 変換を開始します。

戻り値:

なし

3.2.3.7 ADC_StopConstantTrg

通常起動時の AD 変換停止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_StopConstantTrg(TSB_AD_TypeDef * ADx)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

- **TSB_AD**

機能:

通常起動時の AD 変換を停止します。

戻り値:

なし

3.2.3.8 ADC_GetConvertState

AD 変換状態の確認

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

```
ADC_GetConvertState(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                    ADC_TrgType Trg)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

Trg: 以下から起動方法を選択します。

➤ **ADC_TRG_SW**: ソフトウェア起動

➤ **ADC_TRG_CONSTANT**: 常時 AD 変換

➤ **ADC_TRG_TIMER**: タイマからのトリガ信号

機能:

指定された起動方法にて AD 変換状態を確認します。

戻り値:

AD 変換状態:

BUSY: 変換中

DONE: 停止

3.2.3.9 ADC_SetLowPowerMode

AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流制御

関数のプロトタイプ宣言:

void

```
ADC_SetLowPowerMode(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                    FunctionalState NewState)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

NewState: 以下から、AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流を制御します。

➤ **DISABLE**: リセット時以外常時通電

➤ **ENABLE**: 変換中のみ通電

機能:

AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流を制御します。

戻り値:

なし

3.2.3.10 ADC_SetMonitor

AD 監視機能の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetMonitor(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
               ADC_MonitorTypeDef * Monitor)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

Monitor: 構造体の詳細は以下です。

```
typedef struct {  
    ADC_CMPCRx CMPCRx;  
    ADC_REGx ResultREGx;  
    uint32_t CmpTimes;  
    ADC_CmpCondition Condition;  
    uint32_t CmpValue;  
} ADC_MonitorTypeDef  
詳細は後述の“データ構造:”を参照してください。
```

機能:

ADC_MonitorTypeDef * **Monitor** で AD 監視設定を行い、有効にします。

戻り値:

なし

3.2.3.11 ADC_DisableMonitor

AD 監視機能の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_DisableMonitor(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                   ADC_CMPCRx CMPCRx)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

CMPCR_x: 比較制御レジスタを選択します。

➤ **ADC_CMPCR_0**: ADCMPCR0

➤ **ADC_CMPCR_1**: ADCMPCR1

機能:

CMPCR_x で無効にする AD 監視機能を選択します。

戻り値:

なし

3.2.3.12 ADC_GetConvertResult

AD 変換結果の読み出し

関数のプロトタイプ宣言:

ADC_Resul

ADC_GetConvertResult(TSB_AD_TypeDef * **ADx**,
ADC_REGx **ResultREGx**)

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

ResultREGx: 以下から、AD 変換結果レジスタを選択します。

- **ADC_REG0**: ADREG0
- **ADC_REG1**: ADREG1
- **ADC_REG2**: ADREG2
- **ADC_REG3**: ADREG3
- **ADC_REG4**: ADREG4
- **ADC_REG5**: ADREG5
- **ADC_REG6**: ADREG6
- **ADC_REG7**: ADREG7
- **ADC_REG8**: ADREG8
- **ADC_REG9**: ADREG9
- **ADC_REG10**: ADREG10
- **ADC_REG11**: ADREG11

機能:

ResultREGx に設定されている AD 変換結果格納フラグ、オーバーランフラグ、変換結果を読み出します。

戻り値:

AD 変換結果:

Stored(Bit0): AD 変換結果格納フラグ

OverRun(Bit1): オーバーランフラグ

ADResult(Bit4~Bit15): AD 変換結果

3.2.3.13 ADC_SetTimerTrg

タイマトリガ用プログラムレジスタの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

ADC_SetTimerTrg(TSB_AD_TypeDef * **ADx**,
ADC_REGx **ResultREGx**,
uint8_t **MacroAINx**)

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

ResultREGx: 以下から、タイマトリガ用プログラムレジスタを選択します。

- **ADC_REG0**: ADREG0
- **ADC_REG1**: ADREG1
- **ADC_REG2**: ADREG2
- **ADC_REG3**: ADREG3
- **ADC_REG4**: ADREG4
- **ADC_REG5**: ADREG5

- ADC_REG6: ADREG6
- ADC_REG7: ADREG7
- ADC_REG8: ADREG8
- ADC_REG9: ADREG9
- ADC_REG10: ADREG10
- ADC_REG11: ADREG11

MacroAINx: 以下から、許可/禁止付 AD チャンネルを選択します。

- TRG_ENABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を許可
- TRG_DISABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を禁止
以下から、'y'を選択します。

TMPPM381: ADC_AIN0~ADC_AIN17

TMPPM383: ADC_AIN0~ADC_AIN9

機能:

ResultREGx により AD 変換結果レジスタの設定を行い、タイマトリガ用プログラムレジスタの **MacroAINx** により AIN 端子に対するレジスタの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

3.2.3.14 ADC_SetSWTrg

ソフトウェアトリガ用レジスタの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetSWTrg(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
              ADC_REGx ResultREGx,  
              uint8_t MacroAINx)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

- TSB_AD

ResultREGx: ソフトウェアトリガ用プログラムによる AD 変換結果レジスタを選択します。

- ADC_REG0: ADREG0
- ADC_REG1: ADREG1
- ADC_REG2: ADREG2
- ADC_REG3: ADREG3
- ADC_REG4: ADREG4
- ADC_REG5: ADREG5
- ADC_REG6: ADREG6
- ADC_REG7: ADREG7
- ADC_REG8: ADREG8
- ADC_REG9: ADREG9
- ADC_REG10: ADREG10
- ADC_REG11: ADREG11

MacroAINx: 以下から、許可/禁止付 AD チャンネルを選択します。

- TRG_ENABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を許可
- TRG_DISABLE(y): **ResultREGx** に対する AD チャンネル'y'を禁止
以下から、'y'を選択します。

TMPM381: ADC_AIN0~ADC_AIN17

TMPM383: ADC_AIN0~ADC_AIN9

機能:

ResultREGxによりAD変換結果レジスタの設定を行い、ソフトウェアトリガ用プログラムレジスタの **MacroAINx**によりAIN端子に対するレジスタの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

3.2.3.15 ADC_SetConstantTrg

常時トリガ用プログラムレジスタの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetConstantTrg(TSB_AD_TypeDef * ADx,  
                   ADC_REGx ResultREGx,  
                   uint8_t MacroAINx)
```

引数:

ADx: ADC ユニットを指定します。

➤ **TSB_AD**

ResultREGx: 以下から、常時トリガプログラム用AD変換結果レジスタを選択します。

- **ADC_REG0**: ADREG0
- **ADC_REG1**: ADREG1
- **ADC_REG2**: ADREG2
- **ADC_REG3**: ADREG3
- **ADC_REG4**: ADREG4
- **ADC_REG5**: ADREG5
- **ADC_REG6**: ADREG6
- **ADC_REG7**: ADREG7
- **ADC_REG8**: ADREG8
- **ADC_REG9**: ADREG9
- **ADC_REG10**: ADREG10
- **ADC_REG11**: ADREG11

MacroAINx: 以下から、許可/禁止付ADチャンネルを選択します。

- **TRG_ENABLE(y)**: **ResultREGx**に対するADチャンネル'y'を許可
 - **TRG_DISABLE(y)**: **ResultREGx**に対するADチャンネル'y'を禁止
- 以下から、'y'を選択します。

TMPM381: ADC_AIN0~ADC_AIN17

TMPM383: ADC_AIN0~ADC_AIN9

機能:

ResultREGxによりAD変換結果レジスタの設定を行い、常時トリガ用プログラムレジスタの **MacroAINx**によりAIN端子に対するレジスタの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

3.2.4 データ構造

3.2.4.1 ADC_MonitorTypeDef

メンバ:

ADC_CMPCR_x

CMPCR_x 以下からコンペア制御レジスタを選択します。

- **ADC_CMPCR_0:** ADCMPCR0
- **ADC_CMPCR_1:** ADCMPCR1

ADC_REG_x

ResultREG_x 以下から AD 変換結果レジスタを選択します。

- **ADC_REG0:** ADREG0
- **ADC_REG1:** ADREG1
- **ADC_REG2:** ADREG2
- **ADC_REG3:** ADREG3
- **ADC_REG4:** ADREG4
- **ADC_REG5:** ADREG5
- **ADC_REG6:** ADREG6
- **ADC_REG7:** ADREG7
- **ADC_REG8:** ADREG8
- **ADC_REG9:** ADREG9
- **ADC_REG10:** ADREG10
- **ADC_REG11:** ADREG11

uint32_t

CmpTimes 以下から比較カウント数を選択します。

- 1~16

ADC_CmpCondition

Condition 以下から ADREG_x <ADCMP_y>のの比較設定を選択します。(x=0~11, y=0~1)

- **ADC_LARGER_THAN_CMP_REG:** 変換結果レジスタ値が比較レジスタ 0 より大きい場合に割り込みを発生します。
- **ADC_SMALLER_THAN_CMP_REG:** 変換結果レジスタ値が比較レジスタ 0 より小さい場合に割り込みを発生します。

uint32_t

CmpValue 以下から ADxCMP0、または ADxCMP1 に設定する比較値を選択します。

- 12bit モードの場合: 0~4095
- 10bit モードの場合: 0~1023

3.2.4.2 ADC_Result

メンバ:

uint32_t

All: AD 変換結果

ビットフィールド:

uint32_t

Stored: 1 AD 変換結果の格納状態

uint32_t

OverRun: 1 AD 変換オーバーランフラグ

uint32_t

Reserved1: 2 予約

uint32_t

ADResult: 12AD 変換結果
uint32_t
Reserved2: 16予約

4. CG

4.1 概要

本 CG API は TPM38x CG において以下の機能を提供します。

- システムクロックの制御、クロック逡倍回路 (PLL) の制御
- プリスケールクロックの制御
- ウォーミングアップタイマの制御
- 各種低消費電力モードの制御
- 割り込み要求制御

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_cg.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_cg.h

CG のクロックとして、以下のシンボルを使用しています。詳しくは MCU データシートの「クロックシステムブロック図」を参照してください。

fEHOSC : X1, X2 端子より入力されるクロック

fIHOSC : 内蔵高速発振より入力されるクロック

fs : XT1, XT2 (低速クロック) 端子より入力されるクロック

fosc : CGOSCCR<OSCSSEL>により選択されるクロック(fEHOSCまたはfIHOSC)

fPLL : PLL により逡倍(4 逡倍) されたクロック

fc : CGPLLSEL<PLLSEL> で選択されたクロック(高速クロック)

fgear : CGSYSCR<GEAR[2:0]> で選択されたクロック

fsys : fgear と同一クロック(システムクロック)

fperiph : CGSYSCR<FPSEL> で選択されたクロック

φT0 : CGSYSCR<PRCK[2:0]> で選択されたクロック (プリスケールクロック)

4.2 API 関数

4.2.1 関数一覧

- ◆ void CG_SetFgearLevel(CG_DivideLevel **DivideFgearFromFc**)
- ◆ CG_DivideLevel CG_GetFgearLevel(void)
- ◆ void CG_SetPhiT0Src(CG_PhiT0Src **PhiT0Src**)
- ◆ CG_PhiT0Src CG_GetPhiT0Src(void)
- ◆ Result CG_SetPhiT0Level(CG_DivideLevel **DividePhiT0FromFc**)
- ◆ CG_DivideLevel CG_GetPhiT0Level(void)
- ◆ void CG_SetSCOUTSrc(CG_SCOUTSrc **Source**)
- ◆ CG_SCOUTSrc CG_GetSCOUTSrc(void)
- ◆ void CG_SetWarmUpTime(CG_WarmUpSrc **Source**, uint16_t **Time**)
- ◆ void CG_StartWarmUp(void)
- ◆ WorkState CG_GetWarmUpState(void)
- ◆ Result CG_SetPLL(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG_GetPLLState(void)
- ◆ Result CG_SetFosc(CG_FoscSrc **Source**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void CG_SetFoscSrc(CG_FoscSrc **Source**)
- ◆ CG_FoscSrc CG_GetFoscSrc(void)

- ◆ FunctionalState CG_GetFoscState(CG_FoscSrc **Source**)
- ◆ Result CG_SetFs(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG_GetFsState(void)
- ◆ void CG_SetPortM(CG_PortMMode **Mode**)
- ◆ void CG_SetSTBYMode(CG_STBYMode **Mode**)
- ◆ CG_STBYMode CG_GetSTBYMode(void)
- ◆ void CG_SetExitStopModeFosc(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG_GetExitStopModeFoscState(void)
- ◆ void CG_SetExitStopModeFs(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG_GetExitStopModeFsState(void)
- ◆ void CG_SetPinStateInStopMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG_GetPinStateInStopMode(void)
- ◆ Result CG_SetFcSrc(CG_FcSrc **Source**)
- ◆ CG_FcSrc CG_GetFcSrc(void)
- ◆ Result CG_SetFsysSrc(CG_FsysSrc **Source**)
- ◆ CG_FsysSrc CG_GetFsysSrc(void)
- ◆ void CG_SetSTBYReleaseINTSrc(CG_INTSrc **INTSource**,
CG_INTActiveState **ActiveState**,
FunctionalState **NewState**)
- ◆ CG_INTActiveState CG_GetSTBYReleaseINTState(CG_INTSrc **INTSource**)
- ◆ void CG_ClearINTReq(CG_INTSrc **INTSource**)
- ◆ CG_NMIFactor CG_GetNMIFlag(void)
- ◆ CG_ResetFlag CG_GetResetFlag(void)

4.2.2 関数の種類

CG API は 3 つのグループに分けられます。

1) クロックの種類:

CG_SetFgearLevel(), CG_GetFgearLevel(), CG_SetPhiT0Src(), CG_GetPhiT0Src(),
CG_SetPhiT0Level(), CG_GetPhiT0Level(), CG_SetSCOUTSrc(),
CG_GetSCOUTSrc(), CG_SetWarmUpTime(), CG_StartWarmUp(),
CG_GetWarmUpState(), CG_SetPLL(), CG_GetPLLState(), CG_SetFosc(),
CG_SetFoscSrc(), CG_GetFoscSrc(), CG_GetFoscState(), CG_SetFs(),
CG_GetFsState(), CG_SetFcSrc(), CG_GetFcSrc(), CG_SetFsysSrc(),
CG_GetFsysSrc(), CG_SetPortM()

2) スタンバイモードの設定:

CG_SetSTBYMode(), CG_GetSTBYMode(), CG_SetExitStopModeFosc(),
CG_GetExitStopModeFoscState(), CG_SetExitStopModeFs(),
CG_GetExitStopModeFsState(), CG_SetPinStateInStopMode(),
CG_GetPinStateInStopMode()

3) 割り込みの設定など、その他:

CG_SetSTBYReleaseINTSrc(), CG_GetSTBYReleaseINTState(), CG_ClearINTReq(),
CG_GetNMIFlag(), CG_GetResetFlag()

4.2.3 関数仕様

4.2.3.1 CG_SetFgearLevel

fgear, fc 間の分周レベル設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
CG_SetFgearLevel(CG_DivideLevel **DivideFgearFromFc**)

引数:

DivideFgearFromFc: 以下から、fgear, fc 間の分周レベルを選択します。

- **CG_DIVIDE_1:** fgear = fc
- **CG_DIVIDE_2:** fgear = fc/2
- **CG_DIVIDE_4:** fgear = fc/4
- **CG_DIVIDE_8:** fgear = fc/8
- **CG_DIVIDE_16:** fgear = fc/16

機能:

fgear,fc 間の分周レベルを設定します。

戻り値:

なし

4.2.3.2 CG_GetFgearLevel

fgear, fc 間の分周レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_DivideLevel

CG_GetFgearLevel(void)

引数:

なし

機能:

fgear,fc 間の分周レベルを取得します。レジスタから読み出した値が“Reserved” の場合、**CG_DIVIDE_UNKNOWN** を返します。

戻り値:

fgear, fc 間の分周レベルで、下記のいずれかの値になります。

CG_DIVIDE_1: fgear = fc

CG_DIVIDE_2: fgear = fc/2

CG_DIVIDE_4: fgear = fc/4

CG_DIVIDE_8: fgear = fc/8

CG_DIVIDE_16: fgear = fc/16

CG_DIVIDE_UNKNOWN: invalid data is read

4.2.3.3 CG_SetPhiT0Src

fsys, fc 間の PhiT0(ΦT0) ソースの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG_SetPhiT0Src(CG_PhiT0Src **PhiT0Src**)

引数:

PhiT0Src: 以下から PhiT0 ソースを選択します。

➤ **CG_PHIT0_SRC_FGEAR :** fgear が PhiT0 ソース

➤ **CG_PHIT0_SRC_FC:** fc が PhiT0 ソース

➤ **CG_PHIT0_SRC_FSYS:** fsys が PhiT0 ソース

機能:

PhiT0 (ΦT0) ソースを選択します。

戻り値:
なし

4.2.3.4 CG_GetPhiT0Src

PhiT0 (ΦT0) ソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:
CG_PhiT0Src
CG_GetPhiT0Src(void)

引数:
なし

機能:
PhiT0 (ΦT0) ソースを取得します。

戻り値:
CG_PHIT0_SRC_FGEAR : fgear が PhiT0 ソース
CG_PHIT0_SRC_FC: fc が PhiT0 ソース
CG_PHIT0_SRC_FSYS: fsys が PhiT0 ソース

4.2.3.5 CG_SetPhiT0Level

Fsys, fc 間の分周レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:
Result
CG_SetPhiT0Level(CG_DivideLevel **DividePhiT0FromFc**)

引数:
DividePhiT0FromFc: PhiT0 (ΦT0) と fc 間の分周レベルを下記の値から設定します。

- **CG_DIVIDE_1**: ΦT0 = fc or fsys
- **CG_DIVIDE_2**: ΦT0 = fc/2
- **CG_DIVIDE_4**: ΦT0 = fc/4
- **CG_DIVIDE_8**: ΦT0 = fc/8
- **CG_DIVIDE_16**: ΦT0 = fc/16
- **CG_DIVIDE_32**: ΦT0 = fc/32
- **CG_DIVIDE_64**: ΦT0 = fc/64
- **CG_DIVIDE_128**: ΦT0 = fc/128
- **CG_DIVIDE_256**: ΦT0 = fc/256
- **CG_DIVIDE_512**: ΦT0 = fc/512

機能:
プリスケラークロックの分周レベルを設定します。

戻り値:
SUCCESS 設定成功
ERROR エラー

4.2.3.6 CG_GetPhiT0Level

fsys, fc 間の分周レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_DivideLevel

CG_GetPhiT0Level(void)

引数:

なし

機能:

PhiT0($\Phi T0$), fc 間の分周レベルを取得します。レジスタから読み出した値が“Reserved”の場合、**CG_DIVIDE_UNKNOWN** を返します。

戻り値:

PhiT0($\Phi T0$), fc 間の分周レベルを以下から設定します。

CG_DIVIDE_1: $\Phi T0 = fc \text{ or } fsys$

CG_DIVIDE_2: $\Phi T0 = fc/2$

CG_DIVIDE_4: $\Phi T0 = fc/4$

CG_DIVIDE_8: $\Phi T0 = fc/8$

CG_DIVIDE_16: $\Phi T0 = fc/16$

CG_DIVIDE_32: $\Phi T0 = fc/32$

CG_DIVIDE_64: $\Phi T0 = fc/64$

CG_DIVIDE_128: $\Phi T0 = fc/128$

CG_DIVIDE_256: $\Phi T0 = fc/256$

CG_DIVIDE_512: $\Phi T0 = fc/512$

CG_DIVIDE_UNKNOWN: 無効

4.2.3.7 CG_SetSCOUTSrc

SCOUT ソースクロックの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG_SetSCOUTSrc(CG_SCOUTSrc **Source**)

引数:

Source: 以下から SCOUT 出力のソースクロックを選択します。

➤ **CG_SCOUT_SRC_FS:** fs

➤ **CG_SCOUT_SRC_HALF_FSYS:** fsys/2

➤ **CG_SCOUT_SRC_FSYS:** fsys

➤ **CG_SCOUT_SRC_PHIT0:** $\Phi T0$

機能:

SCOUT 出力のソースクロックを選択します。

戻り値:

なし

4.2.3.8 CG_GetSCOUTSrc

SCOUT ソースクロックの取得

関数のプロトタイプ宣言:

SCOUTSrc

CG_GetSCOUTSrc(void)

引数:

なし

機能:

SCOUT ソースクロックを取得します。

戻り値:

SCOUT ソースクロック:

- **CG_SCOUT_SRC_FS**: fs
- **CG_SCOUT_SRC_HALF_FSYS**: fsys/2
- **CG_SCOUT_SRC_FSYS**: fsys
- **CG_SCOUT_SRC_PHIT0**: ΦT0

4.2.3.9 CG_SetWarmUpTime

ウォームアップ時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG_SetWarmUpTime(CG_WarmUpSrc **Source**, uint16_t **Time**)**引数:****Source**: 以下から、ウォームアップカウンタを選択します。

- **CG_WARM_UP_SRC_EXT_HIGH**: 外部高速発振
- **CG_WARM_UP_SRC_INT_HIGH**: 内部高速発振
- **CG_WARM_UP_SRC_EXT_LOW**: 外部低速発振

Time: **Source** が CG_WARM_UP_SRC_LWO の場合は 0U~0x4000U から、それ以外の場合は 0U~0x1000U から選択します。

機能:

ウォームアップ時間の設定を行います。設定時間の算出方法は以下です。

$$\text{設定値} = ((\text{ウォームアップ時間}) / (\text{入力クロック})) / 16$$

以下はウォームアップ時間の設定例です。

/* ウォームアップ時間が 100us で、入力クロックが 8M の場合 */

設定値 = $100 \times 10E(-6) / (1 / (8 \times 10E(6))) / 16 = 0x0320 >> 4 = 0x32$ **戻り値:**

なし

4.2.3.10 CG_StartWarmUp

ウォームアップの開始

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG_StartWarmUp(void)

引数:

なし

機能:

ウォームアップを開始します。

戻り値:

なし

4.2.3.11 CG_GetWarmUpState

ウォームアップ動作状態の確認

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

CG_GetWarmUpState(void)

引数:

なし

機能:

ウォーミングアップ動作状態を確認します。

ウォーミングアップタイマの使用例:

```
CG_SetWarmUpTime(CG_WARM_UP_SRC_OSC1, 0x32);  
/* start warm up */  
CG_StartWarmUp();  
/* check warm up is finished or not*/  
while(CG_GetWarmUpState()==BUSY);
```

戻り値:

ウォームアップ動作状態:

DONE: 動作終了

BUSY: 動作中

4.2.3.12 CG_SetPLL

PLL 動作の許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG_SetPLL(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: 以下から選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

機能:

PLL 動作の許可/禁止を選択します。

PLL として fc を選択した場合、無効にすることができません。この場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

SUCCESS: 成功

ERROR: 失敗

4.2.3.13 CG_GetPLLState

PLL 設定状態の確認

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG_GetPLLState(void)

引数:

なし

機能:

PLL 設定状態を確認します。

戻り値:

PLL 設定状態です

ENABLE: PLL 有効

DISABLE: PLL 無効

4.2.3.14 CG_SetFosc

高速発振器(osc1 or osc2)の有効/無効

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG_SetFosc(CG_FoscSrc **Source**,
FunctionalState **NewState**)

引数:

Source: 以下から fosc のソースクロックを選択します。

- **CG_FOSC_EHOSC**: 外部高速発振
- **CG_FOSC_IHOSC**: 外部低速発振

NewState: 以下から、fosc の有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効
- **DISABLE**: 無効

機能:

高速発振器の有効/無効を選択します。

fgear と system clock (fsys) が選択されている場合、高速発振器 (fosc) は無効にできません。この場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

SUCCESS: 成功

ERROR: 失敗

4.2.3.15 CG_SetFoscSrc

高速発振器(fosc)のソース設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
CG_SetFoscSrc(CG_FoscSrc **Source**)

引数:

Source: fosc のソースを選択します。

- **CG_FOSC_EHOSC**: 外部高速発振
- **CG_FOSC_IHOSC**: 外部低速発振

機能:

高速発振器(fosc)のソースを設定します。

戻り値:

なし

4.2.3.16 CG_GetFoscSrc

高速発振器(fosc)ソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_FoscSrc
CG_GetFoscSrc(void)

引数:

なし

機能:

高速発振器ソースを取得します。

戻り値:

fosc のソース

- **CG_FOSC_EHOSC**: 外部高速発振
- **CG_FOSC_IHOSC**: 外部低速発振

4.2.3.17 CG_GetFoscState

高速発振器(fosc)の状態

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState
CG_GetFoscState(CG_FoscSrc **Source**)

引数:

Source: 以下から fosc のソースを選択します。

- **CG_FOSC_EHOSC**: 外部高速発振

- **CG_FOSC_IHOSC**: 外部低速発振

機能:

高速発振器の状態を取得します。

戻り値:

fosc の状態

ENABLE: 有効

DISABLE: 無効

4.2.3.18 CG_SetFs

低速クロック(fs)の有効/無効

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG_SetFs(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: 以下から、fs の有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効

- **DISABLE**: 無効

機能:

低速発振器(fs)の有効/無効を選択します。

system clock (fsys)として fs が選択されている場合、低速発振器 (fs) は無効にできません。この場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

SUCCESS: 成功

ERROR: 失敗

4.2.3.19 CG_GetFsState

低速発振器(fs)の状態

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG_GetFsState(void)

引数:

なし

機能:

低速発振器(fs)の状態を取得します。

戻り値:

fs の状態

ENABLE: 有効

DISABLE: 無効

4.2.3.20 CG_SetPortM

ポート M の設定(X1/X2 または汎用ポート)

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetPortM(CG_PortMMode Mode)
```

引数:

Mode:

- **CG_PORTM_AS_GPIO**: 汎用ポート
- **CG_PORTM_AS_HOSC**: X1/X2

機能:

ポート M の設定を行います。**Mode** が **CG_PORTM_AS_GPIO** の時は汎用ポート、**Mode** が **CG_PORTM_AS_HOSC** の時は X1/X2 に設定します。

戻り値:

なし

4.2.3.21 CG_SetSTBYMode

スタンバイモードの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetSTBYMode(CG_STBYMode Mode)
```

引数:

Mode: 以下からスタンバイモードを選択します。

- **CG_STBY_MODE_STOP**: STOP モード(内部発振器含めてすべての内部回路が停止します)
- **CG_STBY_MODE_SLEEP**: SLEEP モード(fs と RMC のみ動作します)
- **CG_STBY_MODE_IDLE**: IDLE モード(CPU のみ停止します)

機能:

スタンバイ命令実行後の低消費電力モードを選択します。

戻り値:

なし

4.2.3.22 CG_GetSTBYMode

スタンバイモード設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
CG_STBYMode  
CG_GetSTBYMode(void)
```

引数:

なし

機能:

スタンバイモードの設定状態を取得します。

設定状態が “Reserved” の場合、戻り値は “CG_STBY_MODE_UNKNOWN” です。

戻り値:

低消費電力モード

CG_STBY_MODE_STOP: STOP モード

CG_STBY_MODE_SLEEP: SLEEP モード

CG_STBY_MODE_IDLE: IDLE モード

CG_STBY_MODE_UNKNOWN: 無効データ

4.2.3.23 CG_SetExitStopModeFosc

STOP モード解除後の自動高速発振設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG_SetExitStopModeFosc(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState:

➤ **ENABLE** : 発振

➤ **DISABLE** : 停止

機能:

STOP モード解除後の自動高速発振を設定します。

戻り値:

なし

4.2.3.24 CG_GetExitStopModeFoscState

STOP モード解除後の自動高速発振設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG_GetExitStopModeFoscState(void)

引数:

なし

機能:

STOP モード解除後の自動高速発振設定状態を取得します。

戻り値:

ENABLE: 発振

DISABLE: 停止

4.2.3.25 CG_SetExitStopModeFs

STOP モード解除後の自動低速発振設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
CG_SetExitStopModeFs(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState:

- **ENABLE** : 発振
- **DISABLE**: 停止

機能:

STOP モード解除後の自動低速発振を設定します。

戻り値:

なし

4.2.3.26 CG_GetExitStopModeFsState

STOP モード解除後の自動低速発振設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState
CG_GetExitStopModeFsState(void)

引数:

なし

機能:

STOP モード解除後の自動低速発振設定状態の取得

戻り値:

- ENABLE**: 発振
- DISABLE**: 停止

4.2.3.27 CG_SetPinStateInStopMode

STOP モード中の端子状態の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
CG_SetPinStateInStopMode(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState:

- **DISABLE**: STOP モード中端子をドライブしません。(<DRVE>=0)
- **ENABLE**: STOP モード中端子をドライブします(<DRVE>=1)

STOP1 モード中の端子状態制御については、MCU データシートの“低消費電力モード”を参照してください。

機能:

STOP モード中の端子状態を設定します。

戻り値:
なし

4.2.3.28 CG_GetPinStateInStopMode

STOP モード中の端子状態設定の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG_GetPinStateInStopMode (void)

引数:

なし

機能:

STOP モード中の端子状態設定を取得します。

戻り値:

DISABLE: STOP モード中端子をドライブしません。(<DRVE>=0)

ENABLE: STOP モード中端子をドライブします。(<DRVE>=1)

4.2.3.29 CG_SetFcSrc

fc ソースクロック選択

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG_SetFcSrc(CG_FcSrc **Source**)

引数:

Source: 以下から、fc ソースクロックを選択します。

- **CG_FC_SRC_FOSC**: fosc
- **CG_FC_SRC_FPLL**: fPLL

機能:

fc ソースクロックを選択します。

本 API をコールする前に以下の状態になっていることを確認してください。

- a) 高速発振器を選択している
- b) a)かつ **Source** が **CG_FC_SRC_FPLL** の場合、PLL が有効
("CG_SetPLL(ENABLE)") になっている。

上記状態になっていない場合、戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:

SUCCESS: 成功

ERROR: 無効

4.2.3.30 CG_GetFcSrc

fc ソースクロック設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_FcSrc
CG_GetFosc (void)

引数:
なし

機能:
fc ソースクロック設定状態を取得します。

戻り値:
CG_FC_SRC_FOSC: fosc
CG_FC_SRC_FPLL: fPLL

4.2.3.31 CG_SetFsysSrc

fsys ソースクロック選択

関数のプロトタイプ宣言:
Result
CG_SetFsysSrc (CG_FsysSrc **Source**)

引数:
Source: 以下から、fsys ソースクロックを選択します。
➤ **CG_FC_SRC_FGEAR** : fgear
➤ **CG_FC_SRC_FS** : fs

機能:
fsys ソースクロックを選択します。
CG_FSYS_SRC_FGEAR を選択する場合、高速発振器(X1)が既に発振していることを、また **CG_FSYS_SRC_FS** を選択する場合、低速発振器(XT1)が既に発振していることを確認してください。
上記状態になっていない場合戻り値は **ERROR** となります。

戻り値:
SUCCESS: 成功
ERROR: 無効

4.2.3.32 CG_GetFsysSrc

fsys ソースクロック設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:
CG_FsysSrc
CG_GetFsysSrc (void)

引数:
なし

機能:
fsys ソースクロック設定状態を取得します。

戻り値:

CG_FSYS_SRC_FGEAR : fgear
CG_FSYS_SRC_FS : fs.

4.2.3.33 CG_SetSTBYReleaseINTSrc

スタンバイモードの解除割り込みソースの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetSTBYReleaseINTSrc (CG_INTSrc INTSource,  
                          CG_INTActiveState ActiveState,  
                          FunctionalState NewState)
```

引数:

INTSource: 以下から、スタンバイモードの解除割り込みソースを選択します。

- CG_INT_SRC_0: INT0
- CG_INT_SRC_1: INT1
- CG_INT_SRC_2: INT2
- CG_INT_SRC_3: INT3
- CG_INT_SRC_4: INT4
- CG_INT_SRC_5: INT5
- CG_INT_SRC_6: INT6 (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_7: INT7 (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_8: INT8
- CG_INT_SRC_9: INT9 (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_A: INTA (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_B: INTB (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_C: INTC (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_D: INTD (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_E: INTE (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_F: INTF
- CG_INT_SRC_RTC: RTC 割り込み
- CG_INT_SRC_RMC_RX: RMC 受信割り込み

ActiveState: 以下から、解除トリガのアクティブ状態を選択します。

- CG_INT_ACTIVE_STATE_L: Low レベル
- CG_INT_ACTIVE_STATE_H: High レベル
- CG_INT_ACTIVE_STATE_FALLING: 立下りエッジ
- CG_INT_ACTIVE_STATE_RISING: 立ち上がりエッジ
- CG_INT_ACTIVE_STATE_BOTH_EDGES: 両エッジ

NewState: 以下から、解除トリガの許可/禁止を選択します。

- ENABLE: 許可
- DISABLE: 禁止

機能:

スタンバイモードの解除割り込みソースを設定します。

戻り値:

なし

4.2.3.34 CG_GetSTBYReleaseINTState

スタンバイモードの解除割り込みソースのアクティブ状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_INT_ActiveState

CG_GetSTBYReleaseINTSrc(CG_INTSrc *INTSource*)

引数:

INTSource: 以下から、解除割り込みソースを選択します。

- CG_INT_SRC_0: INT0
- CG_INT_SRC_1: INT1
- CG_INT_SRC_2: INT2
- CG_INT_SRC_3: INT3
- CG_INT_SRC_4: INT4
- CG_INT_SRC_5: INT5
- CG_INT_SRC_6: INT6 (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_7: INT7 (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_8: INT8
- CG_INT_SRC_9: INT9 (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_A: INTA (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_B: INTB (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_C: INTC (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_D: INTD (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_E: INTE (TMPM383 は選択できません)
- CG_INT_SRC_F: INTF
- CG_INT_SRC_RTC: RTC 割り込み
- CG_INT_SRC_RMC_RX: RMC 受信割り込み

機能:

スタンバイモードの解除割り込みソースのアクティブ状態を取得します。

戻り値:

- CG_INT_ACTIVE_STATE_FALLING: 立下りエッジ
- CG_INT_ACTIVE_STATE_RISING: 立ち上がりエッジ
- CG_INT_ACTIVE_STATE_BOTH_EDGES: 両エッジ
- CG_INT_ACTIVE_STATE_INVALID: 無効

4.2.3.35 CG_ClearINTReq

スタンバイ解除割り込み要求のクリア

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG_ClearINTReq(CG_INTSrc *INTSource*)

引数:

INTSource: 以下から、解除割り込みソースを選択します。

- CG_INT_SRC_0: INT0
- CG_INT_SRC_1: INT1
- CG_INT_SRC_2: INT2
- CG_INT_SRC_3: INT3
- CG_INT_SRC_4: INT4

- **CG_INT_SRC_5:** INT5
- **CG_INT_SRC_6:** INT6 (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_7:** INT7 (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_8:** INT8
- **CG_INT_SRC_9:** INT9 (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_A:** INTA (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_B:** INTB (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_C:** INTC (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_D:** INTD (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_E:** INTE (TMPM383 は選択できません)
- **CG_INT_SRC_F:** INTF
- **CG_INT_SRC_RTC:** RTC 割り込み
- **CG_INT_SRC_RMC_RX:** RMC 受信割り込み

機能:

スタンバイ解除割り込み要求をクリアします。

戻り値:

なし

4.2.3.36 CG_GetNMIFlag

NMI フラグの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_NMIFactor

CG_GetNMIFlag (void)

引数:

なし

機能:

NMI フラグを取得します。

戻り値:

WDT (Bit 0) : WDT による NMI 発生

4.2.3.37 CG_GetResetFlag

リセットフラグの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG_ResetFlag

CG_GetResetFlag(void)

引数:

なし

機能:

リセットフラグを取得します。

戻り値:

PowerOn (Bit 0) : パワーオンリセット

ResetPin (Bit 1) : 端子リセット

WDTReset (Bit 2) : WDT リセット

DebugReset (Bit 4) : SYSRESETREQ によるリセット

OFDReset (Bit 5) : OFD リセット

4.2.4 データ構造

4.2.4.1 CG_NMIFactor

メンバ:

uint32_t

All NMI 要因フラグです。

ビットフィールド:

uint32_t

WDT(Bit 0) WDT による NMI 発生

uint32_t

Reserved0 予約

4.2.4.2 CG_ResetFlag

メンバ:

uint32_t

All リセット要因フラグです。

ビットフィールド:

uint32_t

PowerOn 1 Power On Reset フラグ

uint32_t

ResetPin 1 RESET 端子フラグ

uint32_t

WDTReset1 WDT リセットフラグ

uint32_t

Reserved01 予約

uint32_t

DebugReset 1 デバッグリセットフラグ

uint32_t

OFDReset 1 OFD リセットフラグ

uint32_t

Reserved026 予約

5. DNF

5.1 概要

デジタル式のノイズキャンセラ回路により、外部割り込み端子に入力される信号を所定の幅でノイズを除去することができます。

DNFドライバ API は、ノイズフィルタクロックの設定、ノイズフィルタ割り込みの状態、ノイズフィルタ割り込みの設定などの機能を提供します。

本ドライバ API は、アプリケーションで使用する API 定義を含む以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\src\\tmpm38x_dnf.c
\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\inc\\tmpm38x_dnf.h

5.2 API 関数一覧

5.2.1 関数一覧

- ◆ void DNF_SetFilterClk(uint32_t **FilterClk**)
- ◆ uint32_t DNF_GetFilterClk(void)
- ◆ void DNF_SetInt0Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt0FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt1Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt1FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt2Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt2FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt3Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt3FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt4Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt4FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt5Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt5FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt6Filter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt6FilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF_SetInt7Filter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt7FilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF_SetInt8Filter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt8FilterState(void)
- ◆ void DNF_SetInt9Filter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetInt9FilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF_SetIntAFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetIntAFilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF_SetIntBFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetIntBFilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF_SetIntCFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetIntCFilterState(void) (Only for TMPM381)
- ◆ void DNF_SetIntDFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TMPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetIntDFilterState(void) (Only for TMPM381)

- ◆ void DNF_SetIntEFilter(FunctionalState **NewState**) (Only for TPM381)
- ◆ FunctionalState DNF_GetIntEFilterState(void) (Only for TPM381)
- ◆ void DNF_SetIntFFilter(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState DNF_GetIntFFilterState(void)

5.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。

1) ノイズフィルタクロックの選択:

DNF_SetFilterClk(), DNF_GetFilterClk()

2) ノイズフィルタ割り込みの設定:

DNF_SetInt0Filter(), DNF_GetInt0FilterState(), DNF_SetInt1Filter(),
DNF_GetInt1FilterState(), DNF_SetInt2Filter(), DNF_GetInt2FilterState(),
DNF_GetInt3FilterState(), DNF_SetInt4Filter(), DNF_GetInt4FilterState(),
DNF_SetInt5Filter(), DNF_GetInt5FilterState(), DNF_SetInt6Filter(),
DNF_GetInt6FilterState(), DNF_SetInt7Filter(), DNF_GetInt7FilterState(),
DNF_SetInt8Filter(), DNF_GetInt8FilterState(), DNF_SetInt9Filter(),
DNF_GetInt9FilterState(), DNF_SetIntAFilter(), DNF_GetIntAFilterState(),
DNF_SetIntBFilter(), DNF_GetIntBFilterState(), DNF_SetIntCFilter(),
DNF_GetIntCFilterState(), DNF_SetIntDFilter(), DNF_GetIntDFilterState(),
DNF_SetIntEFilter(), DNF_GetIntEFilterState(), DNF_SetIntFFilter(),
DNF_GetIntFFilterState()

TPM383 の場合、下記 API は使用できません。

DNF_SetInt6Filter(), DNF_GetInt6FilterState(), DNF_SetInt7Filter(),
DNF_GetInt7FilterState(), DNF_SetInt9Filter(), DNF_GetInt9FilterState(),
DNF_SetIntAFilter(), DNF_GetIntAFilterState(), DNF_SetIntBFilter(),
DNF_GetIntBFilterState(), DNF_SetIntCFilter(), DNF_GetIntCFilterState(),
DNF_SetIntDFilter(), DNF_GetIntDFilterState(), DNF_SetIntEFilter(),
DNF_GetIntEFilterState().

5.2.3 関数仕様

5.2.3.1 DNF_SetFilterClk

ノイズクロックフィルタクロックの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void
DNF_SetFilterClk(uint32_t **FilterClk**)

引数:

FilterClk: 以下のいずれかのノイズフィルタクロックを選択します。

- DNF_FILTER_CLK_STOP: クロック制御回路停止
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_2: fsys/2 クロック出力
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_4: fsys/4 クロック出力
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_8: fsys/8 クロック出力
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_16: fsys/16 クロック出力
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_32: fsys/32 クロック出力
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_64: fsys/64 クロック出力
- DNF_FILTER_CLK_FSYS_128: fsys/128 クロック出力

機能:

ノイズフィルタクロックを選択します。

戻り値:
なし

5.2.3.2 DNF_GetFilterClk

ノイズフィルタクロックの選択状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:
uint32_t
DNF_GetFilterClk(void)

引数:
なし

機能:
ノイズフィルタクロックの選択状態を取得します。

戻り値:
ノイズフィルタクロックの選択状態:
DNF_FILTER_CLK_STOP: クロック制御回路停止
DNF_FILTER_CLK_FSYS_2: fsys/2 クロック出力
DNF_FILTER_CLK_FSYS_4: fsys/4 クロック出力
DNF_FILTER_CLK_FSYS_8: fsys/8 クロック出力
DNF_FILTER_CLK_FSYS_16: fsys/16 クロック出力
DNF_FILTER_CLK_FSYS_32: fsys/32 クロック出力
DNF_FILTER_CLK_FSYS_64: fsys/64 クロック出力
DNF_FILTER_CLK_FSYS_128: fsys/128 クロック出力

5.2.3.3 DNF_SetInt0Filter

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:
void
DNF_SetInt0Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:
NewState: INT0 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。
➤ **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
➤ **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:
INT0 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:
なし

5.2.3.4 DNF_GetInt0FilterState

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetInt0FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT0 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.5 DNF_SetInt1Filter

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetInt1Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT1 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT1 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

5.2.3.6 DNF_GetInt1FilterState

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetInt1FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT1 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.7 DNF_SetInt2Filter

INT2 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetInt2Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT2 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT2 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

5.2.3.8 DNF_SetInt3Filter

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetInt3Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT3 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT3 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

5.2.3.9 DNF_GetInt3FilterState

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState
DNF_GetInt3FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT3 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.10 DNF_SetInt4Filter

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
DNF_SetInt4Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT4 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT4 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

5.2.3.11 DNF_GetInt4FilterState

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState
DNF_GetInt4FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT4 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.12 DNF_SetInt5Filter

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetInt5Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT5 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT5 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

5.2.3.13 DNF_GetInt5FilterState

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetInt5FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INT5 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.14 DNF_SetInt6Filter

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
DNF_SetInt6Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT6 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT6 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.15 DNF_GetInt6FilterState

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState
DNF_GetInt6FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INT6 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.16 DNF_SetInt7Filter

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
DNF_SetInt7Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT7 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT7 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.17 DNF_GetInt7FilterState

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetInt7FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INT7 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.18 DNF_SetInt8Filter

INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetInt8Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INT8 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INT8 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:
なし

5.2.3.19 DNF_GetInt8FilterState

INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:
FunctionalState
DNF_GetInt8FilterState(void)

引数:
なし

機能:
INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:
TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:
INT8 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:
ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP
モード解除時)

5.2.3.20 DNF_SetInt9Filter

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:
void
DNF_SetInt9Filter(FunctionalState **NewState**)

引数:
NewState: INT9 ノイズフィルタの有効/無効を選択します。
➤ **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
➤ **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、
STOP モード解除時)

機能:
INT9 ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:
TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:
なし

5.2.3.21 DNF_GetInt9FilterState

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetInt9FilterState(void)

引数:

なし

機能:

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INT9 ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.22 DNF_SetIntAFilter

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetIntAFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INTA ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTA ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.23 DNF_GetIntAFilterState

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetIntAFilterState(void)

引数:

なし

機能:

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INTA ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.24 DNF_SetIntBFilter

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetIntBFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INTB ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTB ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.25 DNF_GetIntBFilterState

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetIntBFilterState(void)

引数:

なし

機能:

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INTB ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.26 DNF_SetIntCFilter

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DNF_SetIntCFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INTC ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

➤ **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)

➤ **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTC ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.27 DNF_GetIntCFilterState

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetIntCFilterState(void)

引数:

なし

機能:

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INTC ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.28 DNF_SetIntDFilter

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DNF_SetIntDFilter(FunctionalState NewState)
```

引数:

NewState: INTD ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE:** 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTD ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.29 DNF_GetIntDFilterState

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
FunctionalState  
DNF_GetIntDFilterState(void)
```

引数:

なし

機能:

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INTD ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.30 DNF_SetIntEFilter

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DNF_SetIntEFilter(FunctionalState NewState)
```

引数:

NewState: INTE ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTE ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

なし

5.2.3.31 DNF_GetIntEFilterState

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
FunctionalState  
DNF_GetIntEFilterState(void)
```

引数:

なし

機能:

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

補足:

TMPM383 では本 API は未サポートです。

戻り値:

INTE ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.3.32 DNF_SetIntFFilter

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
```

DNF_SetIntFFilter(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: INTF ノイズフィルタの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効 (ノイズ除去後信号出力)
- **DISABLE**: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

機能:

INTF ノイズフィルタの有効/無効を設定します。

戻り値:

なし

5.2.3.33 DNF_GetIntFFilterState

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

DNF_GetIntFFilterState(void)

引数:

なし

機能:

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定状態を取得します。

戻り値:

INTF ノイズフィルタの有効/無効設定状態:

ENABLE: 有効 (ノイズ除去後信号出力)

DISABLE: 無効 (ノイズ除去前信号出力およびノイズ除去回路カウンタクリア、STOP モード解除時)

5.2.4 データ構造

なし

6. FC

6.1 概要

本デバイスは、フラッシュメモリを内蔵しています。
フラッシュメモリのサイズは、TMPM38xFW が 128Kbyte、TMPM38xFS が 64Kbyte です。

オンボードプログラミングにおいて、CPU はソフトウェアを実行し、flash メモリへのデータ書き込み / 削除を行います。データ書き込み / 削除は JEDEC 標準型コマンドに従って行います。また、Flash メモリをモニターするレジスタを提供し、各ブロックのプロテクション状態の表示、セキュリティ機能の設定を行います。

ブロック構成は、デバイスのデータシートを参照してください。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義、マクロ、データタイプ、構造を格納する以下のファイルで構成されています。

Libraries\TX03_Periph_Driver\src\tmpm38x_fc.c
Libraries\TX03_Periph_Driver\inc\tmpm38x_fc.h

6.2 API 関数

6.2.1 関数一覧

- ◆ void FC_SetBufferState(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void FC_SetSecurityBit(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState FC_GetSecurityBit(void)
- ◆ WorkState FC_GetBusyState(void)
- ◆ void FC_SetBlockProtectMask(uint8_t **BlockNum**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState FC_GetBlockProtectMaskState(uint8_t **BlockNum**)
- ◆ FunctionalState FC_GetBlockProtectState(uint8_t **BlockNum**)
- ◆ FC_Result FC_ProgramBlockProtectState(uint8_t **BlockNum**)
- ◆ FC_Result FC_EraseBlockProtectState(uint8_t **BlockGroup**)
- ◆ FC_Result FC_WritePage(uint32_t **PageAddr**, uint32_t * **Data**)
- ◆ FC_Result FC_EraseBlock(uint32_t **BlockAddr**)
- ◆ FC_Result FC_EraseChip(void)

6.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 7 種類に分かれています。

- 1) セキュリティ設定(Flash ROM データの読み出し、デバッグ):
FC_SetSecurityBit(), FC_GetSecurityBit()
- 2) 自動動作状態およびプロテクト状態の取得:
FC_GetBusyState(), FC_GetBlockProtectState()
- 3) プロテクトの設定:
FC_ProgramBlockProtectState(), FC_EraseBlockProtectState()
- 4) 自動実行コマンド(書き込み、チップ消去、ブロック消去):
FC_WritePage(), FC_EraseBlock(), FC_EraseChip()
- 5) Flash I/F の制御:
FC_SetBufferState()
- 6) プロテクトビットマスクの選択:

- FC_SetBlockProtectMask()
7) プロテクトビットマスク状態の取得:
FC_GetBlockProtectMaskState()

6.2.3 関数仕様

6.2.3.1 FC_SetBufferState

FCCR レジスタの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
FC_SetBufferState(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: FCCR レジスタを使用して命令バッファの有効/無効を選択します。

- **DISABLE**: 命令バッファ無効(同時に命令バッファクリアを行います。)
- **ENABLE**: 命令バッファ有効

機能:

Flash ROM の書き込み、または消去後、本 API を使用して命令バッファをクリアしてください。

戻り値:

なし

6.2.3.2 FC_SetSecurityBit

セキュリティビットの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
FC_SetSecurityBit (FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState: セキュリティビットを設定します。

- **DISABLE**: セキュリティ機能設定不可
- **ENABLE**: セキュリティビット設定可能

機能:

1) 書き込み/消去プロテクト用のすべてのプロテクトビット (PSRA<BLn>, n=0,1)を”1”にします。

2) FCSECBIT<SECBIT>を”1”にします。

上記の 2 つの条件が成立すると、セキュリティ機能が有効になります。セキュリティ機能が有効な状態の制限内容は次の通りです。

- ROM 領域のデータの読み出し。
- JTAG/SW、トレースの通信

したがって、この API を使用する場合は、注意して実行してください。

FCSECBIT<SECBIT>はパワーオンリセットで初期化されます。

戻り値:

なし

6.2.3.3 FC_GetSecurityBit

セキュリティビットの設定状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

FC_GetSecurityBit(void)

引数:

なし

機能:

セキュリティビットの設定状態を取得します。

戻り値:

DISABLE: セキュリティ機能設定不可

ENABLE: セキュリティビット設定可能

6.2.3.4 FC_GetBusyState

自動動作状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

FC_GetBusyState (void)

引数:

なし

機能:

自動動作状態を取得します。

戻り値:

BUSY: 自動動作中

DONE: 自動動作終了

6.2.3.5 FC_SetBlockProtectMask

プロテクトビットマスクの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

FC_SetBlockProtectMask(uint8_t **BlockNum**,
FunctionalState **NewState**)

引数:

BlockNum: ブロック番号を選択します。

➤ **FC_BLOCK_0** block 0

➤ **FC_BLOCK_1** block 1

- **FC_BLOCK_2** block 2 (TPPM38xFS では使用できません。)
- **FC_BLOCK_3** block 3 (TPPM38xFS では使用できません。)

NewState: プロテクトビットをマスクする/マスクしないのいずれかを選択します。

- **DISABLE:** プロテクトビットをマスクしない
- **ENABLE:** プロテクトビットをマスクする

機能:

各ブロックのプロテクト状態を一時的にマスクします。プロテクトマスク状態の時にはブロック書き込み、ブロック消去ができます。

戻り値:

なし

6.2.3.6 FC_GetBlockProtectMaskState

プロテクトビットのマスク状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

FC_GetBlockProtectMaskState(uint8_t **BlockNum**)

引数:

BlockNum: ブロック番号を選択します。

- **FC_BLOCK_0** block 0
- **FC_BLOCK_1** block 1
- **FC_BLOCK_2** block 2 (TPPM38xFS では使用できません。)
- **FC_BLOCK_3** block 3 (TPPM38xFS では使用できません。)

機能:

各ブロックのプロテクトマスク状態を取得します。

戻り値:

DISABLE: プロテクトビットはマスク状態ではない

ENABLE: プロテクトビットはマスク状態

6.2.3.7 FC_GetBlockProtectState

ブロックのプロテクト状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

FC_GetBlockProtectState(uint8_t **BlockNum**)

引数:

BlockNum: ブロック番号を選択します。

- **FC_BLOCK_0** block 0
- **FC_BLOCK_1** block 1
- **FC_BLOCK_2** block 2 (TPPM38xFS では使用できません。)
- **FC_BLOCK_3** block 3 (TPPM38xFS では使用できません。)

機能:

各ブロックのプロテクト状態を示します。プロテクト状態の時には、書き込み、消去ができません。

戻り値:

DISABLE: プロテクト状態ではない

ENABLE: プロテクト状態

6.2.3.8 FC_ProgramBlockProtectState

ブロックのプロテクト設定

関数のプロトタイプ宣言:

FC_Result

FC_ProgramProtectState(uint8_t **BlockNum**)

引数:

BlockNum: ブロック番号を選択します。

- **FC_BLOCK_0** block 0
- **FC_BLOCK_1** block 1
- **FC_BLOCK_2** block 2 (TMPM38xFS では使用できません。)
- **FC_BLOCK_3** block 3 (TMPM38xFS では使用できません。)

機能:

ブロックプロテクトを設定します。プロテクト状態の時には、書き込み、消去ができません。

戻り値:

FC_SUCCESS: プロテクト設定の成功

FC_ERROR_PROTECTED: プロテクト設定の失敗(すでにプロテクト済の場合は再度プロテクト設定を行いません)

FC_ERROR_OVER_TIME: プロテクト設定の失敗(自動動作のタイムアウト)

6.2.3.9 FC_EraseBlockProtectState

プロテクトの解除

関数のプロトタイプ宣言:

FC_Result

FC_EraseBlockProtectState(uint8_t **BlockGroup**)

引数:

BlockGroup: ブロックグループを指定してください。

- **FC_BLOCK_GROUP_0** すべてのブロック

機能:

プロテクトビットを"0"にすることでプロテクトを解除します。

戻り値:

FC_SUCCESS: プロテクト解除の成功

FC_ERROR_OVER_TIME: プロテクト解除の失敗(自動動作のタイムアウト)

6.2.3.10 FC_WritePage

ページ単位の書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
FC_Result  
FC_WritePage(uint32_t PageAddr,  
              uint32_t * Data)
```

引数:

PageAddr: ページの開始アドレスを指定します。

Data: 書き込むデータバッファへのポインタを指定します。サイズは 128Byte です。

機能:

ページ書き込みを行います。

自動ページ書き込みは、既に消去された 1 ページにつき一回のみ実施されます。データ値が“1” または “0”のいずれかであっても、2 回以上書き込みを実施することはありません。

補足: あらかじめデータを消去せずに書き込みを行うと、デバイスに損傷を与える恐れがあります。

戻り値:

FC_SUCCESS: 書き込み成功

FC_ERROR_PROTECTED: 書き込み失敗(ブロックにプロテクトが設定されている)

FC_ERROR_OVER_TIME: 書き込みの失敗(自動動作のタイムアウト)

6.2.3.11 FC_EraseBlock

ブロック単位の消去

関数のプロトタイプ宣言:

```
FC_Result  
FC_EraseBlock(uint32_t BlockAddr)
```

引数:

BlockAddr: ブロック開始アドレスを指定します。

機能:

ブロック単位の消去を行います。プロテクトされていないブロックに対してのみ消去を行います。

戻り値:

FC_SUCCESS: 消去成功

FC_ERROR_PROTECTED: 消去失敗(ブロックにプロテクトが設定されている)

FC_ERROR_OVER_TIME: 消去の失敗(自動動作のタイムアウト)

6.2.3.12 FC_EraseChip

チップ消去

関数のプロトタイプ宣言:

```
FC_Result
```

FC_EraseChip(void)

引数:

なし

機能:

チップ消去を行います。ブロックの一部にプロテクトが設定されている場合、そのブロックのデータは消去されません。

戻り値:

FC_SUCCESS: チップ消去成功。ただしブロックの一部にプロテクトが設定されている場合、そのブロックのデータは消去されません。

FC_ERROR_PROTECTED: 消去失敗(すべてのブロックにプロテクトが設定されている)

FC_ERROR_OVER_TIME: 消去の失敗(自動動作のタイムアウト)

6.2.4 データ構造

なし

7. FUART

7.1 概要

本デバイスは非同期のシリアルチャネル (Full UART)とモデム制御を 1 チャネル内蔵しています。

FUARTドライバ API は、Full UART チャネルを構成する機能、たとえばボーレート、ビット長、パリティチェック、ストップビット、フロー制御、などの共通パラメータを提供します。また、データの送信/受信、エラーチェックなどのような転送を制御します。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義、マクロ、データタイプ、構造を格納する以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\src\\tmpm38x_fuart.c

\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\inc\\tmpm38x_fuart.h

7.2 API 関数

7.2.1 関数一覧

- ◆ void FUART_Enable(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_Disable(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ uint32_t FUART_GetRxData(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_SetTxData(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**, uint32_t **Data**)
- ◆ FUART_Err FUART_GetErrStatus(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_ClearErrStatus(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ WorkState FUART_GetBusyState(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ FUART_StorageStatus FUART_GetStorageStatus(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
FUART_Direction **Direction**)
- ◆ void FUART_Init(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**, FUART_InitTypeDef * **InitStruct**)
- ◆ void FUART_EnableFIFO(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_DisableFIFO(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_SetSendBreak(
TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void FUART_SetINTFIFOLevel(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
uint32_t **RxLevel**, uint32_t **TxLevel**)
- ◆ void FUART_SetINTMask(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**, uint32_t **IntMaskSrc**)
- ◆ FUART_INTStatus FUART_GetINTMask(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ FUART_INTStatus FUART_GetRawINTStatus(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ FUART_INTStatus FUART_GetMaskedINTStatus(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_ClearINT(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
FUART_INTStatus **INTStatus**)
- ◆ void FUART_EnableLoopBack(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_DisableLoopBack(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_EnableDuty(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_DisableDuty(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)
- ◆ void FUART_SetPeriodDetection(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
uint32_t **PeriodDetection**)
- ◆ void FUART_SetTxTerminalMode(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
uint32_t **TxTerminalMode**)
- ◆ void FUART_SetStartBitTerminal(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,

uint32_t StartBitTerminal)

7.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 5 種類に分かれています。:

- 1) Full UART 構成と初期化、共通動作:
FUART_Enable(), FUART_Disable, FUART_Init(), FUART_GetRxData(),
FUART_SetTxData(), FUART_GetErrStatus(), FUART_ClearErrStatus(),
FUART_GetBusyState(), FUART_GetStorageStatus(), FUART_SetSendBreak()
- 2) FIFO と DMA の設定.
FUART_EnableFIFO(), FUART_DisableFIFO(), FUART_SetINTFIFOLevel()
- 3) 割り込み設定、割り込みステータスとクリア
FUART_SetINTMask(), FUART_GetINTMask(), FUART_GetRawINTStatus(),
FUART_GetMaskedINTStatus, FUART_ClearINT()
- 4) モデム制御
FUART_GetModemStatus()
- 5) 50%デューティーモード制御
FUART_EnableLoopBack(), FUART_DisableLoopBack(), FUART_EnableDuty(),
FUART_DisableDuty(), FUART_SetPeriodDetection(),
FUART_SetTxTerminalMode(), FUART_SetStartBitTerminal()

7.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ “TSB_FUART_TypeDef* **FUARTx**” は、**FUART0** を指定してください。

7.2.3.1 FUART_Enable

Full UART チャンネルの有効化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_Enable(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

Full UART チャンネルを有効にします。

戻り値:

なし

7.2.3.2 FUART_Disable

Full UART チャンネルの無効化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_Disable(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

Full UART チャンネルを無効にします。

戻り値:

なし

7.2.3.3 FUART_GetRxData

受信データの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
FUART_GetRxData(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

受信データを取得します。

本 API は、**FUART_GetStorageStatus(FUARTx, FUART_RX)**の戻り値が **FUART_STORAGE_NORMAL** あるいは **FUART_STORAGE_FULL** の場合に使用してください。

戻り値:

受信データ

7.2.3.4 FUART_SetTxData

送信データの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_SetTxData(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx,  
                uint32_t Data)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

Data: 送信データポインタです。データサイズは 0x00 - 0xFF です。

機能:

送信用にデータを設定し、**FUARTx** で選択された Full UART チャンネル経由で送信を開始します。

戻り値:

なし

7.2.3.5 FUART_GetErrStatus

受信エラーステータスの取得

関数のプロトタイプ宣言:

FUART_Err
FUART_GetErrStatus(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

本 API は、データ転送後にエラーステータスを取得します。そのため本 API は、**FUART_GetRxData(FUARTx)**の後に実行してください。ただし、このリードシーケンスはエラーステータス情報を取得した直後のみ実行可能です。

戻り値:

FUART_NO_ERR: エラーはありません

FUART_OVERRUN: オーバーランエラー

FUART_PARITY_ERR: パリティエラー

FUART_FRAMING_ERR: フレミングエラー

FUART_BREAK_ERR: ブレークエラー

FUART_ERRS: 2 つ以上のエラー

7.2.3.6 FUART_ClearErrStatus

受信エラーステータスのクリア

関数のプロトタイプ宣言:

void
FUART_ClearErrStatus(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

フレミングエラー、パリティエラー、ブレークエラー、オーバーランエラーの各エラーがクリアされます。

戻り値:

なし

7.2.3.7 FUART_GetBusyState

データ送信状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState
FUART_GetBusyState(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

データ送信中であるか停止中であるか状態を取得します。

戻り値:
データ送信状態:
BUSY: データ送信中。
DONE: データ送信が停止中

7.2.3.8 FUART_GetStorageStatus

送受信 FIFO または送受信保持レジスタの取得

関数のプロトタイプ宣言:
FUART_GetStorageStatus(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**,
FUART_Direction **Direction**)

引数:
FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。
Direction: 送信または受信のどちらかを選択します。
➤ **FUART_RX**: 受信 FIFO または受信保持レジスタ
➤ **FUART_TX**: 送信 FIFO または送信保持レジスタ

機能:
FIFO が許可されている場合、送受信 FIFO のステータスを取得します。
FIFO が 禁止されている場合、送受信保持レジスタのステータスを取得します。

戻り値:
FUART_STORAGE_EMPTY: FIFO または保持レジスタが empty 状態
FUART_STORAGE_NORMAL: FIFO または保持レジスタが正常状態
FUART_STORAGE_INVALID: FIFO または保持レジスタが無効状態
FUART_STORAGE_FULL: FIFO または保持レジスタが full 状態

7.2.3.9 FUART_Init

Full UART チャンネルの設定

関数のプロトタイプ宣言:
void
FUART_Init(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**,
FUART_InitTypeDef * **InitStruct**)

引数:
FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

InitStruct: ボーレート、ワード長、ストップビット、パリティ、転送モード、フロー制御の設定値を格納します。(詳細は“データ構造説明”を参照)

機能:
ボーレート、ワード長、ストップビット、パリティ、転送モード、フロー制御の設定を行います。
Full UART 回路を有効にする前に本 API を実行してください。

戻り値:

なし

7.2.3.10 FUART_EnableFIFO

送受信 FIFO の有効化

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_EnableFIFO(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

送受信 FIFO を許可します。

戻り値:

なし

7.2.3.11 FUART_DisableFIFO

送受信 FIFO の無効化

関数のプロトタイプ宣言:

FUART_DisableFIFO(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

送受信 FIFO を禁止し、モードをキャラクタモードに変更します。

戻り値:

なし

7.2.3.12 FUART_SetSendBreak

ブレーク付き送信の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_SetSendBreak(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**,
FunctionalState **NewState**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

NewState: ブレーク付き送信の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: ブレーク送信する。
- **DISABLE**: ブレーク送信しない。

機能:

ブレーク付き送信の許可/禁止を選択します。ブレーク状態を生成するには、最低 1 つ以上のフレームを送信中に、本 API にてイネーブルにしてください。ブレーク状態が生成された場合でも、送信 FIFO には影響を与えません。

戻り値:

なし

7.2.3.13 FUART_SetINTFIFOLevel

送受信割り込み FIFO レベルの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_SetINTFIFOLevel(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx,  
                      uint32_t RxLevel,  
                      uint32_t TxLevel)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

RxLevel: 受信割り込み FIFO レベルを選択します。(受信 FIFO は 32 段です)

- **FUART_RX_FIFO_LEVEL_4**: 受信 FIFO が 4 バイト以上
- **FUART_RX_FIFO_LEVEL_8**: 受信 FIFO が 8 バイト以上
- **FUART_RX_FIFO_LEVEL_16**: 受信 FIFO が 16 バイト以上
- **FUART_RX_FIFO_LEVEL_24**: 受信 FIFO が 24 バイト以上
- **FUART_RX_FIFO_LEVEL_28**: 受信 FIFO が 28 バイト以上

TxLevel: 送信割り込み FIFO レベルを選択します。(送信 FIFO は 32 段です)

- **FUART_TX_FIFO_LEVEL_4**: 送信 FIFO が 4 バイト以上
- **FUART_TX_FIFO_LEVEL_8**: 送信 FIFO が 8 バイト以上
- **FUART_TX_FIFO_LEVEL_16**: 送信 FIFO が 16 バイト以上
- **FUART_TX_FIFO_LEVEL_24**: 送信 FIFO が 24 バイト以上
- **FUART_TX_FIFO_LEVEL_28**: 送信 FIFO が 28 バイト以上

機能:

UARTTXINTR および UARTRXINTR が発生する FIFO レベルを定義します。このレベルを超えると割り込みが発生します。

戻り値:

なし

7.2.3.14 FUART_SetINTMask

割り込み発生要因の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_SetINTMask(TSB_FUART_TypeDef * FUARTx,  
                 uint32_t IntMaskSrc)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

IntMaskSrc: 割り込み発生要因を選択します。

- **FUART_NONE_INT_MASK:** すべての割り込みを禁止します。
- **FUART_RX_FIFO_INT_MASK:** 受信割り込みを許可します。
- **FUART_TX_FIFO_INT_MASK:** 送信割り込みを許可します。
- **FUART_RX_TIMEOUT_INT_MASK:** 受信タイムアウト割り込みを許可します。
- **FUART_FRAMING_ERR_INT_MASK:** フレーミングエラー割り込みを許可します。
- **FUART_PARITY_ERR_INT_MASK:** パリティエラー割り込みを許可します。
- **FUART_BREAK_ERR_INT_MASK:** ブレークエラー割り込みを許可します。
- **FUART_OVERRUN_ERR_INT_MASK:** オーバーランエラー割り込みを許可します。
- **FUART_ALL_INT_MASK:** すべての割り込みを許可します。

機能:

要因毎に割り込み発生 of 許可/禁止を設定します。選択されていない要因の割り込みは禁止されます。

戻り値:

なし

7.2.3.15 FUART_GetINTMask

割り込み発生要因の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FUART_INTStatus

FUART_GetINTMask(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

割り込み発生 of 許可/禁止状態を要因毎に取得します。

戻り値:

FUART_INTStatus: 割り込み発生要因が格納された変数です。

(詳細は“データ構成説明”を参照)

7.2.3.16 FUART_GetRawINTStatus

割り込み許可/禁止設定前の割り込みステータスの取得

関数のプロトタイプ宣言:

FUART_INTStatus

FUART_GetRawINTStatus(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

割り込み許可/禁止設定前の割り込みステータスを取得します。

戻り値:

FUART_INTStatus: 割り込みステータスが格納された変数です。(詳細は“データ構成説明”を参照)

7.2.3.17 FUART_GetMaskedINTStatus

割り込み許可/禁止設定後の割り込みステータスの取得

関数のプロトタイプ宣言:

FUART_INTStatus

FUART_GetMaskedINTStatus(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

割り込み許可/禁止設定後の割り込みステータスを取得します。

戻り値:

FUART_INTStatus: 割り込みステータスが格納された変数です。(詳細は“データ構成説明”を参照)

7.2.3.18 FUART_ClearINT

割り込み要因のクリア

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_ClearINT(TSB_FUART_TypeDef * **FUARTx**,
FUART_INTStatus **INTStatus**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

INTStatus: クリア対象の割り込み要因を格納してください。(詳細は“データ構成説明”を参照)

機能:

割り込み要因をクリアします。

戻り値:

なし

7.2.3.19 FUART_EnableLoopBack

ループバックテストモードの許可

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_EnableLoopBack(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

ループバックテストモードを許可します。

戻り値:

なし

7.2.3.20 FUART_DisableLoopBack

ループバックテストモードの禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_DisableLoopBack(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

ループバックテストモードを禁止します。

戻り値:

なし

7.2.3.21 FUART_EnableDuty

50%デューティモードの有効化

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_EnableDuty (TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

50%デューティモードを有効にします。

戻り値:

なし

7.2.3.22 FUART_DisableDuty

50%デューティモードの無効化

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_DisableDuty (TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

機能:

50%デューティモードを無効にします。

戻り値:

なし

7.2.3.23 FUART_SetPeriodDetection

"0"検出期間の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_SetPeriodDetection(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
uint32_t **PeriodDetection**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

PeriodDetection: 以下のいずれかの"0"検出期間を選択します。

- **FUART_PERIOD_DETEC_1**: 1/16 幅以上で"0"検出
- **FUART_PERIOD_DETEC_2**: 2/16 幅以上で"0"検出
- **FUART_PERIOD_DETEC_3**: 3/16 幅以上で"0"検出
- **FUART_PERIOD_DETEC_4**: 4/16 幅以上で"0"検出
- **FUART_PERIOD_DETEC_5**: 5/16 幅以上で"0"検出
- **FUART_PERIOD_DETEC_6**: 6/16 幅以上で"0"検出
- **FUART_PERIOD_DETEC_7**: 7/16 幅以上で"0"検出

機能:

"0"検出期間を選択します。

戻り値:

なし

7.2.3.24 FUART_SetTxTerminalMode

送信端子モードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

FUART_SetTxTerminalMode(TSB_UART_TypeDef * **FUARTx**,
uint32_t **TxTerminalMode**)

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

TxTerminalMode: 以下のいずれかの送信端子モードを選択します。

- **FUART_1_TERMINAL**: 1 端子モード
- **FUART_2_TERMINAL**: 2 端子モード

機能:

送信端子モードを選択します。

戻り値:

なし

7.2.3.25 FUART_SetStartBitTerminal

スタートビット開始端子の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
FUART_SetStartBitTerminal(TSB_UART_TypeDef * FUARTx,  
                           uint32_t StartBitTerminal)
```

引数:

FUARTx: Full UART チャンネルを指定します。

StartBitTerminal: 以下のいずれかのスタートビット開始端子を選択します。

- **FUART_TXD50A**: UTxTXD50A
- **FUART_TXD50B**: UTxTXD50B

機能:

スタートビット開始端子をを選択します。

戻り値:

なし

7.2.4 データ構造

7.2.4.1 FUART_InitTypeDef

メンバ:

uint32_t

BaudRate: ボーレートを設定します。0(bps)は設定できません。また、6250000 (bps)より小さい値を設定してください。

uint32_t

DataBits: フレームで送受信されたデータビットの数を設定します。

- **UART_DATA_BITS_5**: 5bit
- **UART_DATA_BITS_6**: 6bit
- **UART_DATA_BITS_7**: 7bit
- **UART_DATA_BITS_8**: 8bit

uint32_t

StopBits: 送信ストップビット長を設定します。

- **UART_STOP_BITS_1**: 1bit
- **UART_STOP_BITS_2**: 2bit

uint32_t

Parity: パリティ状態を設定します。

- **UART_NO_PARITY**: パリティの送信およびチェックなし

- **UART_0_PARITY:** パリティビットとして"0"を送信または受信
- **UART_1_PARITY:** パリティビットとして"1"を送信または受信
- **UART_EVEN_PARITY:** パリティビットとして偶数パリティを送信または受信
- **UART_ODD_PARITY:** パリティビットとして奇数パリティを送信または受信

uint32_t

Mode: 受信、送信あるいは両方の許可/禁止を設定します。

- **UART_ENABLE_TX:** 送信許可
- **UART_ENABLE_RX:** 受信許可
- **UART_ENABLE_TX | UART_ENABLE_RX:** 送受信許可

uint32_t

FlowCtrl: ハードウェアフロー制御を設定します。

- **UART_NONE_FLOW_CTRL:** フロー制御なし

7.2.4.2 FUART_INTStatus

メンバ:

uint32_t

All: Full UART 割り込みステータス、または割り込み制御

Bit

uint32_t

Reserved1: 1 未使用

uint32_t

Reserved2: 1 未使用

uint32_t

Reserved3: 1 未使用

uint32_t

Reserved4: 1 未使用

uint32_t

RxFIFO: 1 受信 FIFO 割り込み

uint32_t

TxFIFO: 1 送信 FIFO 割り込み

uint32_t

RxTimeout: 1 受信タイムアウト割り込み

uint32_t

FramingErr: 1 フレーミングエラー割り込み

uint32_t

ParityErr: 1 パリティエラー割り込み

uint32_t

BreakErr: 1 ブレークエラー割り込み

uint32_t

OverrunErr: 1 オーバーランエラー割り込み

uint32_t

Reserved: 21未使用

8. GPIO

8.1 概要

本製品の汎用 I/O ポートは、入出力はビット単位で指定でき、入出力ポート機能の他に、内蔵する周辺機能に対する入出力端子としても使用されます。

GPIO ドライバ API は各ポートの設定機能を持ち、入出力、プルアップ、プルダウン、オープンドレイン、CMOS などを設定します。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\src\\tmpm38x_gpio.c
\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\inc\\tmpm38x_gpio.h

8.2 API 関数

8.2.1 関数一覧

- ◆ uint8_t GPIO_ReadData(GPIO_Port **GPIO_x**);
- ◆ uint8_t GPIO_ReadDataBit(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**);
- ◆ void GPIO_WriteData(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Data**);
- ◆ void GPIO_WriteDataBit(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**, uint8_t **BitValue**);
- ◆ void GPIO_Init(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**,
GPIO_InitTypeDef ***GPIO_InitStruct**);
- ◆ void GPIO_SetOutput(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**);
- ◆ void GPIO_SetInput(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**);
- ◆ void GPIO_SetOutputEnableReg(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO_SetInputEnableReg(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO_SetPullUp(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO_SetPullDown(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO_SetOpenDrain(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **Bit_x**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO_EnableFuncReg(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **FuncReg_x**, uint8_t **Bit_x**);
- ◆ void GPIO_DisableFuncReg(GPIO_Port **GPIO_x**, uint8_t **FuncReg_x**, uint8_t **Bit_x**);

8.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。

- 1) 入出力ポートへの書き込み/読み出し:
GPIO_ReadData(), GPIO_ReadDataBit(), GPIO_WriteData(), GPIO_WriteDataBit()
- 2) 入出力ポートの初期化と設定:
GPIO_SetOutput(), GPIO_SetInput(), GPIO_SetOutputEnableReg(),
GPIO_SetInputEnableReg(), GPIO_SetPullUp(), GPIO_SetPullDown(),
GPIO_SetOpenDrain(), GPIO_Init()
- 3) その他:
GPIO_EnableFuncReg(), GPIO_DisableFuncReg()

8.2.3 関数仕様

8.2.3.1 GPIO_ReadData

DATA データレジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
GPIO_ReadData(GPIO_Port GPIO_x)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP**: GPIO port P

機能:

DATA レジスタを読み込みます。

戻り値:

DATA レジスタの値です。

8.2.3.2 GPIO_ReadDataBit

ビット単位での DATA レジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
GPIO_ReadDataBit(GPIO_Port GPIO_x,  
uint8_t Bit_x)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L

- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)

Bit_x: GPIO 端子を選択します。

- **GPIO_BIT_0**: GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1**: GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2**: GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3**: GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4**: GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5**: GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6**: GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7**: GPIO pin 7

機能:

ビット単位で DATA データレジスタを読み込みます。

戻り値:

- **GPIO_BIT_VALUE_0**: 0
- **GPIO_BIT_VALUE_1**: 1

8.2.3.3 GPIO_WriteData

DATA レジスタへの書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

void

GPIO_WriteData(GPIO_Port **GPIO_x**,
uint8_t **Data**)

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP**: GPIO port P

Data: DATA レジスタに書き込む値を設定します。

機能:

DATA レジスタへ指定された値を書き込みます。

戻り値:

なし

8.2.3.4 GPIO_WriteDataBit

ビット単位での DATA レジスタの書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_WriteDataBit(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  uint8_t BitValue)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP**: GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。

- **GPIO_BIT_0**: GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1**: GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2**: GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3**: GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4**: GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5**: GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6**: GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7**: GPIO pin 7

BitValue: GPIO 端子値

- **GPIO_BIT_VALUE_0**: 0
- **GPIO_BIT_VALUE_1**: 1

機能:

ビット単位で DATA データレジスタを書き込みます。

戻り値:

なし

8.2.3.5 GPIO_Init

GPIO ポートの初期設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_Init(GPIO_Port GPIO_x,  
          uint8_t Bit_x,
```

GPIO_InitTypeDef * **GPIO_InitStruct**)

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP**: GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0**: GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1**: GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2**: GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3**: GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4**: GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5**: GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6**: GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7**: GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL**: すべての GPIO 端子

GPIO_InitStruct: GPIO 基本設定の構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

GPIO ポートを IO モード、プルアップ、プルダウン、オープンドレインポート、CMOS ポートなどの設定をおこないます。本 API は **GPIO_SetOutput()**, **GPIO_SetInput()**, **GPIO_SetPullUP()**, **GPIO_SetOpenDrain()**を実行します。

戻り値:

なし

8.2.3.6 GPIO_SetOutput

出力ポートの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetOutput(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Bit_x)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C

- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP**: GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0**: GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1**: GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2**: GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3**: GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4**: GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5**: GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6**: GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7**: GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL**: すべての GPIO 端子

機能:

出力ポートに設定します。

戻り値:

なし

8.2.3.7 GPIO_SetInput

入力ポートの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetInput(GPIO_Port GPIO_x,  
               uint8_t Bit_x)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP**: GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0:** GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1:** GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2:** GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3:** GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4:** GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5:** GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6:** GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7:** GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL:** すべての GPIO 端子

機能:

入力ポートに設定します。

補足:

TMPM381:

ポート H/ポート I/ポート J をアナログ入力として使用する場合、PHIE/PIIE/PJIE と PHPUP/PIUP/PJPUP は無効にします。

TMPM383:

ポート H/ポート I をアナログ入力として使用する場合、PHIE/PIIE と PHPUP/PIUP は無効にします。

戻り値:

なし

8.2.3.8 GPIO_SetOutputEnableReg

出力ポートの許可/禁止設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetOutputEnableReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                        uint8_t Bit_x,  
                        FunctionalState NewState)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA:** GPIO port A
- **GPIO_PB:** GPIO port B
- **GPIO_PC:** GPIO port C
- **GPIO_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE:** GPIO port E
- **GPIO_PF:** GPIO port F
- **GPIO_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH:** GPIO port H
- **GPIO_PI:** GPIO port I
- **GPIO_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL:** GPIO port L
- **GPIO_PM:** GPIO port M
- **GPIO_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP:** GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0:** GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1:** GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2:** GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3:** GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4:** GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5:** GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6:** GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7:** GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL:** すべての GPIO 端子

NewState:

- **ENABLE :** 出力許可
- **DISABLE :** 出力禁止

機能:

GPIO 端子出力の許可/禁止を設定します。

NewState が **ENABLE** の時、出力許可。

NewState が **DISABLE** の時、出力禁止。

戻り値:

なし

8.2.3.9 GPIO_SetInputEnableReg

入力ポートの許可/禁止設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetInputEnableReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                        uint8_t Bit_x,  
                        FunctionalState NewState)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA:** GPIO port A
- **GPIO_PB:** GPIO port B
- **GPIO_PC:** GPIO port C
- **GPIO_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE:** GPIO port E
- **GPIO_PF:** GPIO port F
- **GPIO_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH:** GPIO port H
- **GPIO_PI:** GPIO port I
- **GPIO_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL:** GPIO port L
- **GPIO_PM:** GPIO port M
- **GPIO_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP:** GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0:** GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1:** GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2:** GPIO pin 2

- **GPIO_BIT_3:** GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4:** GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5:** GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6:** GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7:** GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL:** すべての GPIO 端子

NewState:

- **ENABLE:** 入力許可
- **DISABLE:** 入力禁止

機能:

GPIO 端子入力の許可/禁止を設定します。

NewState が **ENABLE** の時、入力許可。

NewState が **DISABLE** の時、入力禁止。

戻り値:

なし

8.2.3.10 GPIO_SetPullUp

プルアップポートの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetPullUp(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Bit_x,  
                FunctionalState NewState)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA:** GPIO port A
- **GPIO_PB:** GPIO port B
- **GPIO_PC:** GPIO port C
- **GPIO_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE:** GPIO port E
- **GPIO_PF:** GPIO port F
- **GPIO_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH:** GPIO port H
- **GPIO_PI:** GPIO port I
- **GPIO_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL:** GPIO port L
- **GPIO_PM:** GPIO port M
- **GPIO_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP:** GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0:** GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1:** GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2:** GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3:** GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4:** GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5:** GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6:** GPIO pin 6

- **GPIO_BIT_7:** GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL:** すべての GPIO 端子

NewState:

- **ENABLE:** プルアップ許可
- **DISABLE:** プルアップ禁止

機能:

GPIO 端子プルアップの許可/禁止を設定します。

NewState が **ENABLE** の時、プルアップ許可。

NewState が **DISABLE** の時、プルアップ禁止。

戻り値:

なし

8.2.3.11 GPIO_SetPullDown

プルダウンポートの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetPullDown(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA:** GPIO port A
- **GPIO_PB:** GPIO port B
- **GPIO_PC:** GPIO port C
- **GPIO_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE:** GPIO port E
- **GPIO_PF:** GPIO port F
- **GPIO_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH:** GPIO port H
- **GPIO_PI:** GPIO port I
- **GPIO_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL:** GPIO port L
- **GPIO_PM:** GPIO port M
- **GPIO_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP:** GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0:** GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1:** GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2:** GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3:** GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4:** GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5:** GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6:** GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7:** GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL:** すべての GPIO 端子

NewState:

- **ENABLE:** プルダウン許可
- **DISABLE:** プルダウン禁止

機能:

GPIO 端子プルダウンの許可/禁止を設定します。

NewState が **ENABLE** の時、プルダウン許可。

NewState が **DISABLE** の時、プルダウン禁止。

戻り値:

なし

8.2.3.12 GPIO_SetOpenDrain

CMOS/オープンドレインポートの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetOpenDrain(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA:** GPIO port A
- **GPIO_PB:** GPIO port B
- **GPIO_PC:** GPIO port C
- **GPIO_PD:** GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE:** GPIO port E
- **GPIO_PF:** GPIO port F
- **GPIO_PG:** GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH:** GPIO port H
- **GPIO_PI:** GPIO port I
- **GPIO_PJ:** GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL:** GPIO port L
- **GPIO_PM:** GPIO port M
- **GPIO_PN:** GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)
- **GPIO_PP:** GPIO port P

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0:** GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1:** GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2:** GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3:** GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4:** GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5:** GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6:** GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7:** GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL:** すべての GPIO 端子

NewState:

- **ENABLE:** オープンドレイン許可
- **DISABLE:** CMOS 許可

機能:

GPIO 端子 CMOS/オープンドレインの許可/禁止を設定します。

NewState が **ENABLE** の時、オープンドレイン許可。

NewState が **DISABLE** の時、CMOS 許可。

戻り値:

なし

8.2.3.13 GPIO_EnableFuncReg

機能ポートの有効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_EnableFuncReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                    uint8_t FuncReg_x,  
                    uint8_t Bit_x)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)

FuncReg_x: GPIO 機能レジスタの番号を選択します。

- **GPIO_FUNC_REG_1**: GPIO 機能レジスタ 1
- **GPIO_FUNC_REG_2**: GPIO 機能レジスタ 2
- **GPIO_FUNC_REG_3**: GPIO 機能レジスタ 3
- **GPIO_FUNC_REG_4**: GPIO 機能レジスタ 4
- **GPIO_FUNC_REG_5**: GPIO 機能レジスタ 5

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0**: GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1**: GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2**: GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3**: GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4**: GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5**: GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6**: GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7**: GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL**: すべての GPIO 端子

機能:

GPIO 端子の機能を有効に設定します。

戻り値:
なし

8.2.3.14 GPIO_DisableFuncReg

機能ポートの無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_DisableFuncReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                     uint8_t FuncReg_x,  
                     uint8_t Bit_x)
```

引数:

GPIO_x: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO_PA**: GPIO port A
- **GPIO_PB**: GPIO port B
- **GPIO_PC**: GPIO port C
- **GPIO_PD**: GPIO port D (TMPM383 では PD は選択できません)
- **GPIO_PE**: GPIO port E
- **GPIO_PF**: GPIO port F
- **GPIO_PG**: GPIO port G (TMPM383 では PG は選択できません)
- **GPIO_PH**: GPIO port H
- **GPIO_PI**: GPIO port I
- **GPIO_PJ**: GPIO port J (TMPM383 では PJ は選択できません)
- **GPIO_PL**: GPIO port L
- **GPIO_PM**: GPIO port M
- **GPIO_PN**: GPIO port N (TMPM383 では PN は選択できません)

FuncReg_x: GPIO 機能レジスタの番号を選択します。

- **GPIO_FUNC_REG_1**: GPIO 機能レジスタ 1
- **GPIO_FUNC_REG_2**: GPIO 機能レジスタ 2
- **GPIO_FUNC_REG_3**: GPIO 機能レジスタ 3
- **GPIO_FUNC_REG_4**: GPIO 機能レジスタ 4
- **GPIO_FUNC_REG_5**: GPIO 機能レジスタ 5

Bit_x: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO_BIT_0**: GPIO pin 0
- **GPIO_BIT_1**: GPIO pin 1
- **GPIO_BIT_2**: GPIO pin 2
- **GPIO_BIT_3**: GPIO pin 3
- **GPIO_BIT_4**: GPIO pin 4
- **GPIO_BIT_5**: GPIO pin 5
- **GPIO_BIT_6**: GPIO pin 6
- **GPIO_BIT_7**: GPIO pin 7
- **GPIO_BIT_ALL**: すべての GPIO 端子

機能:

GPIO 端子の機能を無効に設定します。

戻り値:
なし

8.2.4 データ構造

8.2.4.1 GPIO_InitTypeDef

データフィールド:

uint8_t

IOMode ポートの入出力設定

- **GPIO_INPUT**: 入力ポートに設定
- **GPIO_OUTPUT**: 出力ポートに設定
- **GPIO_IO_MODE_NONE**: 入出力モードを変更しない

uint8_t

PullUp プルアップポートの許可/禁止設定

- **GPIO_PULLUP_ENABLE**: プルアップ許可
- **GPIO_PULLUP_DISABLE**: プルアップ禁止
- **GPIO_PULLUP_NONE**: プルアップ機能が無い、または設定変更しない

uint8_t

OpenDrain オープンドレインポート/CMOSポートの設定

- **GPIO_OPEN_DRAIN_ENABLE**: オープンドレインポートに設定
- **GPIO_OPEN_DRAIN_DISABLE**: CMOSポートに設定
- **GPIO_OPEN_DRAIN_NONE**: オープンドレイン機能がない、または設定変更しない

uint8_t

PullDown プルダウンポートの許可/禁止設定

- **GPIO_PULLDOWN_ENABLE**: プルダウン許可
- **GPIO_PULLDOWN_DISABLE**: プルダウン禁止
- **GPIO_PULLDOWN_NONE**: プルダウン機能がない、または設定変更しない

8.2.4.2 GPIO_RegTypeDef

メンバ:

uint8_t

PinDATA DATAレジスタのマスク値

uint8_t

PinCR CRレジスタのマスク値

- **0**: 出力ディゼーブル
- **1**: 出力イネーブル

uint8_t

PinFR[FRMAX] FRレジスタのマスク値

uint8_t

PinOD ODレジスタのマスク値

- **0**: CMOS
- **1**: オープンドレイン

uint8_t

PinPUP PUPレジスタのマスク値

- 0: Pull-up ディゼーブル
- 1: Pull-up イネーブル

uint8_t

PinPDN PDN レジスタのマスク値

- 0: Pull-down ディゼーブル
- 1: Pull-down イネーブル

uint8_t

PinPIE IE レジスタのマスク値

- 0: 入力ディゼーブル
- 1: 入力イネーブル

8.2.4.3 TSB_Port_TypeDef

メンバ:

__IO uint32_t

DATA DATA レジスタのリードデータまたはライトデータです。

__IO uint32_t

CR CR レジスタのリードデータまたはライトデータです。

__IO uint32_t

FR[FRMAX] “FR[FRMAX]” レジスタのリードデータまたはライトデータです。

uint32_t

RESERVED0[RESER] 未使用

__IO uint32_t

OD OD レジスタのリードデータまたはライトデータです。

__IO uint32_t

PUP PUP レジスタのリードデータまたはライトデータです。

__IO uint32_t

PDN PDN レジスタのリードデータまたはライトデータです。

uint32_t

RESERVED1[RESER] 未使用

__IO uint32_t

IE IE レジスタのリードデータまたはライトデータです。

9. OFD

9.1 概要

本デバイスは周波数検知回路(OFD)を内蔵しています。この回路は、クロックの異常状態や停止状態を検出するとリセットを発生する回路です。

OFDドライバ API は、OFD 動作の許可/禁止、検知周波数設定、OFD 回路の状態の取得などを行う関数セットです。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_ofd.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_ofd.h

9.2 API 関数

9.2.1 関数一覧

- ◆ void OFD_SetRegWriteMode(FunctionalState NewState);
- ◆ void OFD_Enable(void);
- ◆ void OFD_Disable(void);
- ◆ void OFD_SetDetectionFrequency(uint8_t HigherDetectionCount, uint8_t LowerDetectionCount);
- ◆ void OFD_Reset(FunctionalState NewState);
- ◆ OFD_Status OFD_GetStatus(void);

9.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。:

- 1) OFD 回路の初期化と設定:
OFD_SetRegWriteMode(), OFD_SetDetectionFrequency(), OFD_Enable(), OFD_Disable()
- 2) OFD 動作状態、周波数異常検知フラグの取得:
OFD_GetStatus()
- 3) OFD リセットの許可/禁止:
OFD_Reset ()

9.2.3 関数仕様

9.2.3.1 OFD_SetRegWriteMode

レジスタ書き込み制御

関数のプロトタイプ宣言:

void
OFD_SetRegWriteMode(FunctionalState **NewState**)

引数:

NewState : 以下から、OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタへの書き込み許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

本関数は、**NewState** が **ENABLE** の時に、OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタの書き込みを許可し、**DISABLE** の時に書き込みを禁止します。

戻り値:

なし

9.2.3.2 OFD_Enable

OFD 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
OFD_Enable(void)
```

引数:

なし

機能:

OFD 動作を許可します。

戻り値:

なし

9.2.3.3 OFD_Disable

OFD 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
OFD_Disable(void)
```

引数:

なし

機能:

OFD 動作を禁止します。

戻り値:

なし

9.2.3.4 OFD_SetDetectionFrequency

検知周波数の上限下限値設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
OFD_SetDetectionFrequency(uint8_t HigherDetectionCount,  
                           uint8_t LowerDetectionCount)
```

引数:

HigherDetectionCount: 検出周波数上限値

LowerDetectionCount: 検出周波数下限値

機能:

本関数は、検出周波数上限値、検出周波数下限値を設定します。

戻り値:

なし

9.2.3.5 OFD_Reset

OFD リセットの許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
OFD_Reset(FunctionalState NewState)
```

引数:

NewState : 以下から、OFD リセットの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

OFD リセットの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

9.2.3.6 OFD_GetStatus

OFD 動作状態、周波数異常検知フラグの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
OFD_Status  
OFD_GetStatus(void)
```

引数:

なし

機能:

OFD 動作状態、周波数異常検知フラグを取得します。

戻り値:

OFD_Status: OFD ステータスの構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

9.2.4 データ構造

9.2.4.1 OFD_Status

メンバ:

uint32_t

All: データ

ビットフィールド:

uint32_t

FrequencyError: 1 周波数異常検知フラグ

uint32_t

OFDBusy: 1 OFD 動作状態

10. RMC

10.1 概要

本デバイスは搬送波が取り除かれたリモコン信号の受信を行います。

リモコン受信:

- サンプルングクロックは低周波クロック(32.768KHz)とタイマ出力を選択可能。
- ノイズキャンセル時間を調整可能。
- リーダ検出。
- 最大 72bit まで一括受信。

RMCドライバ API ではチャンネル毎の機能セットが提供されています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_rmc.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_rmc.h

10.2 API 関数

10.2.1 関数一覧

- ◆ void RMC_Enable(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**)
- ◆ void RMC_Disable(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**)
- ◆ void RMC_Init(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, RMC_InitTypeDef * **RMC_InitStruct**)
- ◆ void RMC_SetRxCtrl(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ RMC_RxDataTypeDef RMC_GetRxData(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**)
- ◆ void RMC_SetLeaderDetection(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**,
RMC_LeaderParameterTypeDef **LeaderPara**)
- ◆ void RMC_SetFallingEdgeINT(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**,
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void RMC_SetSignalRxMethod(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**,
RMC_RxMethod **Method**)
- ◆ void RMC_SetRxTrg(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, uint8_t **LowWidth**,
uint8_t **MaxDataBitCycle**)
- ◆ void RMC_SetThreshold(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, uint8_t **LargerThreshold**,
uint8_t **SmallerThreshold**)
- ◆ void RMC_SetInputSignalReversed(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**,
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void RMC_SetNoiseCancellation(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**,
uint8_t **NoiseCancellationTime**)
- ◆ RMC_INTFactor RMC_GetINTFactor(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**)
- ◆ RMC_LeaderDetection RMC_GetLeader(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**)
- ◆ void RMC_SetRxEndBitNum(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**,
RMC_RxEndBitsReg **Reg_x**, uint8_t **BitNum**)
- ◆ void RMC_SetSrcClk(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, RMC_SrcClk **Clk**)

10.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。:

- 1) RMC の初期化と設定:
RMC_Enable(), RMC_Disable(), RMC_Init(), RMC_SetRxCtrl()
- 2) RMC 基本状態の設定:
RMC_SetLeaderDetection(), SetFallingEdgeINT(), RMC_SetSignalRxMethod(),
RMC_SetRxTrg(), RMC_SetThreshold(), RMC_SetInputSignalReversed(),
RMC_SetNoiseCancellation(), RMC_SetRxEndBitNum(), RMC_SetSrcClk()
- 3) 受信状態の取得、受信データの取得:
RMC_GetINTFactor(), RMC_GetLeader(), RMC_GetRxData()

10.2.3 関数仕様

補足: 引数“TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**”は **TSB_RMC** を指定してください。

10.2.3.1 RMC_Enable

RMC 機能の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_Enable(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

機能:

RMCCEN<RMCCEN>ビットを 1 に設定し、RMC 機能を許可します。

戻り値:

なし

10.2.3.2 RMC_Disable

RMC 機能の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_Disable(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

機能:

RMCCEN<RMCCEN>ビットを 0 クリアし、RMC 機能を禁止します。

戻り値:

なし

10.2.3.3 RMC_Init

RMC レジスタの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
```

RMC_Init(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, RMC_InitTypeDef * **RMC_InitStruct**)

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

RMC_InitStruct: RMC 動作の初期値です。

(詳細は“データ構造説明”を参照してください。)

機能:

RMC チャンネルの初期化を行います。

戻り値:

なし

10.2.3.4 RMC_SetRxCtrl

受信動作の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RMC_SetRxCtrl(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**, FunctionalState **NewState**)

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

NewState: RMC 機能の受信動作を指定します。

- **ENABLE**: 許可。
- **DISABLE**: 禁止。

機能:

RMC 判定機能動作の許可/禁止を選択します。

戻り値:

なし

10.2.3.5 RMC_GetRxData

受信データの取得

関数のプロトタイプ宣言:

RMC_RxDataTypeDef

RMC_GetRxData(TSB_RMC_TypeDef * **RMCx**)

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

機能:

RMCRBUF1~RMCRBUF 3 と RMCRSTAT<RMCRNUM>から受信データを取得します。

戻り値:

RMC_RxDataDef: RMC 受信バッファの構造体。(詳細は“データ構造説明”を参照)

10.2.3.6 RMC_SetLeaderDetection

リーダー検出の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetLeaderDetection(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                        RMC_LeaderParameterTypeDef LeaderPara)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

LeaderPara: リーダー検出を設定します。(詳細は“データ構造説明”を参照)

機能:

RMC リーダー検出を設定します。

この関数は RMCRCR1、RMCRCR2<RMCLIEN>、RMCRCR2<RMCLD>の設定を行います。

詳細は MCU データシートを参照してください。

戻り値:

なし

10.2.3.7 RMC_SetFallingEdgeINT

リモコン入力立下りエッジ割り込み発生の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetFallingEdgeINT(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                       FunctionalState NewState)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

NewState: リモコン入力立下りエッジ割り込み発生 of 許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

NewState が **ENABLE** の場合、リモコン入力立ち下がリエッジ割り込みが有効になります。**NewState** が **DISABLE** の場合、無効になります。

戻り値:

なし

10.2.3.8 RMC_SetSignalRxMethod

位相方式のリモコン受信モード選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetSignalRxMethod(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,
```

RMC_RxMethod **Method**)

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

Method: 位相方式のリモコン受信モードを選択します。

➤ **RMC_RX_IN_CYCLE_METHOD**: 周期方式で受信。

➤ **RMC_RX_IN_PHASE_METHOD**: 位相方式で受信。

機能:

位相方式のリモコン受信モードを選択します。

戻り値:

なし

10.2.3.9 RMC_SetRxTrg

受信終了/割り込み設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetRxTrg(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
              uint8_t LowWidth,  
              uint8_t MaxDataBitCycle)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

LowWidth: Low 幅の検出による受信終了/割り込み発生タイミングを設定します。

MaxDataBitCycle: データビットの周期 MAX で受信終了/割り込みを設定します。

機能:

RMC チャンネルのトリガ設定を行います。

LowWidth を RMCRCR2<RMCLL7:0> に設定した場合は、Low 幅の検出による受信終了/割り込み発生タイミングを設定します。Low 幅検出時に受信が完了し、割り込みが発生します。<RMCLL7:0> = 11111111b の時は検出しません。

計算式: $RMCLLx1/fs[s]$

MaxDataBitCycle を RMCRCR2<RMCDMAX7:0> に設定した場合は、データビットの周期MAX 検出のしきい値を設定します。データビット周期の値がしきい値以上であれば検出となります。<RMCDMAX7:0> = 11111111b の時は検出しません。

計算式: $RMCDMAX \times 1/fs[s]$

戻り値:

なし

10.2.3.10 RMC_SetThreshold

位相方式のしきい値の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetThreshold(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                 uint8_t LargerThreshold,  
                 uint8_t SmallerThreshold)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

LargerThreshold: 位相方式のリモコン信号の3値判定の1.5Tと2Tのしきい値の設定をします。データビットの測定結果がしきい値以上でデータを“10”、しきい値未満でデータ“01”と判別します。

しきい値計算式: $RMCDATHx1/fs[s]$

LargerThreshold には 0x80 より小さい値を設定してください。

SmallerThreshold: 2種類のしきい値の設定: データビットの0/1判定のしきい値および、位相方式のリモコン信号の3値判定の1Tと1.5Tのしきい値の設定をします。データビットの0/1判定の場合、測定結果がしきい値以上でデータ“1”、しきい値未満でデータ“0”と判別します。

しきい値の計算式: $RMCDATLx1/fs[s]$

位相方式のリモコン信号の3値判定の場合、データビットの測定結果がしきい値以上でデータを“01”、しきい値未満でデータ“00”と判別します。

データビットの0/1判定: $RMCDATLx1/fs[s]$

$RMCR3 < RMCDATH0-6 > < RMCDATL0-6 >$ ビットで設定します。

しきい値下位は 0x80 以下となります。

機能:

位相方式のリモコン信号のしきい値を設定します。本設定が有効になるのは、位相方式のリモコン受信が次のように許可されているときのみです。<RMCPHM> = “1”

戻り値:

なし

10.2.3.11 RMC_SetInputSignalReversed

リモコン入力信号の極性設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetInputSignalReversed(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                           FunctionalState NewState)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

NewState: リモコン入力信号の極性を選択します。

- **ENABLE**: 負極
- **DISABLE**: 正極

機能:

NewState が **ENABLE** の場合、RMC チャンネルのリモコン入力信号の極性反転は有効(負極)となり、**DISABLE** の時は無効(正極)となります。

戻り値:

なし

10.2.3.12 RMC_SetNoiseCancellation

ノイズ除去時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetNoiseCancellation(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                          uint8_t NoiseCancellationTime)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

NoiseCancellationTime: ノイズ除去時間を設定します。0x10 よりも小さい値を設定してください。

機能:

ノイズ除去時間を設定します。

<RMCNC3:0> = 0000b の場合は、ノイズを除去しません。

ノイズキャンセル時間の計算式: $RMCNC \times 1/fs[s]$.

戻り値:

なし

10.2.3.13 RMC_GetINTFactor

割り込み要因の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
RMC_INTFactor  
RMC_GetINTFactor(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

機能:

割り込み要因を取得します。

戻り値:

RMC_INTFactor: 割り込み要因の構造体です。(詳細は“データ構造説明”を参照)

10.2.3.14 RMC_GetLeader

リーダー検出の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
RMC_LeaderDetection  
RMC_GetLeader(TSB_RMC_TypeDef * RMCx)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

機能:

リーダー検出を取得します。

戻り値:

RMC_LeaderDetection: リーダ検出結果

- RMC_LEADER_DETECTED: リーダ検出あり
- RMC_NO_LEADER: リーダ検出なし

10.2.3.15 RMC_SetRxEndBitNum

受信終了ビット数の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetRxEndBitNum(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
                   RMC_RxEndBitsReg Reg_x,  
                   uint8_t BitNum)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

Reg_x: 受信終了ビット数レジスタを選択します。

- RMC_RX_END_BITS_REG_1: RMCxEND1 レジスタ。
- RMC_RX_END_BITS_REG_2: RMCxEND2 レジスタ。
- RMC_RX_END_BITS_REG_3: RMCxEND3 レジスタ。

BitNum: 受信するデータのビット数を設定します。

機能:

受信終了ビット数を設定します。

戻り値:

なし

10.2.3.16 RMC_SetSrcClk

RMC サンプリングクロックの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RMC_SetSrcClk(TSB_RMC_TypeDef * RMCx,  
              RMC_SrcClk Clk)
```

引数:

RMCx: RMC チャンネルを指定します。

Clk: RMC サンプリングクロックを選択します。

- RMC_CLK_LOW_FREQUENCY: 低速クロック(32KHz)
- RMC_CLK_TB1OUT: タイマ出力(TB1OUT).

機能:

RMC サンプリングクロックを選択します。

戻り値:

なし

10.2.4 データ構造

10.2.4.1 RMC_RxDataDef

メンバ:

uint8

RxDataBits: 受信データビット数

uint32_t

RxBuf1: 受信バッファ 1 (<MCRBUF31:0>から 4 バイトデータを読み出します)

uint32_t

RxBuf2: 受信バッファ 2 (<MCRBUF63:32>から 4 バイトデータを読み出します)

uint8_t

RxBuf3: 受信バッファ 3 (<MCRBUF71:64>から 1 バイトデータを読み出します)

10.2.4.2 RMC_LeaderParameterTypeDef

メンバ:

FunctionalState

LeaderDetectionState: リーダ検出のあり/なしを選択します。

- **ENABLE:** リーダ検出あり。
- **DISABLE:** リーダ検出なし。

uint8_t

MaxCycle: リーダ検出の周期期間の上限。

uint8_t

MinCycle: リーダ検出の周期期間の下限。

uint8_t

MaxLowWidth: リーダ検出の LOW 期間の上限。

uint8_t

MinLowWidth: リーダ検出の LOW 期間の下限。

FunctionalState

LeaderINTState: リーダ検出割り込み発生 of 許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 割り込み発生する。
- **DISABLE:** 割り込み発生しない。

10.2.4.3 RMC_InitTypeDef

メンバ:

RMC_LeaderParameterTypeDef

LeaderPara: リーダ検出設定

FunctionalState

FallingEdgeINTState: リモコン入力立ち下がリエッジ割り込みの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 割り込み発生する。
- **DISABLE:** 割り込み発生しない。

RMC_RxMethod

SignalRxMethod: 位相方式のリモコン受信モードを設定します。

- RMC_RX_IN_CYCLE_METHOD: 周期方式で受信。
- RMC_RX_IN_PHASE_METHOD: 位相方式で受信。

FunctionalState

InputSignalReversedState: リモコン入力信号の極性選択を選択します。

- ENABLE: 負極。
- DISABLE: 正極。

uint8_t

NoiseCancellationTime: ノイズ除去時間を設定します。0x10 よりも小さい値を設定してください。

uint8_t

LowWidth: Low 幅の検出による受信終了/割り込み発生タイミングを設定します。

uint8_t

MaxDataBitCycle: 受信終了/割り込み発生周期の最大値を設定します。

uint8_t

LargerThreshold: 位相方式のリモコン信号におけるデータビットの 3 値判定のしきい値の上位を設定します。0x80 より小さい値を設定してください。

uint8_t

SmallerThreshold: 位相方式のリモコン信号におけるデータビットの 0/1 判別および 3 値判定のしきい値の下位を設定します。0x80 より小さい値を設定してください。

10.2.4.4 RMC_INTFactor

メンバ:

uint32_t

All: データ

ビットフィールド:

uint32_t

Reserved: 12 未使用

uint32_t

InputFallingEdge: 1 立ち下がリエッジ割り込み要因フラグ

uint32_t

MaxDataBitCycle: 1 データビット周期 MAX 割り込み要因フラグ

uint32_t

LowWidthDetection: 1 Low 幅検出割り込み要因フラグ

uint32_t

LeaderDetection: 1 リーダ検出割り込み要因フラグ

11. RTC

11.1 概要

RTC の機能概略は以下です。

- 時計機能(時間, 分, 秒)
- カレンダー機能(日月, 週, うるう年)
- 24 時間計と 12 時間計 (am/ pm)のいずれかを選択可能
- +/- 30 秒補正機能 (ソフトウェアによる補正)
- アラーム機能 (アラーム出力)
- アラーム割り込み発生

本 RTC ドライバは、年、うるう年、月、日、曜日、時間、分、秒、時間モードなどを格納する RTC クロック、アラームの設定を行う関数セットです。

本ドライバは、アプリで使用する API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_rtc.c
/Libraries/ TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_rtc.h

11.2 API 関数

11.2.1 関数一覧

- ◆ void RTC_SetSec(uint8_t **Sec**);
- ◆ uint8_t RTC_GetSec(void);
- ◆ void RTC_SetMin(RTC_FuncMode **NewMode**, uint8_t **Min**);
- ◆ uint8_t RTC_GetMin(RTC_FuncMode **NewMode**);
- ◆ uint8_t RTC_GetAMPM(RTC_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC_SetHour24(RTC_FuncMode **NewMode**, uint8_t **Hour**);
- ◆ void RTC_SetHour12(RTC_FuncMode **NewMode**, uint8_t **Hour**, uint8_t **AmPm**);
- ◆ uint8_t RTC_GetHour(RTC_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC_SetDay(RTC_FuncMode **NewMode**, uint8_t **Day**);
- ◆ uint8_t RTC_GetDay(RTC_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC_SetDate(RTC_FuncMode **NewMode**, uint8_t **Date**);
- ◆ uint8_t RTC_GetDate(RTC_FuncMode **NewMode**);
- ◆ void RTC_SetMonth(uint8_t **Month**);
- ◆ uint8_t RTC_GetMonth(void);
- ◆ void RTC_SetYear(uint8_t **Year**);
- ◆ uint8_t RTC_GetYear(void);
- ◆ void RTC_SetHourMode(uint8_t **HourMode**);
- ◆ uint8_t RTC_GetHourMode(void);
- ◆ void RTC_SetLeapYear(uint8_t **Leap Year**);
- ◆ uint8_t RTC_GetLeapYear(void);
- ◆ void RTC_SetTimeAdjustReq(void);
- ◆ RTC_ReqState RTC_GetTimeAdjustReq(void);
- ◆ void RTC_EnableClock(void);
- ◆ void RTC_DisableClock(void);
- ◆ void RTC_EnableAlarm(void);
- ◆ void RTC_DisableAlarm(void);
- ◆ void RTC_SetRTCINT(FunctionalState **NewState**);
- ◆ void RTC_SetAlarmOutput(uint8_t **Output**);
- ◆ void RTC_ResetClockSec(void);

- ◆ RTC_ReqState RTC_GetResetClockSecReq(void);
- ◆ void RTC_ResetAlarm(void);
- ◆ void RTC_SetDateValue(RTC_DateTypeDef * **DateStruct**);
- ◆ void RTC_GetDateValue(RTC_DateTypeDef * **DateStruct**);
- ◆ void RTC_SetTimeValue(RTC_TimeTypeDef * **TimeStruct**);
- ◆ void RTC_GetTimeValue(RTC_TimeTypeDef * **TimeStruct**);
- ◆ void RTC_SetClockValue(RTC_DateTypeDef * **DateStruct**,
RTC_TimeTypeDef * **TimeStruct**);
- ◆ void RTC_GetClockValue(RTC_DateTypeDef * **DateStruct**,
RTC_TimeTypeDef * **TimeStruct**);
- ◆ void RTC_SetAlarmValue(RTC_AlarmTypeDef * **AlarmStruct**);
- ◆ void RTC_GetAlarmValue(RTC_AlarmTypeDef * **AlarmStruct**);

11.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 5 種類に分かれています。:

- 1) RTC 機能の年月日の設定:
RTC_SetDay(), RTC_GetDay(), RTC_SetDate(), RTC_GetDate(), RTC_SetMonth(),
RTC_GetMonth(), RTC_SetYear(), RTC_GetYear(), RTC_SetLeapYear(),
RTC_GetLeapYear(), RTC_SetDateValue(), RTC_GetDateValue()
- 2) RTC 機能の時間の設定:
RTC_SetSec(), RTC_GetSec(), RTC_SetMin(), RTC_GetMin(), RTC_SetHour24(),
RTC_SetHour12(), RTC_GetHour(), RTC_SetHourMode(), RTC_GetHourMode(),
RTC_GetAMPM(), RTC_SetTimeValue(), RTC_GetTimeValue()
- 3) RTC(clock)の設定:
RTC_EnableClock(), RTC_DisableClock(), RTC_SetTimeAdjustReq(),
RTC_GetTimeAdjustReq(), RTC_ResetClockSec(), RTC_GetResetClockSec(),
RTC_SetClockValue(), RTC_GetClockValue()
- 4) RTC(alarm)の設定:
RTC_EnableAlarm(), RTC_DisableAlarm(), RTC_ResetAlarm(),
RTC_SetAlarmValue(), RTC_GetAlarmValue()
- 5) その他:
RTC_SetAlarmOutput(), RTC_SetRTCINT()

11.2.3 関数仕様

11.2.3.1 RTC_SetSec

時計の秒桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetSec(uint8_t Sec);
```

引数:

Sec:最大 59 までの秒桁設定の値。

機能:

時計の秒桁値を設定します。RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の呼び出し後、RTC1Hz 割り込みを待つ必要があります。

戻り値:

なし

11.2.3.2 RTC_GetSec

時計の秒桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetSec(void);
```

引数:

なし

機能:

時計の秒桁の値を返します。

戻り値:

時計の秒桁:
0 ~ 59

11.2.3.3 RTC_SetMin

時計/アラームの分桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetMin(RTC_FuncMode NewMode,  
            uint8_t Min);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE**: 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE**: アラーム機能

Min: 最大 59 までの分桁を設定します。

機能:

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計の分桁を設定します。

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラームの分桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書き換えられます。この関数を呼び出した後に、1HZ 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

11.2.3.4 RTC_GetMin

時計/アラームの分桁読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetMin(RTC_FuncMode NewMode);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE:** 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE:** アラーム機能

機能:

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計の分析の値を返します。

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラームの分析の値を返します。

戻り値:

分析:

0 ~ 59

11.2.3.5 RTC_GetAMPM

12 時間モードの AM/PM 読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

uint8_t

RTC_GetAMPM(RTC_FuncMode **NewMode**);

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE:** 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE:** アラーム機能

機能:

時計/アラームの AM/PM を返します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計の AM/PM を返します。

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラームの AM/PM を返します。

戻り値:

時計モード:

RTC_AM_MODE: AM

RTC_PM_MODE: PM

11.2.3.6 RTC_SetHour24

24 時間モードの時計/アラーム時桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_SetHour24(RTC_FuncMode **NewMode**,
uint8_t **Hour**);

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE:** 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE:** アラーム機能

Hour: 最大 23 までの時桁を設定します。

機能:

24 時間モードの時計/アラームの時桁を設定します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計機能の時桁を設定し、

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラームの時桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

*12 時間モードから 24 時間モードに変更する場合、本関数 **RTC_SetHour24()** によって HOU RR レジスタを再設定してください。

戻り値:

なし

11.2.3.7 RTC_SetHour12

12 時間モードの時計/アラーム時桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetHour12(RTC_FuncMode NewMode,  
               uint8_t Hour,  
               uint8_t AmPm);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE**: 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE**: アラーム機能

Hour: 最大 11 までの時桁を設定します。

AmPm: 以下から時間モードを選択します。

- **RTC_AM_MODE**: 12H モードの AM モード
- **RTC_PM_MODE**: 12H モードの PM モード

機能:

12 時間モードの時計/アラームの時桁を設定します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計機能の時桁を設定し、

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラーム機能の時桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

*24 時間モードから 12 時間モードに変更する場合、本関数 **RTC_SetHour12()** によって HOU RR レジスタを再度設定してください。

戻り値:

なし

11.2.3.8 RTC_GetHour

時計/アラームの時桁読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetHour(RTC_FuncMode NewMode);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE**: 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE**: アラーム機能

機能:

時計/アラームの時桁を返します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計機能の時桁の値を返し、

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラーム機能の時桁の値を返します。

戻り値:

24 時間モードでの時桁:

0 ~ 23

12H 時間モードでの時桁:

0 ~ 11

11.2.3.9 RTC_SetDay

時計/アラームの曜日設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetDay(RTC_FuncMode NewMode,  
            uint8_t Day);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE**: 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE**: アラーム機能

曜日を選択します。

- **RTC_SUN**: 日曜日
- **RTC_MON**: 月曜日
- **RTC_TUE**: 火曜日
- **RTC_WED**: 水曜日
- **RTC_THU**: 木曜日
- **RTC_FRI**: 金曜日
- **RTC_SAT**: 土曜日

機能:

時計/アラームの曜日を設定します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計機能の曜日を設定します。

NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラーム機能の曜日を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

11.2.3.10 RTC_GetDay

時計/アラームの曜日の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetDay(RTC_FuncMode NewMode);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE**: 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE**: アラーム機能

機能:

時計/アラームの曜日を返します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計機能の曜日を返し、
NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラーム機能の曜日を返します。

戻り値:

曜日の値:
0 ~ 6

11.2.3.11 RTC_SetDate

時計/アラームの日桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetDate(RTC_FuncMode NewMode,  
             uint8_t Date);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE**: 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE**: アラーム機能

Date: 1 から 31 の日桁を設定します。

機能:

時計/アラームの日桁を設定します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合は、時計機能の日桁を設定し、
NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合は、アラーム機能の日桁を設定します。
RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数を呼び出した後に、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

11.2.3.12 RTC_GetDate

時計/アラームの日桁読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetDate(RTC_FuncMode NewMode);
```

引数:

NewMode: RTC モードを選択します。

- **RTC_CLOCK_MODE:** 時計機能
- **RTC_ALARM_MODE:** アラーム機能

機能:

時計/アラームの日桁を返します。

NewMode が **RTC_CLOCK_MODE** の場合、時計機能の日桁の値を返し、
NewMode が **RTC_ALARM_MODE** の場合、アラーム機能の日桁の値を返します。

戻り値:

日桁:
1 ~ 31

11.2.3.13 RTC_SetMonth

時計の月桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetMonth(uint8_t Month);
```

引数:

Month: 1 から 12 の月桁を設定します。

機能:

時計の月桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

11.2.3.14 RTC_GetMonth

時計の月桁読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetMonth(void);
```

引数:

なし

機能:

時計の月桁の値を返します。

戻り値:

月桁:

1 ~ 12

11.2.3.15 RTC_SetYear

時計の年桁設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_SetYear(uint8_t **Year**);

引数:

Year: 最大 99 までの年の値

機能:

時計の年桁を設定します。

RTC レジスタは、INTRTC のタイミングに同期して書換えられます。この関数の実行後、1Hz 割り込みが発生するのを待つ必要があります。

戻り値:

なし

11.2.3.16 RTC_GetYear

時計の年桁の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

uint8_t

RTC_GetYear(void);

引数:

なし

機能:

時計の年桁の値を返します。

戻り値:

年桁:

0 ~ 99

11.2.3.17 RTC_SetHourMode

24 時間時計/12 時間時計の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_SetHourMode(uint8_t **HourMode**);

引数:

HourMode: 時間モードを選択します。

- **RTC_12_HOUR_MODE:** 12 時間時計
- **RTC_24_HOUR_MODE:** 24 時間時計

機能:

24 時間時計/12 時間時計を選択します。

HourMode が **RTC_24_HOUR_MODE** の時、12 時間時計を選択し、

HourMode が **RTC_12_HOUR_MODE** の時、24 時間時計を選択します。

* 本関数を実行する前に **RTC_DisableClock()** を実行し、時計を停止してください。
(詳細は “RTC_DisableClock” を参照)

戻り値:

なし

11.2.3.18 RTC_GetHourMode

時計モードの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
RTC_GetHourMode(void);
```

引数:

なし

機能:

時計モードを読み込みます。

戻り値:

時計モード

RTC_24_HOUR_MODE: 24 時間時計

RTC_12_HOUR_MODE: 12 時間時計

11.2.3.19 RTC_SetLeapYear

うるう年の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetLeapYear(uint8_t LeapYear);
```

引数:

LeapYear: 以下からうるう年を選択します。

- **RTC_LEAP_YEAR_0:** 現在の年(今年)がうるう年
- **RTC_LEAP_YEAR_1:** 現在がうるう年から 1 年目
- **RTC_LEAP_YEAR_2:** 現在がうるう年から 2 年目
- **RTC_LEAP_YEAR_3:** 現在がうるう年から 3 年目

機能:

うるう年を設定します。

LeapYear が **RTC_LEAP_YEAR_0** の場合、現在の年(今年)がうるう年で、

LeapYear が `RTC_LEAP_YEAR_1` の場合、現在がうるう年から 1 年目で、
LeapYear が `RTC_LEAP_YEAR_2` の場合、現在がうるう年から 2 年目で、
LeapYear が `RTC_LEAP_YEAR_3` の場合、現在がうるう年から 3 年目になります。

戻り値:
なし

11.2.3.20 RTC_GetLeapYear

うるう年の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:
`uint8_t`
`RTC_GetLeapYear(void);`

引数:
なし

機能:
うるう年の状態を返します。

戻り値:
うるう年の状態を表す値。

11.2.3.21 RTC_SetTimeAdjustReq

+/- 30 秒の補正

関数のプロトタイプ宣言:
`void`
`RTC_SetTimeAdjustReq(void);`

引数:
なし

機能:
秒の補正をします。要求は秒カウンタのカウントアップ時にサンプリングされ、秒が 0~29 秒の場合、秒桁のみ "0" になります。また、30~59 秒のときは分を桁上げして秒を"0"にします。

戻り値:
なし

11.2.3.22 RTC_GetTimeAdjustReq

ADJUST 要求状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:
`RTC_ReqState`
`RTC_GetTimeAdjustReq(void);`

引数:
なし

機能:
ADJUST 要求状態を読み込みます。**RTC_SetTimeAdjustReq()** の実行後に、この関数を実行し、繰り返して要求をしないようにします。

戻り値:
ADJUST 要求状態を読み込みます。
RTC_NO_REQ : ADJUST 要求なし
RTC_REQ: ADJUST 要求あり

11.2.3.23 RTC_EnableClock

時計機能の起動

関数のプロトタイプ宣言:
void
RTC_EnableClock(void);

引数:
なし

機能:
時計機能を有効にします。

戻り値:
なし

11.2.3.24 RTC_DisableClock

時計機能の終了

関数のプロトタイプ宣言:
void
RTC_DisableClock(void);

引数:
なし

機能:
時計機能を無効にします。

戻り値:
なし

11.2.3.25 RTC_EnableAlarm

アラーム機能の起動

関数のプロトタイプ宣言:

void
RTC_EnableAlarm(void);

引数:
なし

機能:
アラーム機能を有効にします。

戻り値:
なし

11.2.3.26 RTC_DisableAlarm

アラーム機能の終了

関数のプロトタイプ宣言:
void
RTC_DisableAlarm(void);

引数:
なし

機能:
アラーム機能を無効にします。

戻り値:
なし

11.2.3.27 RTC_SetRTCINT

INTRTC 割り込みの有効/無効設定

関数のプロトタイプ宣言:
void
RTC_SetRTCINT(FunctionalState **NewState**);

引数:
NewState: 以下から *INTRTC* の有効/無効を選択します。
➤ **ENABLE**: INTRTC 割り込み有効
➤ **DISABLE**: INTRTC 割り込み無効

機能:
NewState が **ENABLE** の場合、RTCINT を有効にし、**NewState** が **DISABLE** の場合、RTCINT を無効にします。

戻り値:
なし

11.2.3.28 RTC_SetAlarmOutput

ALARM 端子の出力設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetAlarmOutput(uint8_t Output);
```

引数:

Output. 以下から、アラーム端子の出力を選択します。

- **RTC_LOW_LEVEL:** “0” パルス
- **RTC_PULSE_1_HZ:** 1Hz 周期の “0” パルス
- **RTC_PULSE_16_HZ:** 16Hz 周期の “0” パルス
- **RTC_PULSE_2_HZ:** 2Hz 周期の “0” パルス
- **RTC_PULSE_4_HZ:** 4Hz 周期の “0” パルス
- **RTC_PULSE_8_HZ:** 8Hz 周期の “0” パルス

機能:

アラーム端子の出力を設定します。

Output が **RTC_LOW_LEVEL** の場合、時計に同期してアラーム端子の出力は “0” になり、**Output** が **RTC_PULSE_n*_HZ** の場合、アラーム端子の出力は n*Hz 周期の “0” パルスになります。(n* は次のいずれかの値: 1,2,4,8,16)

戻り値:

なし

11.2.3.29 RTC_ResetClockSec

時計秒カウンタのリセット

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_ResetClockSec(void);
```

引数:

なし

機能:

時計秒カウンタをリセットします。

戻り値:

なし

11.2.3.30 RTC_GetResetClockSecReq

時計秒カウンタのリセット要求状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
RTC_ReqState  
RTC_GetResetClockSecReq(void);
```

引数:

なし

機能:

時計秒カウンタのリセット要求状態を読み込みます。リセット要求は、低速クロックを使用してサンプリングします。クロックが安定するために、**RTC_ResetClockSec()** の実行後に本関数を実行してください。

戻り値:

リセット要求状態

RTC_NO_REQ: リセット要求なし

RTC_REQ: リセット要求あり

11.2.3.31 RTC_ResetAlarm

RTC アラームのリセット

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_ResetAlarm(void);

引数:

なし

機能:

アラームレジスタ(分、時、日、週桁レジスタ)を初期化します。

初期化後は、00 分、00 時、01 日、日曜日になります。

戻り値:

なし

11.2.3.32 RTC_SetDateValue

時計の日付設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_SetDateValue(RTC_DateTypeDef * *DateStruct*);

引数:

DateStruct: うるう年、年、月、曜日、日を格納する構造体 (詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時計の日付(うるう年、年、月、曜日、日)を読み込みます。

RTC_SetLeapYear(), **RTC_SetYear()**, **RTC_SetMonth()**, **RTC_SetDate()**,

RTC_Setday()を実行します。

戻り値:

なし

11.2.3.33 RTC_GetDateValue

時計の日付の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_GetDateValue(RTC_DateTypeDef * DateStruct);
```

引数:

DateStruct: うるう年、年、月、曜日、日を格納する含む構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時計のうるう年、年、月、曜日、日を読み込みます。

RTC_GetLeapYear(), **RTC_GetYear()**, **RTC_GetMonth()**, **RTC_GetDate()**, **RTC_Getday()**を実行します。

戻り値:

なし

11.2.3.34 RTC_SetTimeValue

時計の時刻設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetTimeValue(RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

引数:

TimeStruct: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を設定します。

RTC_SetHourMode(), **RTC_SetHour12()**, **RTC_SetHour24()**, **RTC_SetMin()**, **RTC_SetSec()** を実行します。

戻り値:

なし

11.2.3.35 RTC_GetTimeValue

時計の時刻の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_GetTimeValue(RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

引数:

TimeStruct: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時刻(時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒)を読み込みます。
RTC_GetHourMode(), **RTC_GetHour()**, **RTC_GetAMPM()**, **RTC_GetMin()**,
RTC_GetSec() が実行されます。

戻り値:

なし

11.2.3.36 RTC_SetClockValue

時計の日時設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_SetClockValue(RTC_DateTypeDef * DateStruct,  
                  RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

引数:

DateStruct: うるう年、年、月、曜日、日を格納する構造体。

TimeStruct: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時計の日付(うるう年、年、月、曜日、日)、および、時刻(時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒)を設定します。

RTC_SetLeapYear(), **RTC_SetYear()**, **RTC_SetMonth()**, **RTC_SetDate()**,
RTC_SetDay(), **RTC_SetHourMode()**, **RTC_SetHour24()**, **RTC_SetHour12()**,
RTC_SetMin(), **RTC_SetSec()** を実行します。

戻り値:

なし

11.2.3.37 RTC_GetClockValue

時計の日時の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
RTC_GetClockValue(RTC_DateTypeDef * DateStruct,  
                  RTC_TimeTypeDef * TimeStruct);
```

引数:

DateStruct: うるう年、年、月、曜日、日を格納する構造体。

TimeStruct: 時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

時計の日付(うるう年、年、月、曜日、日)、および、時刻(時間モード、時間、12 時間モードの AM/PM モード、分、秒)を設定します。

RTC_GetLeapYear(), RTC_GetYear(), RTC_GetMonth(), RTC_GetDate(),
RTC_GetDay(), RTC_GetHourMode(), RTC_GetHour(), RTC_GetAMPM(),
RTC_GetMin(), RTC_GetSec() を実行します。

戻り値:

なし

11.2.3.38 RTC_SetAlarmValue

アラームの日時設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_SetAlarmValue(RTC_AlarmTypeDef * **AlarmStruct**);

引数:

AlarmStruct: 日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM、秒を格納する構造体。(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

アラームの日時(日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM モード、秒を含む)を設定します。RTC_SetDate(), RTC_SetDay(), RTC_SetHour12(), RTC_SetHour24() ,
RTC_SetMin() が実行されます。

戻り値:

なし

11.2.3.39 RTC_GetAlarmValue

アラームの日時の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

void

RTC_GetAlarmValue(RTC_AlarmTypeDef * **AlarmStruct**);

引数:

AlarmStruct: 日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM、秒を格納する構造体。
(詳細は「データ構造」を参照)

機能:

アラームの日時(日、曜日、時間、12 時間モードの AM/PM モード、秒を含む)を読み込みます。

RTC_GetDate(), RTC_GetDay(), RTC_GetHour() , RTC_GetAMPM(),
RTC_GetMin() を実行します。

戻り値:

なし

11.2.4 データ構造

11.2.4.1 RTC_DateTypeDef

メンバ:

uint8_t

LeapYear: うるう年を設定します:

- **RTC_LEAP_YEAR_0**: 現在の年(今年)がうるう年
- **RTC_LEAP_YEAR_1**: 現在がうるう年から 1 年目
- **RTC_LEAP_YEAR_2**: 現在がうるう年から 2 年目
- **RTC_LEAP_YEAR_3**: 現在がうるう年から 3 年目

uint8_t

Year 年桁の値(0～99)。

uint8_t

Month 月桁の値(1～12)。

uint8_t

Date の日桁の値(1～31)。

uint8_t

Day 週桁の値を以下。

- **RTC_SUN**: 日曜日
- **RTC_MON**: 月曜日
- **RTC_TUE**: 火曜日
- **RTC_WED**: 水曜日
- **RTC_THU**: 木曜日
- **RTC_FRI**: 金曜日
- **RTC_SAT**: 土曜日

11.2.4.2 RTC_TimeTypeDef

メンバ:

uint8_t

HourMode 24 時間時計、12 時間時計のモード選択の値:

- **RTC_12_HOUR_MODE**: 12 時間モード
- **RTC_24_HOUR_MODE**: 24 時間モード

uint8_t

Hour 時間桁の値。(24 時間モード:0～23、12 時間モード:0～11)

uint8_t

AmPm 12 時間モード時の AM/PM の値:

- **RTC_AM_MODE**: AM モード
- **RTC_PM_MODE**: PM モード
- **RTC_AMPM_INVALID**: 24 時間モード

uint8_t

Min 0～59 までの分桁の値。

uint8_t

Sec 0～59 までの秒桁の値。

11.2.4.3 RTC_AlarmTypeDef

メンバ:

uint8_t

Date アラーム機能有効時の日桁の値(1～31)。

uint8_t

Day アラーム機能有効時の週桁の値。

- **RTC_SUN**: 日曜日
- **RTC_MON**: 月曜日
- **RTC_TUE**: 火曜日
- **RTC_WED**: 水曜日
- **RTC_THU**: 木曜日
- **RTC_FRI**: 金曜日
- **RTC_SAT**: 土曜日

uint8_t

Hour アラーム機能有効時の時間桁の値。

uint8_t

AmPm アラーム機能有効時の AM/PM 選択の値:

- **RTC_AM_MODE**: AM モード
- **RTC_PM_MODE**: PM モード
- **RTC_AMPM_INVALID**: 24 時間モード

uint8_t

Min アラーム機能有効時の分桁の値(0～59)。

12. SBI

12.1 概要

本デバイスはシリアルバスインターフェースチャンネルを有し、各チャンネルはマルチマスタのI2Cバスとして動作可能です。

I2Cバスモードでは、SCLおよびSDAを通して外部デバイスと接続されます。

SBIチャンネルによりデータをフリーデータフォーマットで転送できます。フリーデータフォーマットでは、マスタモード時は送信、スレーブモード時は受信になります。

SBIドライバAPI関数は、SBIチャンネルの自己アドレス、クロック分周、ACKクロック生成等の設定、I2Cの開始・終了条件のデータ転送、データ受信・送信の制御、状態復帰、SBIチャンネルモードの表示などの機能の設定を行う関数セットです。

全ドライバAPIは、マクロ、データタイプ、構造、API定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_sbi.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_sbi.h

12.2 API関数

12.2.1 関数一覧

- ◆ void SBI_Enable(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_Disable(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_SetI2CACK(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SBI_InitI2C(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**, SBI_InitI2CTypeDef* **InitI2CStruct**);
- ◆ void SBI_SetI2CBitNum(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**, uint32_t **I2CBitNum**);
- ◆ void SBI_SWReset(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_ClearI2CINTReq(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_Generatel2Cstart(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_Generatel2Cstop(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ SBI_I2CState SBI_GetI2CState(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_SetIdleMode(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SBI_SetSendData(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**, uint32_t **Data**);
- ◆ uint32_t SBI_GetReceiveData(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**);
- ◆ void SBI_SetI2CFreeDataMode(TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);

12.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の4種類に分かれています。:

- 1) 共通機能の設定:
SBI_Enable(), SBI_Disable(), SBI_SetI2CACK(), SBI_SetI2CBitNum(), SBI_InitI2C()
- 2) 転送制御:
SBI_ClearI2CINTReq(), SBI_Generatel2Cstart(),
SBI_Generatel2Cstop(), SBI_SetSendData(), SBI_GetReceiveData()
- 3) ステータス確認:
SBI_GetI2CState()
- 4) その他:
SBI_SWReset(), SBI_SetIdleMode(), SBI_EnableI2CFreeDataMode()

12.2.3 関数仕様

補足: 引数“TSB_SBI_TypeDef* **SBIx**”は **TSB_SBI0** を指定してください。

12.2.3.1 SBI_Enable

シリアルバスインタフェース動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_Enable(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 動作を有効にします。

戻り値:

なし

12.2.3.2 SBI_Disable

シリアルバスインタフェース動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_Disable(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 動作を無効にします。

戻り値:

なし

12.2.3.3 SBI_SetI2CACK

I2C バスモードにおける ACK 選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetI2CACK(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
               FunctionalState NewState)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

NewState: ACK の発生有無を選択します。

➤ **ENABLE**: 発生する。

- **DISABLE:** 発生しない。

機能:

I2C 通信のアクノリッジメントクロック(ACK)のためのクロックを発生する/発生しないを選択します。**NewState**を **ENABLE** にすると ACK クロックを発生し、**DISABLE** にすると ACK クロックを発生しません。

戻り値:

なし

12.2.3.4 SBI_InitI2C

I2C バスモードにおける通信の初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_InitI2C(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
            SBI_InitI2CTypeDef* InitI2CStruct)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

InitI2CStruct: SBI に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

I2C バスアドレス、転送ビット数、出力クロックの周波数選択、ACK クロック生成、I2C 転送モードの初期化を行います。

戻り値:

なし

12.2.3.5 SBI_SetI2CBitNum

I2C バスモードにおける転送ビット数の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetI2CBitNum(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                 uint32_t I2CBitNum)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

I2CBitNum: 転送ビット数(1~8)を選択します。

- **SBI_I2C_DATA_LEN_8:** データ長 8
- **SBI_I2C_DATA_LEN_1:** データ長 1
- **SBI_I2C_DATA_LEN_2:** データ長 2
- **SBI_I2C_DATA_LEN_3:** データ長 3
- **SBI_I2C_DATA_LEN_4:** データ長 4
- **SBI_I2C_DATA_LEN_5:** データ長 5
- **SBI_I2C_DATA_LEN_6:** データ長 6
- **SBI_I2C_DATA_LEN_7:** データ長 7

機能:

転送ビット数を選択します。

戻り値:

なし

12.2.3.6 SBI_SWReset

ソフトウェアリセットの発生

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SWReset(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

シリアルバスインターフェース回路を初期化するリセット信号を発生します。リセット後、すべての制御レジスタやステータスフラグはリセット後の値に初期化されます。

戻り値:

なし

12.2.3.7 SBI_ClearI2CINTReq

I2C バスモードにおける INTSBIx 割り込み要求解除

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_ClearI2CINTReq(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 割り込み要求を解除します。

戻り値:

なし

12.2.3.8 SBI_GenerateI2CStart

I2C バスモードにおけるスタート状態の発生

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_GenerateI2CStart(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

I2C バスモードをマスタにし、I2c バスにスタートコンディションを出力します。

戻り値:

なし

12.2.3.9 SBI_Generatel2CStop

I2C バスモードにおけるストップ状態の発生

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_Generatel2CStop(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

I2C バスモードをマスタにし、I2c バスにストップコンディションを出力します。

戻り値:

なし

12.2.3.10 SBI_GetI2CState

I2C バスモードにおける SBI チャンネルの状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
SBI_I2CState  
SBI_GetI2CState(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

I2C バスモード中の SBI チャンネルの状態を読み込みます。SBI 割り込みの ISR で本関数をコールし、SBI チャンネルの状態によってプロセスを変更します。

戻り値:

I2C モードでの SBI チャンネルの状態

12.2.3.11 SBI_SetIdleMode

IDLE モード時の動作の許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetIdleMode(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                FunctionalState NewState)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

NewState: システムが idle モードの時の動作を指定します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

機能:

NewState が **ENABLE** の場合 IDLE モードに遷移しても SBI チャンネルは動作します。
DISABLE を選択すると IDLE モード時に禁止されます。

戻り値:

なし

12.2.3.12 SBI_SetSendData

データ送信

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetSendData(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                uint32_t Data)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

Data: 送信データ。(最大値は 0xFF です)

機能:

設定データを送信します。**SBI_GenerateI2Cstart()**の実行によりスタートコンディションを出力後、または ACK (通常は SBI 割り込みにより発生)受信後、データを送信します。

戻り値:

なし

12.2.3.13 SBI_GetReceiveData

データ受信

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
SBI_GetReceiveData(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

機能:

データを受信します。**SBI_GenerateI2Cstart()**の実行によりスタートコンディションを出力後、または ACK (通常は SBI 割り込みにより発生)受信後、データを受信します。

戻り値:

受信データ

12.2.3.14 SBI_SetI2CFreeDataMode

アドレス認識モードの指定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetI2CFreeDataMode(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                        FunctionalState NewState)
```

引数:

SBIx: SBI チャンネルを指定します。

NewState: アドレス認識モードを指定します。

- **ENABLE**: スレーブアドレスを認識しない。(フリーデータフォーマット)
- **DISABLE**: スレーブアドレスを認識する。

機能:

I2C モードにおけるデータフォーマットをフリーデータフォーマットにします。フリーデータフォーマットの場合、スレーブデバイスがデータ受信中にマスターデバイスは常にデータ送信を行います。転送データをノーマル I2C フォーマットにする場合は **SBI_InitI2C()** をコールしてください。

戻り値:

なし

12.2.4 データ構造

12.2.4.1 SBI_InitI2CTypeDef

メンバ:

uint32_t

I2CSelfAddr: I2C モードにおけるスレーブアドレスを指定します。(0x01~0xFE)

uint32_t

I2CDataLen: I2C モードにおける SBI チャンネルの転送ビット数を指定します。

- **SBI_I2C_DATA_LEN_8**: データ長 8
- **SBI_I2C_DATA_LEN_1**: データ長 1
- **SBI_I2C_DATA_LEN_2**: データ長 2
- **SBI_I2C_DATA_LEN_3**: データ長 3
- **SBI_I2C_DATA_LEN_4**: データ長 4
- **SBI_I2C_DATA_LEN_5**: データ長 5
- **SBI_I2C_DATA_LEN_6**: データ長 6
- **SBI_I2C_DATA_LEN_7**: データ長 7

uint32_t

I2CClkDiv: I2C 転送のソースクロックを選択します。

- **SBI_I2C_CLK_DIV_104**: fsys/104
- **SBI_I2C_CLK_DIV_136**: fsys/136
- **SBI_I2C_CLK_DIV_200**: fsys/200
- **SBI_I2C_CLK_DIV_328**: fsys/328
- **SBI_I2C_CLK_DIV_584**: fsys/584
- **SBI_I2C_CLK_DIV_1096**: fsys/1096
- **SBI_I2C_CLK_DIV_2120**: fsys/2120

FunctionalState

I2CACKState: ACK の有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効
- **DISABLE:** 無効

12.2.4.2 SBI_I2CState

メンバ:

uint32_t

All: I2C モードの全ての状態

ビットフィールド:

uint32_t

LastRxBit: 最終受信ビットモニタ

uint32_t

GeneralCall: ゼネラルコール検出モニタ

uint32_t

SlaveAddrMatch: スレーブアドレス一致モニタ

uint32_t

ArbitrationLost: アービトレーションロスト検出モニタ

uint32_t

INTReq: 割り込み要求状態モニタ

uint32_t

BusState: バス状態モニタ

uint32_t

TRx: 送信/受信選択状態モニタ

uint32_t

MasterSlave: マスタ/スレーブ選択状態モニタ

13. SSP

13.1 概要

本デバイスは、同期式シリアルインターフェースを (SSP: Synchronous Serial Port) を 1 チャンネル内蔵しています。(SSP0)

同期式シリアルインターフェースは、周辺デバイスとシリアル通信を、3 タイプの同期式シリアルインターフェースで行います。

同期式シリアルインターフェースは、周辺デバイスから受信したデータのシリアル-パラレル変換を行います。送信パスは、送信モードの 16 ビット幅、8 層の送信 FIFO のデータをバッファリングし、受信パスは受信モードの 16 ビット幅、8 層の受信 FIFO のデータをバッファリングします。シリアルデータは SPDO で送信され、SPDI で受信されます。SSP はプログラマブルプリスケールを内蔵し、入力クロック fSYS からシリアル出力クロック(CPCLK)を出力します。生成します。動作モード、フレームフォーマット、SSP のデータサイズは制御レジスタにプログラムされています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_ssp.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_ssp.h

13.2 API 関数

13.2.1 関数一覧

- ◆ void SSP_Enable(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ void SSP_Disable(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ void SSP_Init(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, SSP_InitTypeDef * **InitStruct**);
- ◆ void SSP_SetClkPreScale(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
uint8_t **PreScale**, uint8_t **ClkRate**);
- ◆ void SSP_SetFrameFormat(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
SSP_FrameFormat **FrameFormat**);
- ◆ void SSP_SetClkPolarity(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
SSP_ClkPolarity **ClkPolarity**);
- ◆ void SSP_SetClkPhase(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, SSP_ClkPhase **ClkPhase**);
- ◆ void SSP_SetDataSize(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, uint8_t **DataSize**);
- ◆ void SSP_SetSlaveOutputCtrl(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SSP_SetMSMode(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, SSP_MS_Mode **Mode**);
- ◆ void SSP_SetLoopBackMode(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SSP_SetTxData(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, uint16_t **Data**);
- ◆ uint16_t SSP_GetRxData(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ WorkState SSP_GetWorkState(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ SSP_FIFOState SSP_GetFIFOState(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
SSP_Direction **Direction**);
- ◆ void SSP_SetINTConfig(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, uint32_t **IntSrc**);
- ◆ SSP_INTState SSP_GetINTConfig(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ SSP_INTState SSP_GetPreEnableINTState(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ SSP_INTState SSP_GetPostEnableINTState(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**);
- ◆ void SSP_ClearINTFlag(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**, uint32_t **IntSrc**);

13.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 6 種類に分かれています。:

- 1) SSP_Init()を用いた共通関数
SSP_SetClkPreScale(), SSP_SetFrameFormat(), SSP_SetClkPolarity(),
SSP_SetClkPhase(), SSP_SetDataSize(), SSP_SetMSMode()
- 2) データ送受信:
SSP_SetTxData(), SSP_GetRxData()
- 3) SSP 割り込み関連:
SSP_SetIntConfig(), SSP_GetIntConfig(), SSP_GetPreEnableINTState(),
SSP_GetPostEnableINTState(), SSP_ClearINTFlag()
- 4) 状態の取得:
SSP_GetWorkState(), SSP_GetFIFOState()
- 5) モジュールの有効/無効設定:
SSP_Enable(), SSP_Disable()
- 6) その他:
SSP_SetSlaveOutputCtrl(), SSP_SetLoopBackMode()

13.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ“TSB_SSP_TypeDef* **SSPx**”は、**TSB_SSP0** を設定してください。

13.2.3.1 SSP_Enable

同期式シリアルインタフェース動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_Enable(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

SSP 動作を有効にします。

戻り値:

なし

13.2.3.2 SSP_Disable

同期式シリアルインタフェース動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_Disable(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

SSP 動作を無効にします。

戻り値:

なし

13.2.3.3 SSP_Init

SSP 通信の初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_Init(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
         SSP_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

InitStruct: SSP に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

```
typedef struct {  
    SSP_FrameFormat FrameFormat;  
    uint8_t PreScale;  
    uint8_t ClkRate;  
    SSP_ClkPolarity ClkPolarity;  
    SSP_ClkPhase ClkPhase;  
    uint8_t DataSize;  
    SSP_MS_Mode Mode;  
} SSP_InitTypeDef;
```

機能:

SSP 通信の初期化を行います。

戻り値:

なし

13.2.3.4 SSP_SetClkPreScale

送受信のビットレート設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetClkPreScale(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                   uint8_t PreScale,  
                   uint8_t ClkRate)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

PreScale: クロックプリスケール除数を 2~254 の間で設定します。

ClkRate: シリアルクロックレートを 0~255 の間で設定します。

機能:

送受信のビットレートを設定します。**SSP_Init()** により呼び出されます。

Tx と Rx 用の本ビットレートは下記計算式で求めることができます。
$$\text{BitRate} = \text{fSYS} / (\text{PreScale} \times (1 + \text{ClkRate}))$$
fSYS はシステム周波数

戻り値:
なし

13.2.3.5 SSP_SetFrameFormat

フレームフォーマットの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetFrameFormat(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                   SSP_FrameFormat FrameFormat)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

FrameFormat: フレームフォーマットを選択します。

- **SSP_FORMAT_SPI**: SPI フレームフォーマット
- **SSP_FORMAT_SSI**: SSI シリアルフレームフォーマット
- **SSP_FORMAT_MICROWIRE**: Microwire フレームフォーマット

機能:

フレームフォーマットを選択します。**SSP_Init()** により呼び出されます。

戻り値:
なし

13.2.3.6 SSP_SetClkPolarity

SPxCLK 極性の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetClkPolarity(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                   SSP_ClkPolarity ClkPolarity)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

ClkPolarity: SPxCLK 極性を選択します。

- **SSP_POLARITY_LOW**: SPxCLK は Low 状態。
- **SSP_POLARITY_HIGH**: SPxCLK は High 状態。

機能:

SPxCLK 極性を選択します。**SSP_Init()** により呼び出されます。

戻り値:
なし

13.2.3.7 SSP_SetClkPhase

SPxCLK フェーズの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetClkPhase(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                SSP_ClkPhase ClkPhase)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

ClkPhase: SPxCLK フェーズを選択します。

- **SSP_PHASE_FIRST_EDGE**: 1st クロックエッジでデータを取り込み
- **SSP_PHASE_SECOND_EDGE**: 2nd クロックエッジでデータを取り込み

機能:

SPxCLK フェーズを選択します。**SSP_Init()** により呼び出されます。

戻り値:

なし

13.2.3.8 SSP_SetDataSize

データサイズの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
Void  
SSP_SetDataSize(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                uint8_t DataSize)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

DataSize: データサイズを 4~16 の間で選択します。

機能:

データサイズを選択します。**SSP_Init()** により呼び出されます。

戻り値:

なし

13.2.3.9 SSP_SetSlaveOutputCtrl

スレーブモード SPxDO 出力の制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetSlaveOutputCtrl(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                       FunctionalState NewState)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

NewState: スレーブモード SPxDO 出力の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

機能:

スレーブモード SPxDO 出力の許可/禁止を選択します。

戻り値:

なし

13.2.3.10 SSP_SetMSMode

マスタ/ スレーブモードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetMSMode(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
               SSP_MS_Mode Mode)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

Mode: マスタ/ スレーブモードを選択します。

- **SSP_MASTER:** デバイスがマスタ
- **SSP_SLAVE:** デバイスがスレーブ

機能:

マスタ/ スレーブモードを選択します。

戻り値:

なし

13.2.3.11 SSP_SetLoopBackMode

ループバックモードの制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetLoopBackMode(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                     FunctionalState NewState)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

NewState: ループバックモードの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

機能:

ループバックモードを設定します。

例えば、ループバックモードが有効の場合、送受信間にセルフテストを行います。

戻り値:

なし

13.2.3.12 SSP_SetTxData

送信 FIFO のデータ設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetTxData(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
               uint16_t Data)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

Data: 送信データを 0～16 ビットの間で設定します。

機能:

送信 FIFO にデータを設定します。

戻り値:

なし

13.2.3.13 SSP_GetRxData

受信 FIFO からのデータ読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
SSP_GetRxData(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO から受信データを読み込みます。

戻り値:

受信データ

13.2.3.14 SSP_GetWorkState

ビジーフラグの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
WorkState  
SSP_GetWorkState(TSB_SSP_TypeDef * SSPx)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

ビジーフラグを読み込みます。

戻り値:

ビジーフラグ

BUSY: ビジー
DONE: アイドル

13.2.3.15 SSP_GetFIFOState

送受信 FIFO の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
SSP_FIFOState  
SSP_GetFIFOState(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                  SSP_Direction Direction)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

Direction: 送受信方向を選択します。

- **SSP_RX**: 受信 FIFO
- **SSP_TX**: 送信 FIFO

機能:

送受信 FIFO の状態を読み込みます。

例えば、送信 FIFO の状態を判断した後でのデータ送信処理は次の通り。

```
SSP_FIFOState fifoState;  
  
fifoState = SSP_GetFIFOState(TSB_SSP0, SSP_TX);  
if ((fifoState == SSP_FIFO_EMPTY) || (fifoState == SSP_FIFO_NORMAL))  
{ SSP_SetTxData(TSB_SSP0, data_to_be_sent); }
```

戻り値:

送受信 FIFO の状態。

SSP_FIFO_EMPTY: FIFO が空の状態。

SSP_FIFO_NORMAL: FIFO がフル、かつ空ではない状態。

SSP_FIFO_INVALID: FIFO が無効の状態。

SSP_FIFO_FULL: FIFO がフルの状態。

13.2.3.16 SSP_SetINTConfig

割り込みの制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetINTConfig(TSB_SSP_TypeDef * SSPx,  
                  uint32_t IntSrc)
```

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

IntSrc: 割り込みの許可/禁止を選択します。

- **SSP_INTCFG_NONE**: すべて禁止。
- **SSP_INTCFG_ALL**: すべて許可。

任意の割り込みを“|”で選択します。

- **SSP_INTCFG_RX_OVERRUN**: 受信オーバーラン割り込み。
- **SSP_INTCFG_RX_TIMEOUT**: 受信タイムアウト割り込み。

- **SSP_INTCFG_RX:** 受信 FIFO 割り込み(受信 FIFO の半分以上がフル)
- **SSP_INTCFG_TX:** 送信 FIFO 割り込み(送信 FIFO の半分以上がフル)

機能:

割り込みの許可/ 禁止を選択します。

例えば、送受信割り込みを設定する処理は次の通り。

SSP_SetINTConfig(TSB_SSP0, SSP_INTCFG_RX | SSP_INTCFG_TX)

戻り値:

なし

13.2.3.17 SSP_GetINTConfig

割り込み制御の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

SSP_INTState

SSP_GetINTConfig(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**)

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

割り込みの許可/禁止状態を取得します。

例えば、SSP_SetINTConfig() で許可または禁止した割り込みソースを確認することができます。

戻り値:

SSP_INTState: 割り込み設定状態。詳細は"データ構造"を参照。

13.2.3.18 SSP_GetPreEnableINTState

許可前の割り込み状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

SSP_INTState

SSP_GetPreEnableINTState(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**)

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

許可前の割り込み状態を読み込みます。

戻り値:

SSP_INTState: 許可前の割り込み状態。詳細は"データ構造"を参照。

13.2.3.19 SSP_GetPostEnableINTState

許可後の割り込み状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

SSP_INTState

SSP_GetPostEnableINTState(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**)

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

機能:

禁止前の割り込み状態を読み込みます。

戻り値:

SSP_INTState: 許可前の割り込み状態。詳細は"データ構造"を参照。

13.2.3.20 SSP_ClearINTFlag

割り込みフラグのクリア

関数のプロトタイプ宣言:

void

SSP_ClearINTFlag(TSB_SSP_TypeDef * **SSPx**,
uint32_t **IntSrc**)

引数:

SSPx: SSP チャンネルを指定します。

IntSrc: クリアする割り込みフラグを選択します。

- **SSP_INTCFG_RX_OVERRUN**: 受信オーバーラン割り込みフラグ。
- **SSP_INTCFG_RX_TIMEOUT**: 受信タイムアウト割り込みフラグ
- **SSP_INTCFG_ALL**: すべての割り込みフラグ。

機能:

割り込みフラグをクリアします。

戻り値:

なし

13.2.4 データ構造

13.2.4.1 SSP_InitTypeDef

メンバ:

SSP_FrameFormat

FrameFormat: フレームフォーマットを選択します。

- **SSP_FORMAT_SPI**: SPI フレームフォーマット
- **SSP_FORMAT_SSI**: SSI フレームフォーマット
- **SSP_FORMAT_MICROWIRE**: Microwire フレームフォーマット

uint8_t

PreScale: クロックプリスケール除数を 2~254 の間で設定します。

SSP_ClkPolarity

ClkPolarity: SPxCLK 極性を選択します。

- **SSP_POLARITY_LOW**: SPxCLK 極性は Low 状態。

- **SSP_POLARITY_HIGH**: SPxCLK 極性は High 状態。

SSP_ClkPhase

ClkPhase: SPxCLK フェーズを設定します。

- **SSP_PHASE_FIRST_EDGE**: 1st クロックエッジでデータを取り込み
- **SSP_PHASE_SECOND_EDGE**: 2nd クロックエッジでデータを取り込み

uint8_t

DataSize: データを 4～16 ビットの間で設定します。

SSP_MS_Mode

Mode: マスタ/ スレーブモードを選択します。

- **SSP_MASTER**: デバイスがマスタ
- **SSP_SLAVE**: デバイスがスレーブ

13.2.4.2 SSP_INTState

メンバ:

uint32_t

All: 割り込み要因

ビットフィールド:

uint32_t

OverRun: 1 オーバー欄割り込み

uint32_t

TimeOut: 1 受信タイムアウト

uint32_t

Rx: 1 受信

uint32_t

Tx: 1 送信

uint32_t

Reserved: 28 未使用

14. TMRB

14.1 概要

本デバイスは、8 チャンネルの多機能 16 ビットタイマ/ イベントカウンタ (TMRB0 ~ TMRB7)を内蔵しています。各チャンネルは下記モードで動作します。

- 16 ビットインタバルタイマモード
- 16 ビットイベントカウンタモード
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード
- タイマ同期モード(各 4 チャンネルの出力設定可能)

また、キャプチャ機能を利用することで、次のような用途に使用することができます。

- パルス幅測定
- 外部トリガパルスからのワンショットパルス出力
- 時間差測定

本ドライバは、クロック分割、サイクル、デューティ期間、キャプチャタイミング、フリップフロップの設定など各チャンネルの設定を行う関数セットです。また、アップカウンタ、フリップフロップ出力の制御など動作状態の制御、割り込み要因、キャプチャレジスタ値の取得など、ステータスの表示も行います。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_tmr.c
/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_tmr.h

14.2 API 関数

14.2.1 関数一覧

- ◆ void TMRB_Enable(TSB_TB_TypeDef * **TBx**);
- ◆ void TMRB_Disable(TSB_TB_TypeDef * **TBx**);
- ◆ void TMRB_SetRunState(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint32_t **Cmd**);
- ◆ void TMRB_Init(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, TMRB_InitTypeDef * **InitStruct**);
- ◆ void TMRB_SetCaptureTiming(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint32_t **CaptureTiming**);
- ◆ void TMRB_SetFlipFlop(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, TMRB_FFOutputTypeDef * **FFStruct**);
- ◆ TMRB_INTFactor TMRB_GetINTFactor(TSB_TB_TypeDef * **TBx**);
- ◆ void TMRB_SetINTMask(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint32_t **INTMask**);
- ◆ void TMRB_ChangeLeadingTiming(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint32_t **LeadingTiming**);
- ◆ void TMRB_ChangeTrailingTiming(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint32_t **TrailingTiming**);
- ◆ uint16_t TMRB_GetUpCntValue(TSB_TB_TypeDef * **TBx**);
- ◆ uint16_t TMRB_GetCaptureValue(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint8_t **CapReg**);
- ◆ void TMRB_ExecuteSWCapture(TSB_TB_TypeDef * **TBx**);
- ◆ void TMRB_SetIdleMode(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRB_SetSyncMode(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRB_SetDoubleBuf(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, FunctionalState **NewState**, uint8_t **WriteRegMode**);

- ◆ void TMRB_SetExtStartTrg(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, FunctionalState **NewState**,
uint8_t **TrgMode**);
- ◆ void TMRB_SetClkInCoreHalt(TSB_TB_TypeDef * **TBx**, uint8_t **ClkState**);

14.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。:

- 1) 各タイマの設定:
TMRB_Enable(), TMRB_Disable(), TMRB_Init(), TMRB_SetRunState(),
TMRB_ChangeLeadingTiming(), TMRB_ChangeTrailingTiming()
- 2) キャプチャ機能の設定:
TMRB_SetCaptureTiming(), TMRB_ExecuteSWCapture()
- 3) ステータスの確認:
TMRB_GetINTFactor(), TMRB_GetUpCntValue(), TMRB_GetCaptureValue()
- 4) その他:
TMRB_SetFlipFlop(), TMRB_SetINTMask(), TMRB_SetIdleMode(),
TMRB_SetSyncMode(), TMRB_SetDoubleBuf(), TMRB_SetExtStartTrg(),
TMRB_SetClkInCoreHalt()

14.2.3 関数仕様

補足: 引数に記述されている “TSB_TB_TypeDef* **TBx**” は下記から選択してください。
TSB_TB0, TSB_TB1, TSB_TB2, TSB_TB3, TSB_TB4, TSB_TB5,
TSB_TB6, TSB_TB7

14.2.3.1 TMRB_Enable

TMRB 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void
TMRB_Enable(TSB_TB_TypeDef* **TBx**)

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

TMRB 動作を有効にします。

戻り値:

なし

14.2.3.2 TMRB_Disable

TMRB 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void
TMRB_Disable(TSB_TB_TypeDef* **TBx**)

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

TMRB 動作を無効にします。

戻り値:

なし

14.2.3.3 TMRB_SetRunState

カウンタ動作の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetRunState(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  uint32_t Cmd)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

Cmd: カウンタ動作を選択します。

- **TMRB_RUN**: カウント
- **TMRB_STOP**: 停止&クリア

機能:

Cmd が **TMRB_RUN** の場合、アップカウンタがカウントを開始します。

Cmd が **TMRB_STOP** の場合、アップカウンタはカウントを停止し、同時にカウンタをクリアします。

戻り値:

なし

14.2.3.4 TMRB_Init

TMRB チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_Init(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
           TMRB_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

InitStruct: TMRB に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

カウンティングモード、クロック分周、アップカウンタ設定、サイクル、デューティ期間の初期設定を行います。

戻り値:

なし

14.2.3.5 TMRB_SetCaptureTiming

キャプチャタイミングの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetCaptureTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                      uint32_t CaptureTiming)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

CaptureTiming: キャプチャタイミングを選択します。

- **TMRB_DISABLE_CAPTURE**: キャプチャ機能を無効にします。
- **TMRB_CAPTURE_IN_RISING**: TBxIN↑
- **TMRB_CAPTURE_IN_RISING_FALLING**: TBxIN↑ TBxIN↓
- **TMRB_CAPTURE_OUTPUT_EDGE**: TBxOUT↑ TBxOUT↓

機能:

CaptureTiming が **TMRB_CAPTURE_IN_RISING** の場合、TBxIN 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込みます。

CaptureTiming が **TMRB_CAPTURE_IN_RISING_FALLING** の場合、TBxIN 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込み、TBxIN 端子入力の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1)にカウント値を取り込みます。

CaptureTiming が **TMRB_CAPTURE_OUTPUT_EDGE** の場合、16 ビットタイマー一致出力(TBxOUT)の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBnCP0)にカウント値を取り込み、TBxOUT の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBnCP1)にカウント値を取り込みます。(TMRB2, TMRB5)

補足: **TMRB_CAPTURE_OUTPUT_EDGE** は TMRB0~TMRB7 まで有効です。

TMRB3~5: TB2OUT
TMRB0~2: TB7OUT

戻り値:

なし

14.2.3.6 TMRB_SetFlipFlop

フリップフロップ機能の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetFlipFlop(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                 TMRB_FFOutputTypeDef* FFStruct)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

FFStruct: TMRB のフリップフロップ機能に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

フリップフロップ出力変更のタイミングを設定します。また出力レベルも設定できます。

戻り値:
なし

14.2.3.7 TMRB_GetINTFactor

割り込み要因の取得

関数のプロトタイプ宣言:

TMRB_INTFactor
TMRB_GetINTFactor(TSB_TB_TypeDef* **TBx**)

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

割り込み要因を取得します。

戻り値:

TMRB の割り込み要因:

MatchLeadingTiming(Bit0): 一致フラグ(TBxRG0)

MatchTrailingTiming(Bit1): 一致フラグ(TBxRG1)

OverFlow(Bit2): オーバーフローフラグ

補足:

異なる割り込み要因を処理する場合は、以下のように記述してください。

```
TMRB_INTFactor factor = TMRB_GetINTFactor(TSB_TB0);  
if (factor.Bit.MatchLeadingTiming) {  
    // Do A  
}  
  
if (factor.Bit.MatchTrailingTiming) {  
    // Do B  
}  
  
if (factor.Bit.OverFlow) {  
    // Do C  
}
```

14.2.3.8 TMRB_SetINTMask

割り込みマスクの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
TMRB_SetINTMask(TSB_TB_TypeDef* **TBx**,
uint32_t **INTMask**)

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

INTMask: マスクする割り込みを選択します。

➤ **TMRB_MASK_MATCH_TRAILINGTIMING_INT**: 一致フラグ(TBxRG0)

- **TMRB_MASK_MATCH_LEADINGTIMING_INT**: 一致フラグ(TBxRG1)
- **TMRB_MASK_OVERFLOW_INT**: オーバーフロー割り込み。
- **TMRB_NO_INT_MASK**: マスクしない。

機能:

TMRB_MASK_MATCH_TRAILINGTIMING_INT 選択時、アップカウンタ値と TBxRG1 が一致した場合、割り込みは発生しません。

TMRB_MASK_MATCH_LEADINGTIMING_INT 選択時、アップカウンタ値と TBxRG0 が一致した場合、割り込みは発生しません。

TMRB_MASK_OVERFLOW_INT 選択時、オーバーフロー発生時の割り込みは発生しません。

TMRB_NO_INT_MASK 選択時、割り込みマスクはすべてクリアされます。

戻り値:

なし

14.2.3.9 TMRB_ChangeLeadingTiming

デューティの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_ChangeLeadingTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                          uint32_t LeadingTiming)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

LeadingTiming: デューティ値を設定します。最大値は 0xFFFF です。

機能:

デューティを設定します。実際のデューティのインターバルは、CG の校正と **ClkDiv**(詳細は"データ構造"を参照) の値によります。

戻り値:

なし

補足:

LeadingTiming は **TrailingTiming** を超えることはできません。

14.2.3.10 TMRB_ChangeTrailingTiming

周期の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_ChangeTrailingTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                           uint32_t TrailingTiming)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

TrailingTiming: 周期を設定します。最大は 0xFFFF です。

機能:

周期を設定します。実際の周期は、CG の校正と *ClkDiv*(詳細は"データ構造"を参照) の値によります。

戻り値:

なし

補足:

TrailingTiming は *LeadingTiming* より小さくすることはできません。

14.2.3.11 TMRB_GetUpCntValue

アップカウンタ値の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
TMRB_GetUpCntValue(TSB_TB_TypeDef* TBx)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

アップカウンタ値の読み込みを行います。

戻り値:

アップカウンタ値

14.2.3.12 TMRB_GetCaptureValue

キャプチャレジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
TMRB_GetCaptureValue(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                     uint8_t CapReg)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

CapReg: キャプチャレジスタを選択します。

- **TMRB_CAPTURE_0**: キャプチャレジスタ 0
- **TMRB_CAPTURE_1**: キャプチャレジスタ 1

機能:

CapReg が **TMRB_CAPTURE_0** の場合、キャプチャレジスタ 0 の値を読み込み、**CapReg** が **TMRB_CAPTURE_1** の場合、キャプチャレジスタ 1 の値を読み込みます。

戻り値:

キャプチャされた値

14.2.3.13 TMRB_ExecuteSWCapture

ソフトウェアキャプチャの実行

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_ExecuteSWCapture(TSB_TB_TypeDef* TBx)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

機能:

キャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込みます。

戻り値:

なし

14.2.3.14 TMRB_SetIdleMode

IDLE 時の動作設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetIdleMode(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

NewState: IDLE 時の動作を指定します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

機能:

NewState が **ENABLE** の場合、IDLE 時でも TMRB チャンネルは動作します。**DISABLE** の場合、IDLE 時は動作を停止します。

戻り値:

なし

14.2.3.15 TMRB_SetSyncMode

同期モードの切り替え

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetSyncMode(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを以下から選択します。

TSB_TB1, TSB_TB2, TSB_TB3, TSB_TB5, TSB_TB6, TSB_TB7

NewState: 同期モードを切り替えます。

- **ENABLE:** 同期動作
- **DISABLE:** 個別動作(チャンネル毎)

機能:

TMRB1~TMRB3 を同期モードに設定すると、TMRB0 のスタートに同期して動作がスタートし、TMRB5~TMRB7 を同期モードに設定すると、TMRB4 のスタートに同期して動作がスタートします。

戻り値:

なし

補足:

同期モードを使用するために、TMRB0, TMRB4 のカウントを開始する前に、**TMRB_SetRunState()** によって TMRB1~TMRB3、TMRB5~TMRB7 をスタートしてください。

14.2.3.16 TMRB_SetDoubleBuf

ダブルバッファ動作の制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetDoubleBuf(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState,  
                  uint8_t WriteRegMode)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

NewState: ダブルバッファの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

WriteRegMode: ダブルバッファがイネーブルの場合のタイマレジスタ 0 および 1 への書き込みタイミングを指定します。

- **TMRB_WRITE_REG_SEPARATE:** タイマレジスタ 0 および 1 は個別に書き込みが可能です。一方のレジスタのみ書き込み準備が完了した場合も同様です。
- **TMRB_WRITE_REG_SIMULTANEOUS:** 両方のレジスタの書き込み準備が完了していない場合、タイマレジスタ 0 および 1 への書き込みはできません。

機能:

TBxRG0 レジスタ(**LeadingTiming**)と TBxRG1 (**TrailingTiming**)およびこれらのバッファは、同一アドレスへ割り付けられます。ダブルバッファがディセーブルの場合、同一の値はレジスタとそのバッファに書き込まれます。

ダブルバッファがイネーブルの場合、その値は各レジスタのバッファのみに書き込まれます。そのため初期値をレジスタ(TBxRG0 (**LeadingTiming**) および TBxRG1 (**TrailingTiming**))へ書き込むためには、ダブルバッファは **DISABLE** に設定してください。その後、イネーブルのダブルバッファには、レジスタへ書き込む次のデータが書き込まれます。データは対応する割り込みが発生した場合に自動的にロードされます。

戻り値:

なし

14.2.3.17 TMRB_SetExtStartTrg

外部トリガの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetExtStartTrg (TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                     FunctionalState NewState,  
                     uint8_t TrgMode)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

NewState: カウントスタート方法を選択します。

➤ **ENABLE**: 外部トリガ

➤ **DISABLE**: ソフトスタート

TrgMode: 外部トリガのアクティブエッジを選択します。

➤ **TMRB_TRG_EDGE_RISING**: 立ち上がりエッジ

➤ **TMRB_TRG_EDGE_FALLING**: 立ち下りエッジ

機能:

外部トリガによる変換開始の有無とアクティブエッジの設定を行います。

戻り値:

なし

14.2.3.18 TMRB_SetClkInCoreHalt

デバッグ HALT 中のクロック動作

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetClkInCoreHalt (TSB_TB_TypeDef* TBx, uint8_t ClkState)
```

引数:

TBx: TMRB チャンネルを指定します。

ClkState: デバッグ HALT 中のクロック動作を選択します。

➤ **TMRB_RUNNING_IN_CORE_HALT**: 動作

➤ **TMRB_STOP_IN_CORE_HALT**: 停止

機能:

デバッグツール使用時に HALT モードに遷移した場合、TMRB クロック動作/停止の設定を行ないます。

戻り値:

なし

14.2.4 データ構造

14.2.4.1 TMRB_InitTypeDef

メンバ:

```
uint32_t
```

Mode: タイマモードを選択します。

- **TMRB_INTERVAL_TIMER:** インタバルタイマ
- **TMRB_EVENT_CNT:** イベントカウンタモード

uint32_t

ClkDiv: インタバルタイマのソースクロックの分周を選択します。

- **TMRB_CLK_DIV_2:** fperiph / 2
- **TMRB_CLK_DIV_8:** fperiph / 8
- **TMRB_CLK_DIV_32:** fperiph / 32

uint32_t

TrailingTiming: TBnRG1 へ書き込む周期 (最大 0xFFFF)

uint32_t

UpCntCtrl: アップカウンタの動作を選択します。

- **TMRB_FREE_RUN:** 周期が一致した後も、0xFFFF になるまでアップカウンタは停止しません。その後、カウンタがクリアされ、0 からカウントを開始します。
- **TMRB_AUTO_CLEAR:** **TrailingTiming** と一致したときに、0 クリアされ、再スタートします。

uint32_t

LeadingTiming: TBnRG0 に書き込むデューティ (最大 0xFFFF)。**TrailingTiming** 以上の値を設定できません。

14.2.4.2 TMRB_FFOutputTypeDef

メンバ:

uint32_t

FlipflopCtrl: フリップフロップのレベルを選択します。

- **TMRB_FLIPFLOP_INVERT:** TBxFF0 の値を反転(ソフト反転)します。
- **TMRB_FLIPFLOP_SET:** TBxFF0 を"1"にセットします。
- **TMRB_FLIPFLOP_CLEAR:** TBxFF0 を"0"にクリアします。

uint32_t

FlipflopReverseTrg: 以下から、フリップフロップの反転トリガを選択します。

- **TMRB_DISALBE_FLIPFLOP:** 反転トリガを無効にします。
- **TMRB_FLIPFLOP_TAKE_CATPURE_0:** アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 0 に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB_FLIPFLOP_TAKE_CATPURE_1:** アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 1 に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB_FLIPFLOP_MATCH_TRAILINGTIMING:** アップカウンタと周期との一致時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB_FLIPFLOP_MATCH_LEADINGTIMING:** アップカウンタとデューティとの一致時にタイマフリップフロップを反転します。

14.2.4.3 TMRB_INTFactor

メンバ:

uint32_t

All: TMRB 割り込み要因

ビットフィールド:

uint32_t

MatchLeadingTiming: 1 デューティとの一致検出

uint32_t

MatchTrailingTiming: 1 周期との一致検出

uint32_t

OverFlow: 1 オーバーフロー

uint32_t

Reserverd: 29 -

15. SIO/UART

15.1 概要

本デバイスのシリアル I/O チャンネルは、I/O インタフェースモード(同期通信)と 7, 8, 9 ビット長の UART モード(非同期通信)を実装しています。9 ビット UART モードでは、シリアルリンク(マルチコントローラ・システム)でマスタコントローラがスレーブコントローラを起動するときにウェイクアップ機能が使用されます。

本ドライバは、ボーレート、ビット長、パリティチェック、ストップビット、フローコントロールなどの各チャンネルの設定に関する関数、およびデータ送受信、エラーチェックなどの動作に関する機能を備えています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_uart.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_uart.h

15.2 API 関数

15.2.1 関数一覧

- ◆ void UART_Enable(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**)
- ◆ void UART_Disable(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**)
- ◆ WorkState UART_GetBufState(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**, uint8_t **Direction**)
- ◆ void UART_SWReset(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**)
- ◆ void UART_Init(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**, UART_InitTypeDef* **InitStruct**)
- ◆ uint32_t UART_GetRxData(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**)
- ◆ void UART_SetTxData(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**, uint32_t **Data**)
- ◆ void UART_DefaultConfig(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**)
- ◆ UART_Err UART_GetErrState(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**)
- ◆ void UART_SetWakeUpFunc(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**,
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART_SetIdleMode(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART_FIFOConfig(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART_SetFIFOTransferMode(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**,
uint32_t **TransferMode**)
- ◆ void UART_TRxAutoDisable(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**,
UART_TRxDisable **TRxAutoDisable**)
- ◆ void UART_RxFIFOINTCtrl(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART_TxFIFOINTCtrl(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART_RxFIFOByteSel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, uint32_t **BytesUsed**)
- ◆ void UART_RxFIFOFillLevel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, uint32_t **RxFIFOLevel**)
- ◆ void UART_RxFIFOINTSel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, uint32_t **RxINTCondition**)
- ◆ void UART_RxFIFOClear(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)
- ◆ void UART_TxFIFOFillLevel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, uint32_t **TxFIFOLevel**)
- ◆ void UART_TxFIFOINTSel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**, uint32_t **TxINTCondition**)
- ◆ void UART_TxFIFOClear(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)
- ◆ uint32_t UART_GetRxFIFOFillLevelStatus(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)
- ◆ uint32_t UART_GetRxFIFOOverRunStatus(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)
- ◆ uint32_t UART_GetTxFIFOFillLevelStatus(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)
- ◆ uint32_t UART_GetTxFIFOUnderRunStatus(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)

- ◆ void SIO_Enable(TSB_SC_TypeDef * SIOx)
- ◆ void SIO_Disable(TSB_SC_TypeDef * SIOx)
- ◆ uint8_t SIO_GetRxData(TSB_SC_TypeDef * SIOx)
- ◆ void SIO_SetTxData(TSB_SC_TypeDef * SIOx, uint8_t Data)
- ◆ void SIO_Init(TSB_SC_TypeDef * SIOx, uint32_t IOClkSel,
SIO_InitTypeDef * InitStruct)

15.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。:

- 1) 初期化と設定:
UART_Enable(), UART_Disable(), UART_Init(), UART_DefaultConfig(),
SIO_Enable(), SIO_Disable(), SIO_Init()
- 2) 送受信設定とエラー確認:
UART_GetBufState(), UART_GetRxData(), UART_SetTxData(),
UART_GetErrState(), SIO_GetRxData(), SIO_SetTxData()
- 3) その他:
UART_SWReset(), UART_SetWakeUpFunc(), UART_SetIdleMode()
- 4) FIFO 制御:
UART_FIFOConfig(), UART_SetFIFOTransferMode(), UART_RxFIFOINTCtrl(),
UART_TxFIFOINTCtrl(), UART_RxFIFOByteSel(), UART_RxFIFOFillLevel(),
UART_RxFIFOINTSel(), UART_RxFIFOClear(), UART_TxFIFOFillLevel(),
UART_TxFIFOINTSel(), UART_TxFIFOClear(), UART_GetRxFIFOFillLevelStatus(),
UART_GetRxFIFOOverRunStatus(), UART_GetTxFIFOFillLevelStatus(),
UART_GetTxFIFOUnderRunStatus()

15.2.3 関数仕様

補足: 引数に記述している“TSB_SC_TypeDef* **UARTx**” は、以下から選択してください。

- **TMPM381**: UART0, UART1, UART2
- **TMPM383**: UART0, UART1

また、“TSB_SC_TypeDef* **SIOx**” は、以下から選択してください。

- **TMPM381**: SIO0, SIO1, SIO2
- **TMPM383**: SIO0, SIO1

15.2.3.1 UART_Enable

UART 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Enable(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

UART 動作を許可します。

戻り値:

なし

15.2.3.2 UART_Disable

UART 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Disable(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

UART 動作を禁止します。

戻り値:

なし

15.2.3.3 UART_GetBufState

送受信バッファ状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
WorkState  
UART_GetBufState(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
uint8_t Direction)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

Direction: 送信/受信を選択します。

- **UART_RX**: 受信
- **UART_TX**: 送信

機能:

Direction が **UART_RX** の場合、以下の受信バッファの状態を返します。

DONE: 受信データはバッファに保存済み

BUSY: データ受信

Direction が **UART_TX** の場合、以下の送信バッファの状態を返します。

DONE: バッファ中のデータは送信済み

BUSY: データ送信中

戻り値:

DONE: バッファリード/ライト可能状態

BUSY: 送受信

15.2.3.4 UART_SWReset

ソフトウェアリセット

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_SWReset(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

ソフトウェアリセットが発生します。

戻り値:

なし

15.2.3.5 UART_Init

UART チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Init(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
           UART_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

InitStruct: UART に関する構造体です。(詳細は“データ構造”を参照)

機能:

ボーレート、ビット単位の転送、ストップビット、パリティ、転送モード、フローコントロールなどの初期設定を行います。

戻り値:

なし

15.2.3.6 UART_GetRxData

受信データの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetRxData(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信データを読み込みます。**UART_GetBufState(UARTx, UART_RX)**にて **DONE**を読み出した後、もしくは UART (シリアルチャネル) 割り込み関数の中で実行してください。

戻り値:

受信データです。データ範囲は 0x00~0x1FF です

15.2.3.7 UART_SetTxData

送信データの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_SetTxData(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
               uint32_t Data)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

Data: 送信データ(7 ビット、8 ビット、9 ビット)

機能:

送信データを設定します。**UART_GetBufState(UARTx, UART_TX)**にて **DONE** を読み出した後、もしくは UART (シリアルチャンネル) 割り込み関数の中で実行してください。

戻り値:

なし

15.2.3.8 UART_DefaultConfig

デフォルト構成での初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_DefaultConfig(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

以下の構成で初期化します:

ボーレート: 115200 bps

データ長: 8 ビット

ストップビット: 1 ビット

パリティ: なし

フローコントロール: なし

送受信有効。ボーレートジェネレータはソースクロックとして使用。

戻り値:

なし

15.2.3.9 UART_GetErrState

転送エラーフラグの読み出し

関数のプロトタイプ宣言:

```
UART_Err  
UART_GetErrState(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

転送エラーフラグを読み出します。

戻り値:

UART_NO_ERR: エラーなし

UART_OVERRUN: オーバーランエラー

UART_PARITY_ERR: パリティエラー

UART_FRAMING_ERR: フレーミングエラー

UART_ERRS: 上記の 2 つ以上のエラーが発生している

15.2.3.10 UART_SetWakeUpFunc

9 ビットモード時のウェイクアップ機能の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART_SetWakeUpFunc(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**,
FunctionalState **NewState**)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

NewState: ウェイクアップ機能の有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 有効
- **DISABLE**: 無効

機能:

9 ビットモード時のウェイクアップ機能を設定します。

NewState が **ENABLE** の場合、ウェイクアップ機能を有効に、

NewState が **DISABLE** の場合、ウェイクアップ機能を無効に設定します。

ウェイクアップ機能は、9 ビットモード時のみ機能します。

戻り値:

なし

15.2.3.11 UART_SetIdleMode

IDLE 時の動作

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART_SetIdleMode(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**,
FunctionalState **NewState**)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

NewState: IDLE 時の動作を選択します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

機能:

IDLE 時の動作を選択します。

NewState が **ENABLE** の場合、IDLE 時でも UART チャンネルは動作します。**DISABLE** の場合、IDLE 時は動作を停止します。

戻り値:

なし

15.2.3.12 UART_FIFOConfig

FIFO の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_FIFOConfig(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                 FunctionalState NewState)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

NewState: FIFO の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

FIFO の許可/禁止を選択します。

NewState が **ENABLE** の場合、FIFO を許可します。**DISABLE** の場合、FIFO を禁止します。

戻り値:

なし

15.2.3.13 UART_SetFIFOTransferMode

転送モードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_SetFIFOTransferMode(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                          uint32_t TransferMode)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

TransferMode: 転送モードを選択します。

- **UART_TRANSFER_PROHIBIT**: 転送禁止
- **UART_TRANSFER_HALFDPX_RX**: 半二重(受信)
- **UART_TRANSFER_HALFDPX_TX**: 半二重(送信)
- **UART_TRANSFER_FULLDPX**: 全二重

機能:

転送モードを選択します。

戻り値:

なし

15.2.3.14 UART_TRxAutoDisable

送信/受信の自動禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TRxAutoDisable(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                    UART_TRxDisable TRxAutoDisable)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

TRxAutoDisable: 送信/受信の自動禁止機能を制御します。

- **UART_RTXCNT_NONE**: なし
- **UART_RTXCNT_AUTODISABLE**: 自動禁止

機能:

送信/受信の自動禁止機能を制御します。

戻り値:

なし

15.2.3.15 UART_RxFIFOINTCtrl

受信 FIFO 使用時の受信割り込み許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOINTCtrl(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                   FunctionalState NewState)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

NewState: 受信 FIFO 使用時の受信割り込みの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

受信 FIFO 有効にされている時の受信割り込みの許可/禁止を切り替えます。

戻り値:

なし

15.2.3.16 UART_TxFIFOINTCtrl

送信 FIFO 使用時の送信割り込み許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TxFIFOINTCtrl(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                   FunctionalState NewState)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

NewState: 送信 FIFO 使用時の送信割り込みの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

機能:

送信 FIFO 有効にされている時の送信割り込みの許可/禁止を切り替えます。

戻り値:

なし

15.2.3.17 UART_RxFIFOByteSel

受信 FIFO 使用バイト数

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART_RxFIFOByteSel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**,
uint32_t **BytesUsed**)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

BytesUsed: 受信 FIFO 使用バイト数を設定します。

- **UART_RXFIFO_MAX:** 最大
- **UART_RXFIFO_RXFLEVEL:** 受信 FIFO の FILL レベルに同じ

機能:

受信 FIFO 使用バイト数を設定します。

戻り値:

なし

15.2.3.18 UART_RxFIFOFillLevel

受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART_RxFIFOFillLevel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**,
uint32_t **RxFIFOLevel**)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

RxFIFOLevel: 受信 FIFO の fill レベルを選択します。

RxFIFOLevel	半二重	全二重
UART_RXFIFO4B_FLEVLE_4_2B	4 バイト	2 バイト
UART_RXFIFO4B_FLEVLE_1_1B	1 バイト	1 バイト
UART_RXFIFO4B_FLEVLE_2_2B	2 バイト	2 バイト
UART_RXFIFO4B_FLEVLE_3_1B	3 バイト	1 バイト

機能:

受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベルを選択します。

戻り値:

なし

15.2.3.19 UART_RxFIFOINTSel

受信割り込み発生条件の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOINTSel(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
uint32_t RxINTCondition)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

RxINTCondition: 受信 割り込み発生条件を選択します。

- **UART_RFIS_REACH_FLEVEL**: FIFO fill レベル==割り込み発生 fill レベル
- **UART_RFIS_REACH_EXCEED_FLEVEL**: FIFO fill レベル≤割り込み発生 fill レベル

機能:

受信割り込み発生条件を選択します。

戻り値:

なし

15.2.3.20 UART_RxFIFOClear

受信 FIFO クリア

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOClear(TSB_SC_TypeDef * UARTx)
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO をクリアします。

戻り値:

なし

15.2.3.21 UART_TxFIFOFillLevel

送信割り込みが発生する送信 FIFO の fill レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TxFIFOFillLevel(TSB_SC_TypeDef * UARTx,
```

uint32_t *TxFIFOLevel*)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

TxFIFOLevel: 受信 FIFO の fill レベルを選択します。

<i>TxFIFOLevel</i>	半二重	全二重
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_0_0B	Empty	Empty
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_1_1B	1 バイト	1 バイト
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_2_0B	2 バイト	Empty
UART_TXFIFO4B_FLEVLE_3_1B	3 バイト	1 バイト

機能:

送信割り込みが発生する送信 FIFO の fill レベルを選択します。

戻り値:

なし

15.2.3.22 UART_TxFIFOINTSel

送信割り込み発生条件の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART_TxFIFOINTSel(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**,
uint32_t *TxINTCondition*)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

TxINTCondition: 受信 割り込み発生条件を選択します。

- **UART_TFIS_REACH_FLEVEL**: FIFO fill レベル==割り込み発生 fill レベル
- **UART_TFIS_REACH_EXCEED_FLEVEL**: FIFO fill レベル≤割り込み発生 fill レベル

機能:

送信割り込み発生条件を選択します。

戻り値:

なし

15.2.3.23 UART_TxFIFOClear

送信 FIFO クリア

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART_TxFIFOClear(TSB_SC_TypeDef * **UARTx**)

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO をクリアします。

戻り値:
なし

15.2.3.24 UART_GetRxFIFOFillLevelStatus

受信 FIFO の fill レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetRxFIFOFillLevelStatus(TSB_SC_TypeDef* UARTx);
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO の fill レベルを取得します。

戻り値:

- **UART_TRXFIFO_EMPTY**: Empty
- **UART_TRXFIFO_1B**: 1 バイト
- **UART_TRXFIFO_2B**: 2 バイト
- **UART_TRXFIFO_3B**: 3 バイト
- **UART_TRXFIFO_4B**: 4 バイト

15.2.3.25 UART_GetRxFIFOOverRunStatus

受信 FIFO オーバーラン状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetRxFIFOOverRunStatus(TSB_SC_TypeDef* UARTx);
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO オーバーラン状態を取得します。

戻り値:

UART_RXFIFO_OVERRUN: オーバーラン発生

15.2.3.26 UART_GetTxFIFOFillLevelStatus

送信 FIFO の fill レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
UART_GetTxFIFOFillLevelStatus(TSB_SC_TypeDef* UARTx);
```

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO の fill レベルの取得

戻り値:

- **UART_TRXFIFO_EMPTY**: Empty
- **UART_TRXFIFO_1B**: 1 バイト
- **UART_TRXFIFO_2B**: 2 バイト
- **UART_TRXFIFO_3B**: 3 バイト
- **UART_TRXFIFO_4B**: 4 バイト

15.2.3.27 UART_GetTxFIFOUnderRunStatus

送信 FIFO オーバーラン状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

uint32_t

UART_GetTxFIFOUnderRunStatus(TSB_SC_TypeDef* **UARTx**);

引数:

UARTx: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO オーバーラン状態を取得します。

戻り値:

UART_TXFIFO_UNDERRUN: オーバーラン発生

15.2.3.28 SIO_Enable

SIO 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void

SIO_Enable(TSB_SC_TypeDef* **SIOx**)

引数:

SIOx: SIO チャンネルを指定します。

機能:

SIO 動作を許可します。

戻り値:

なし

15.2.3.29 SIO_Disable

SIO 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void
SIO_Disable(TSB_SC_TypeDef* **SIOx**)

引数:

SIOx: SIO チャンネルを指定します。

機能:

SIO 動作を禁止します。

戻り値:

なし

15.2.3.30 SIO_GetRxData

受信用バッファの取得

関数のプロトタイプ宣言:

uint32_t
SIO_GetRxData(TSB_SC_TypeDef* **SIOx**)

引数:

SIOx: SIO チャンネルを指定します。

機能:

受信用バッファを取得します。

戻り値:

受信用バッファ(値の範囲は 0x00 ~ 0xFF です)

15.2.3.31 SIO_SetTxData

送信用バッファの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
SIO_SetTxData(TSB_SC_TypeDef* **SIOx**,
uint8_t **Data**)

引数:

SIOx: SIO チャンネルを指定します。

Data: 送信用バッファ

機能:

送信用バッファを指定します。

戻り値:

なし

15.2.3.32 SIO_Init

SIO チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SIO_Init(TSB_SC_TypeDef* SIOx,  
          uint32_t IOClkSel,  
          SIO_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

SIOx: SIO チャンネルを指定します。

IOClkSel: クロックを選択します。

➤ **SIO_CLK_BAUDRATE**: ボーレートジェネレータ

➤ **SIO_CLK_SCLKINPUT**: SCLKx 端子入力

InitStruct: SIO に関する構造体です。(詳細は“データ構造”を参照)

機能:

ボーレート、転送方向、転送モードなどの初期設定を行います。

戻り値:

なし

15.2.4 データ構造

15.2.4.1 UART_InitTypeDef

メンバ:

uint32_t

BaudRate: UART 通信ボーレートを 2400(bps) から 115200(bps) に設定。(*)

uint32_t

DataBits: 転送ビット数を選択します。

➤ **UART_DATA_BITS_7**: 7 ビットモード

➤ **UART_DATA_BITS_8**: 8 ビットモード

➤ **UART_DATA_BITS_9**: 9 ビットモード

uint32_t

StopBits: ストップビット長を選択します。

➤ **UART_STOP_BITS_1**: 1 ビット

➤ **UART_STOP_BITS_2**: 2 ビット

uint32_t

Parity: パリティを選択します。

➤ **UART_NO_PARITY**: パリティなし

➤ **UART_EVEN_PARITY**: 偶数(Even) パリティ

➤ **UART_ODD_PARITY**: 偶数(Even) パリティ

uint32_t

Mode: 転送モードを選択します。送受信の場合は、送信と受信を OR 演算子によって接続して指定してください。

➤ **UART_ENABLE_TX**: 送信許可

➤ **UART_ENABLE_RX**: 受信許可

uint32_t

FlowCtrl: フローコントロールモードを選択します(**)。

- **UART_NONE_FLOW_CTRL:** CTS 無効

*: fperiph の周波数が高すぎる、または、低すぎると、ボーレートが正しく設定できない場合があります。

** : UART_NONE_FLOW_CTRL のみサポートしています。

15.2.4.2 SIO_InitTypeDef

メンバ:

uint32_t

InputClkEdge: 入力クロックエッジを選択します。

- **SIO_SCLKS_TXDF_RXDR:** SCLKx の立ち下がリエッジで送信バッファのデータを 1bit ずつ TXDx 端子へ出力します。SCLKx の立ち上がりエッジで RXDx 端子のデータを 1bit ずつ受信バッファに取り込みます。この時、SCLKx は High レベルからスタートします。
- **SIO_SCLKS_TXDR_RXDF:** SCLKx の立ち上がりエッジで送信バッファのデータを 1bit ずつ TXDx 端子へ出力します。SCLKx の立ち下がリエッジで RXDx 端子のデータを 1bit ずつ受信バッファに取り込みます。この時、SCLKx は Low レベルからスタートします。

uint32_t

IntervalTime: 連続転送時のインターバル時間を選択します。

- **SIO_SINT_TIME_NONE:** なし
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_1:** 1*SCLK
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_2:** 2*SCLK
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_4:** 4*SCLK
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_8:** 8*SCLK
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_16:** 16*SCLK
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_32:** 32*SCLK
- **SIO_SINT_TIME_SCLK_64:** 64*SCLK

uint32_t

TransferMode: 転送モードを選択します。

- **SIO_TRANSFER_PROHIBIT:** 転送禁止
- **SIO_TRANSFER_HALFDPX_RX:** 半二重(受信)
- **SIO_TRANSFER_HALFDPX_TX:** 半二重(送信)
- **SIO_TRANSFER_FULLDPX:** 全二重

uint32_t

TransferDir: 転送方向を選択します。

- **SIO_LSB_FRIST:** LSB FRIST
- **SIO_MSB_FRIST:** MSB FRIST

uint32_t

Mode: 送受信を制御します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **SIO_ENABLE_TX:** 送信許可
- **SIO_ENABLE_RX:** 受信許可

uint32_t

DoubleBuffer: ダブルバッファの許可/禁止を選択します。

- **SIO_WBUF_ENABLE:** 許可

- **SIO_WBUF_DISABLE:** 禁止

uint32_t

BaudRateClock: ボーレートジェネレータ入力クロックを選択します。

- **SIO_BR_CLOCK_T1:** $\phi T1$
- **SIO_BR_CLOCK_T4:** $\phi T4$
- **SIO_BR_CLOCK_T16:** $\phi T16$
- **SIO_BR_CLOCK_T64:** $\phi T64$

uint32_t

Divider: 分周値"N"を選択します。

- **SIO_BR_DIVIDER_16:** 16 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_1:** 1 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_2:** 2 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_3:** 3 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_4:** 4 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_5:** 5 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_6:** 6 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_7:** 7 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_8:** 8 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_9:** 9 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_10:** 10 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_11:** 11 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_12:** 12 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_13:** 13 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_14:** 14 分周
- **SIO_BR_DIVIDER_15:** 15 分周

16. VLTD

16.1 概要

電圧検出回路は、電源電圧の低下を検出し、リセット信号を発生します。

VLTD ドライバ API は、VLTD 機能の許可/禁止、検出電圧の設定、電源電圧の状態の取得を設定する関数セットです。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03_Periph_Driver/src/tmpm38x_vltd.c

/Libraries/TX03_Periph_Driver/inc/tmpm38x_vltd.h

16.2 API 関数

16.2.1 関数一覧

- ◆ void VLTD_Enable(void);
- ◆ void VLTD_Disable(void);

16.2.2 関数の種類

上記関数は、次の関係があります。

VLTD の許可/禁止: VLTD_Enable(), VLTD_Disable()

16.2.3 関数仕様

16.2.3.1 VLTD_Enable

電圧検出の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void
VLTD_Enable(void)

引数:

なし

機能:

電圧検出を許可します。

戻り値:

なし

16.2.3.2 VLTD_Disable

電圧検出の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void

VLTD_Disable(void)

引数:

なし

機能:

電圧検出を禁止します。

戻り値:

なし

16.2.4 データ構造:

なし

17. WDT

17.1 概要

ウォッチドッグタイマ(WDT)は、ノイズなどの原因によりCPU が誤動作(暴走)を始めた場合、これを検出し正常な状態に戻すことを目的としています。

WDTドライバの API は、検出時間、カウンタのオーバーフロー時の出力、IDLE モードでの動作設定などの引数等、ウォッチドッグタイマの設定を行う関数を提供します。

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\src\\tmpm38x_wdt.c

\\Libraries\\TX03_Periph_Driver\\incl\\tmpm38x_wdt.h

17.2 API 関数

17.2.1 関数一覧

- ◆ void WDT_SetDetectTime(uint32_t **DetectTime**)
- ◆ void WDT_SetIdleMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void WDT_SetOverflowOutput(uint32_t **OverflowOutput**)
- ◆ void WDT_Init(WDT_InitTypeDef * **InitStruct**)
- ◆ void WDT_Enable(void)
- ◆ void WDT_Disable(void)
- ◆ void WDT_WriteClearCode(void)

17.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。:

- 1) ウォッチドッグタイマ設定:
WDT_SetDetectTime(), WDT_SetOverflowOutput(), WDT_Init(), WDT_Enable(),
WDT_Disable(),WDT_WriteClearCode() functions
- 2) IDLE モード時の開始・停止:
WDT_SetIdleMode()

17.2.3 関数仕様

17.2.3.1 WDT_SetDetectTime

WDT 検出時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void
WDT_SetDetectTime(uint32_t **DetectTime**)

引数:

DetectTime: 以下から検出時間を選択します。

- WDT_DETECT_TIME_EXP_15: 2¹⁵/fsys
- WDT_DETECT_TIME_EXP_17: 2¹⁷/fsys
- WDT_DETECT_TIME_EXP_19: 2¹⁹/fsys
- WDT_DETECT_TIME_EXP_21: 2²¹/fsys
- WDT_DETECT_TIME_EXP_23: 2²³/fsys
- WDT_DETECT_TIME_EXP_25: 2²⁵/fsys

機能:

WDT の検出時間を設定します。

戻り値:

なし

17.2.3.2 WDT_SetIdleMode

IDLE 時の動作選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
WDT_SetIdleMode(FunctionalState NewState)
```

引数:

NewState: 以下から IDLE 時の WDT 動作を選択します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

機能:

本関数は、IDLE モード時の WDT カウンタの動作を設定します。

NewState が **ENABLE** の時は WDT カウンタ停止

NewState が **DISABLE** の時は WDT カウンタ作動

補足:

CPU が IDLE モードに入る前に、引数を選択して本関数を呼び出してください。

戻り値:

なし

17.2.3.3 WDT_SetOverflowOutput

暴走検出後の動作選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
WDT_SetOverflowOutput(uint32_t OverflowOutput)
```

引数:

OverflowOutput: 以下から暴走検出後の動作を選択します。

- **WDT_NMIINT**: INTWDT 割り込み要求を発生します。
- **WDT_WDOUT**: マイコンをリセットします。

機能:

カウンタオーバーフロー時の NMI 割り込み/リセットの設定を行います。

OverflowOutput が **WDT_NMIINT** の時、カウンタオーバーフローが発生すると NMI 割り込みが発生します。

戻り値:

なし

17.2.3.4 WDT_Init

WDT の初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
WDT_Init(WDT_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

InitStruct: カウンタオーバーフロー発生時の WDT 検出時間、WDT 出力の設定を含む WDT 設定に関する構造体。(詳細は“データ構造:”を参照)

機能:

カウンタオーバーフロー発生時の WDT 検出時間、WDT 出力の設定を含む WDT 初期設定。**WDT_SetDetectTime()**, **WDT_SetOverflowOutput()** が呼び出されます。

戻り値:

なし

17.2.3.5 WDT_Enable

WDT 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
WDT_Enable(void)
```

引数:

なし

機能:

WDT 動作を許可します。

戻り値:

なし

17.2.3.6 WDT_Disable

WDT 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
WDT_Disable(void)
```

引数:

なし

機能:

WDT 動作を禁止します。

戻り値:

なし

17.2.3.7 WDT_WriteClearCode

クリアコードの書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

void
WDT_WriteClearCode (void)

引数:

なし

機能:

クリアコードをライトします。

戻り値:

なし

17.2.4 データ構造

17.2.4.1 WDT_InitTypeDef

メンバ:

uint32_t

DetectTime 以下から検出時間を選択します。

- WDT_DETECT_TIME_EXP_15: $2^{15}/f_{sys}$
- WDT_DETECT_TIME_EXP_17: $2^{17}/f_{sys}$
- WDT_DETECT_TIME_EXP_19: $2^{19}/f_{sys}$
- WDT_DETECT_TIME_EXP_21: $2^{21}/f_{sys}$
- WDT_DETECT_TIME_EXP_23: $2^{23}/f_{sys}$
- WDT_DETECT_TIME_EXP_25: $2^{25}/f_{sys}$

uint32_t

OverflowOutput 以下から、カウンタオーバーフロー時の動作を選択します。

- WDT_WDOUT: マイコンをリセットします。
- WDT_NMIINT: INTNMI 割り込み要求を発生します。